

規矩元法

町見辨疑

自一至五

全

七十三番
全

洋学文庫
文庫 8
B 100



規矩元法長驗辨疑序

嘗聞田子少小志于術數孳孳無倦矣
比游予堂聽天文地理漸入其室也於
其暇乎既編類規矩元法長驗辨疑又
請予刪定逐一閱之私心已合鉛槧稍
易見以為優足用世也躍然自喜曰胡
藏諸橐中而予白魚邪請速上木公之

越三十七山
後高日田
國郡市印

乎人間世也田子曰然雖然以世俗語而著之且傳來之編目等陋之至也願竄定爲雅語乎曰不矣何爲惡焉固非術諸君子翅瞻通世俗以用世耳奚必事文華邪譬如蠻語譯中華華語譯此方而通世俗祇以通焉爲是耳若不通焉無利用世教也雖則削俗語新易雅

語而既已不通焉乎則猶資章甫而適諸越與鐘鼓諸聾者與文章諸瞽者與而何爲惡焉殊非所以論文之巧拙者也但在知其事理以贍諸用世而已矣請速行于世想夫聖人有謂掌天下之圖以掌天下之地辨其邦國都鄙四夷八蠻七閩九貉五戎六狄之人民與其

財用九穀六畜之數要周知其利害乃
辨九州之國使同貫利蓋編類此書之
張本歟抑田子積功術數今遂行之世
蓋演暢此術之權輿歟

享保甲寅春三月 西川源正休題



自叙

人一人の心とくはくはくをのま
うもはくはくをのま
事業を以てして止るは分り
事...の道...
書々規矩元法...
亭

学んずるに由りて賢くして海に
洲を穿ててくわん人のと脚
後くは流とてはなるは年
命とては流とては年
流の流とては年
地とては流とては年

しる事業と自らしては流
しる事業と自らしては流
しる事業と自らしては流
しる事業と自らしては流
しる事業と自らしては流
しる事業と自らしては流

西川源道桓

南溪源道桓識



規矩元法町見辨疑卷之一

東都 島田 源道桓 著

崎陽 西川 源正休 閱

或問。今之世間ニ町見術ヲ學フ人多ク其師
ト稱スル者巷ニ滿ツ此術ヲ習ヒ得テ何ノ
益アルヤ大古此ノ町見ノ名有ルヲ聞カズ
何ノ時ヨリ世ニ流布セルヤ分明ナラス。其
來由用ル所ノ旨ヲ聞ク

答曰。町見ノ術。モトニ流アリ。和漢共ニ算家ノ町
見ト外國流ノ町見ト也算家者流ノ町見ハソノ

規矩元法町見辨疑 卷之一

由来久シク其術最モ委ニ。故ニ是非ヲ論ズルニ
及ハズ今吾子問所ノ町見ハ寛永ノ比口異邦ノ
人加須波留ト云者長崎工来リ初テ是ノ術ヲ傳
ヘ夫ヨリシテ世ニ流布セルヨシ其傳記ニ見ヘ
夕リ加須波留ハ紅毛クニテ外科ノ達人其以テ
為ル所ヲ見ルニ三十勾股弦ヨリ出ツ其求ムル
所ノ間町或ハ高低廣狹ノ形勢ヲ盤上ノ紙面ニ
墨線ヲ引摸シ圓規ヲ以テ紙面ヲ計リテ里程ヲ
求メ得ノ術ナリ蓋シ往古町見ノ名ヲ知サルノ
時代モ地理ヲ量リ山川海上ノ遠近高低里程ヲ

求ムルニハ各勾股弦ノ法ニヨツテ算術ヲ以テ
推歩シ求ムルト見ヘ夕リ然レハ今ノ世學ヲ所
ノ町見ト云モノ古ヨリ無ニハ非ス唯算家ノ町
見ト事業異ナルヲ以テ其名目ヲ規矩元法ト改
タメ題ノミ且ツ異客ヨリ傳ヘタルト云ヲ以テ
後人は是ヲ至テ奇巧ノ術トス按スルニ外國ハ文
字ヲ以テ物理ヲ窮ムル事鮮ク專ラ萬物ノ形象
ヲ摸シテ事理ヲ推窮ム故ニ其測器事業ニ於テ
巧妙精絶ナルコト和漢モ及バザルコト稍多ク
天文地理ヲ窮ムルノ事業最モ委ニ是ニヨツテ

勾股弦ノ術モ制作細密ノ器物ヲ以テ直ニ測量
ヲ起シ。其事サ簡易ニシテ速ヤカナリ。斯ノ如キ
人ニヨツテ遠近ヲ測量スルノ術ヲ傳ヘタリト
雖トモ。其事ノ猥リナラニコトヲ恐レテ。其源ヲ
秘シテ偏ク人ニ傳ヘズ。大畧ノ事業ヲ授ケタル
ヲ後人自己ノ臆說ヲ演ヘ妄誕ヲ附會シ。コレヲ
書記シテ傳授トスソノ學ブ者ハ。規矩ノ事物ニ
固有スル事ヲ知ラズ。日々ニ學ニテ。心日々ニ暗
ク。無用ノ筆紙ヲ費シ。是ヲ書寫シ。是秘藏ニシ。何
ノ益アル事ヲ辨ヘズ。雖形狹小ノ器物ヲツク

或ハ紙面ニ勾股合紋ヲ画キ。附會牽合ヲ為テ兒
童ノ翫トスル而已。此ノ本傳ノ條目ヲ閱スルニ。
事理貫通シ。階級ニ意味深ク。其實測ト為スヘキ
者アリ。變化ノ理ヲ業ニ摸シテ說タル者アリ。其
本源ヲ顯ハシタル者アリ。各教示祭然タリト雖
トモ。此傳中頃ヨリ放失シテ。今ニ此ノ術ヲ學ブ
者ハ。事理階級ノ深理ヲ知ラズ。故ニ席上庭中ニ
於テ彼ノ雛形狹小ノ器物ヲ用テ。僅人間尺ヲ量
リテ其術ノ符合スルヲ以テ實トシ。其本元ニ心
ヲ用ユル人スクナク。惑ヒヲ重ヌル事。寔ニ歎ズ

へキナリ。此術ノヨツテ出ル源ト甚意味アリ。口
傳ニ非サレハ辨シ難シ凡町見ヲ用ユル其ノ本
二種アリ第一地理ヲ測ルハ水土ヲ考ヘ邦境ヲ
糾シ國郡ヲ治ムル爲ナリ第二木筒鳥銃ノ遠町
見切ヲ打ノ要用ナリ。此ノ外ノ事用更ニ寡ナシ
學者工夫アルベシ

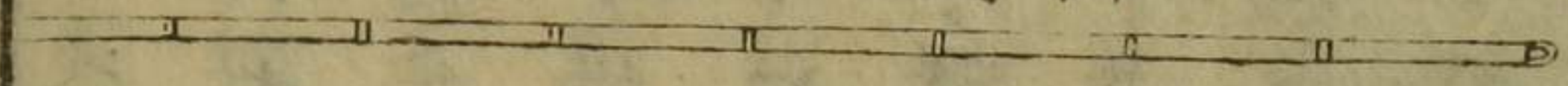
問町見ノ極意コンパス一本ニ止ニルト云
テ長サ二尺或ハ二尺五寸ノ鑱ヲ圓規ニ係
テ。譬へハ向ニ六尺ノ物ヲ挿ニ見ルニ鑱ニ
尺ノ先ナル圓規ニ分開ク時向ノ遠サ百間

ト知り。或ハ向ニ求ムヘキノ場所ニ於テ。種
ニ取ルヘキ間尺ノ物ナキ時ハ先ツ何ニテ
モ目的ニ成ルヘキ物ヲ挿ニ地形ニ前後進
退シテ。又前ノ目的ヲ挿ニ見ルニ最前ニ挿
ミタルハ圓規ノ開キ口。三寸開クトイヘ
退キテ見タル口ハ二寸五分ナリ。此退キタ
ル間數三拾間ナレバ三寸ト二寸五分ノ差
ヒ。五分ヲ以テ三拾間トシテ。三寸ヲ計レハ
六ツ有テ百八拾間ヲ得タリ。此内退キタル
間數三拾間ヲ除テ實ニ求メ得タル間數ハ

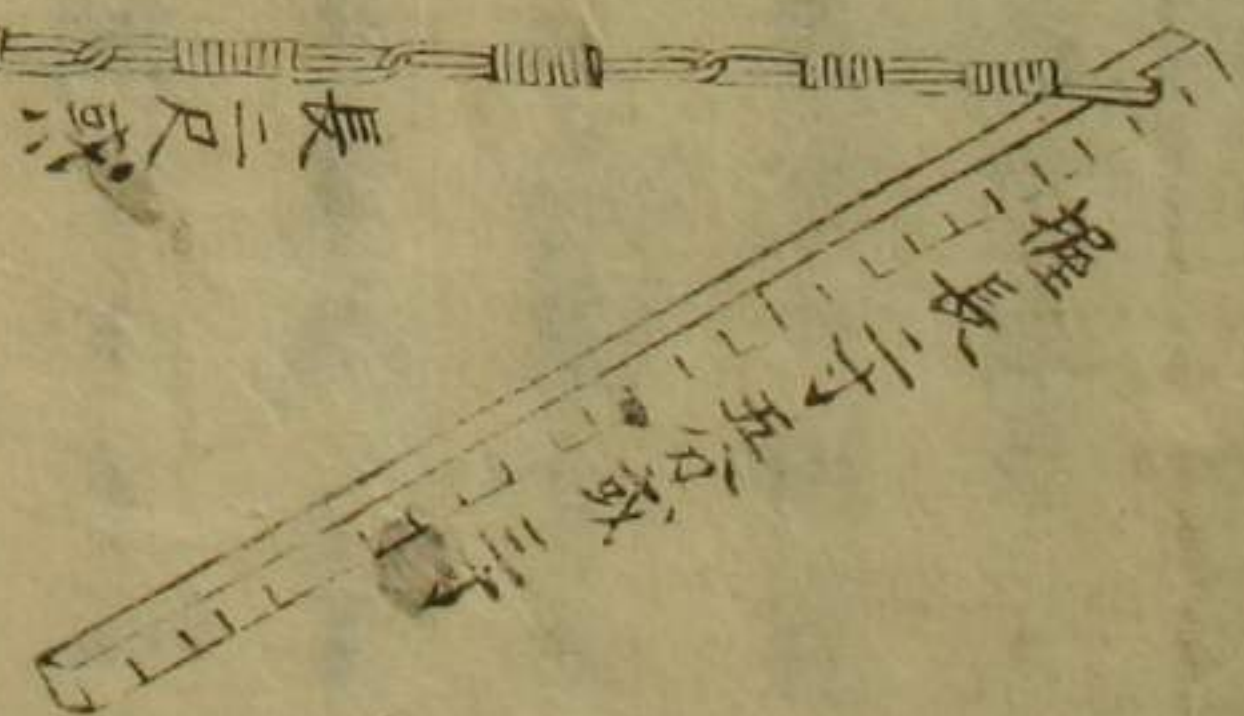
見非元去町見辨疑 卷之一

鑠之圖

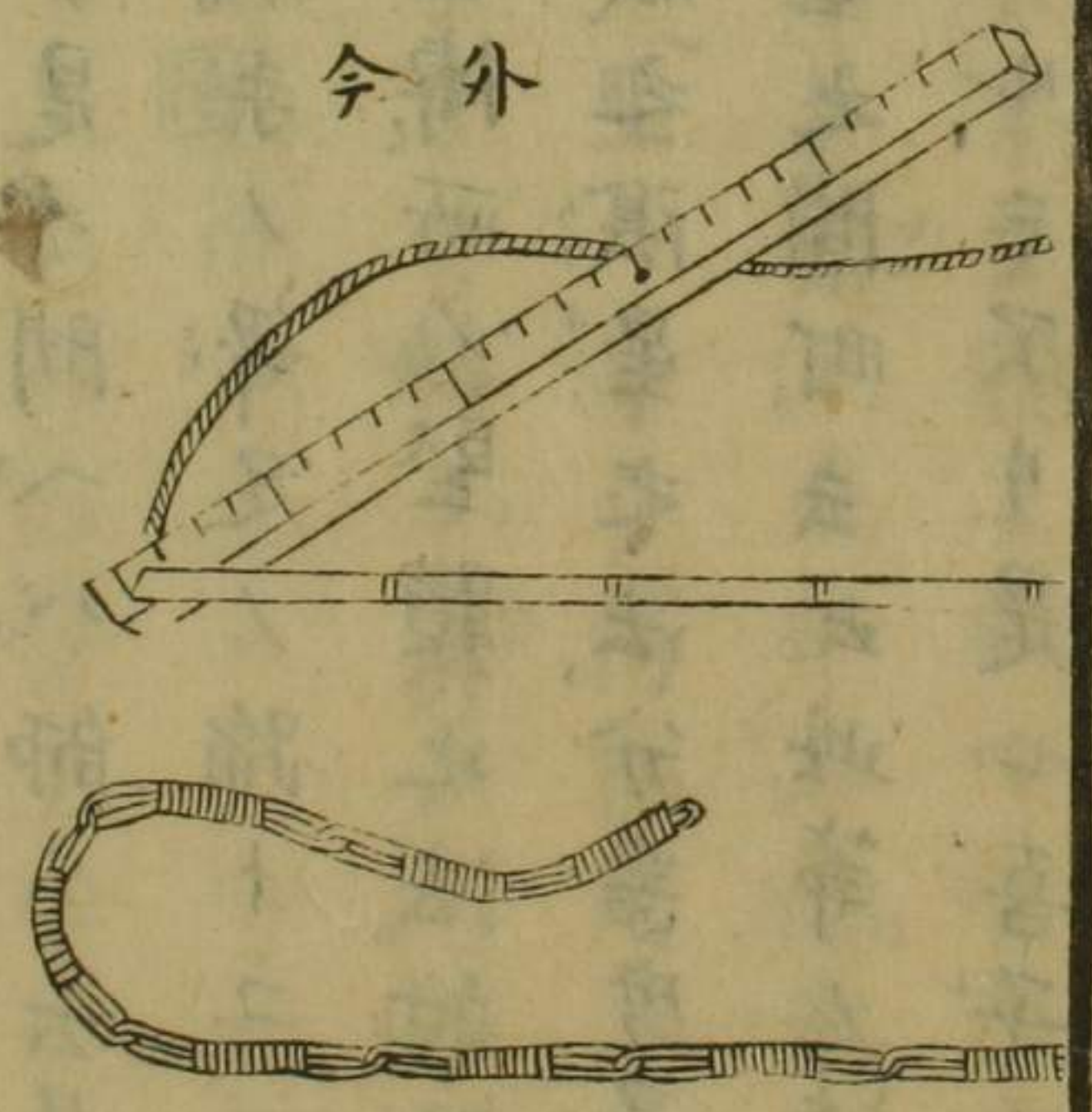
又此如管三制



長二尺或二尺許



鑠、制此ノ外
品多ト難モ今
畧ス



百五拾間ナリ天口地口小異アリト雖トモ
ミナ今イフ所ト意味相同シ。是至極差ハガ
ルノ理ナリ業ナリ然ルニ曠原山野ニ出テ

求ノ量ルノ時。圓規ノ開キ口其差ヒハ顯ハ
 ルト雖トモ。求メタル如ク實ノ間數ハ中ラ
 ス。自然ハ中ル事有リト雖トモ多分ハ違フ
 事多シ猶未夕業ノ熟セハル所以ナラント
 師ニヨリテ是ヲ問ヘバ。師ノ云是平生ニ其
 業ヲ盡シテ。手ノ舞足ノ蹈トコロ。規矩ニ至
 ラサル故也。傳所ノ堅體之法。射形物見方尺
 橫手。手裏藏之。陰星之法。分器度量摸平町筋
 違高下及望之間町云云。此等ノ法ヲツ子ニ
 工夫練熟スルニアリ。是レ吾子ノ勤メニ有

勤ノ三怠ルベカラズト云ヘリ。教ヘニ任セテ
 勤ムル事。年ヲ積トイヘトモ。未夕曾テ事理
 成就ノ場ニ至ル事ヲ得ス。是予カ不敏カ又
 ハ教ノ足ラガル所カ。冀クハ其旨ヲ聞ン

試定規之圖



長二尺 厚三分 幅六分 但好随

鎌ト用法同

答曰師ノ教ヘ足ラガルニ非ス學フ人ノ及ハガ
 ルニ非ス。是レ全體ノ本意ヲ辨ヘガル故ナリ。先
 ツ圓規ヲ以テ百間サキノ目的幅一尺ノ物ヲ挿
 ムニ圓規ノ先ヘ殘ラス隱レテ際限見ヘズ圓規
 兩方ニテ目的一尺ノ中心若シ五寸ツ、一尺外
 ノ方ヲ挿マハ。三拾間ノ退ニテハ三文ノ伸ビ也。
 又五寸ツ、内ノ方ヲ挿メハ五間ノ縮ミナリ百
 度挿ムト雖トモ中ル事ナキ者ナリ是レ中ラサ
 ルノ一ツナリ。又身體ニハ呼吸動搖常ニ絶ヘズ。
 眼力強クシテ少キ目的ヲ細ニ挿ト雖トモ呼吸

ノ動キニ由テ圓規ノサキ定ル事アルヘカラス
 且ツ百間先ニテ五分一寸ノ物ニ至テハ。慥カニ
 見事アタハジ。縦ヒ眼力及ト雖トモ日向日陰風
 霧烟霞ノ障リ有レバ均シク挿ミ得ルト云コト
 難シ。況ヤ遙遠ノ物ニ於テヤ。細密ヲ以テ論セ
 バ。百間先ノ目的モ圓規ノ先ト相同キ物ヲ挿マ
 ガンバ。差ヒ有ル理ナリ是レ亦細密ニ目的ヲ挿
 ムコト有ト雖トモ。呼吸有ルガ故ニ。圓規ノ先キ
 定マルト云事無シ。是レ中ラサルノニツナリ圓
 規ヲ以テ長サ二尺ノ鎌ニ係テ。圓規ノ関キ口ヲ

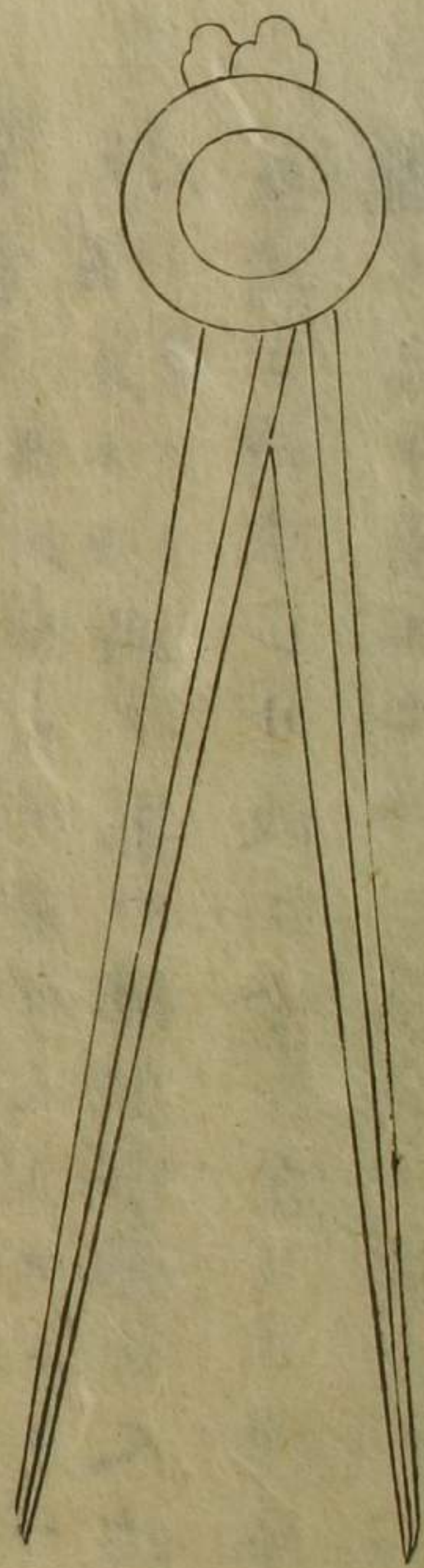
以テ種ノ丈尺ト為テ二尺ヲ計リ索ムルニ先ハ
 二尺ノ止ナル圓規ヲ目的ノ本場トシ。手前ハ持
 タルニ尺ノ終リヲ我カ立タル本場トスベシ。然
 ルニ其二尺ノ鏢ハ我カ眼中ノ瞳ヨリ始ラスン
 ハ長二尺トハ謂ガクシ。鏢ヲ手ニ持。是ヲ目ノ近
 所へ寄セテ目的ヲ見込ミ。先ノ開タル圓規ノ分
 寸ヲ差トシテ二尺ノ鏢ヲ量リテ中ルベキ理十
 シ。是レ中ラサルノ三十リ百發百中ナラズンバ。
 此術ノ奧義圓規一本ニ止マルトハ云ベカラズ
 又試ノ定規ト云モノ有リ。鏢ニテハ伸縮ノ差ヒ

有ルヲ以テ。定規ヲ用ユル制アリト雖トモソノ
 中ラサルノ理ハ又同シ。按スルニ。此術見盤ノ業
 ヲ盡シタル上ノ。勾股弦至極ノ理ヲ説タリ。是ヲ
 以テ實測トスルニハ非ズ然レトモ時ニヨリ所
 ニヨリテ大概ヲ量ルニハ用テ可ナリ。コンパス
 一本ニ止マルト云ハ町見ニ謂ル。三四五ノ理。是
 ニ止マルト云事ナリ。術ノ奧義此ノ業ニ止マル
 ト云ニハ非ズ。然ルニ後人傳へ誤マリテ。實測ニ
 協ヘル至極ノ業ナリトシテ。數品ノ用法ヲ附會
 シテ。初學ノ人ヲ誘クニ。拾間ニ拾間内ニテ試ミ

ルニ略差ハサルヲ以テ。益信用シテ遠近ニ因テ
 大ニ差ヒアル事ヲ辨ヘズ。能其本ヲ正シテ學フ
 ベキナリ。又此一本ヲ町見術ノ極意トスルコト
 深キ意味有ルナリ。口傳ニ非レバ辨シ難シ
 附コシバスト云器。惟リ町見術ノミニ用
 ル物ニハ非ズ。今世ノ人。町見術有ルニヨ
 ワテ。コニパス有ル事ヲ知り。コニパスノ
 用法多端ナルコトヲ知ラズ。且コニパス
 ト名ツクルハ。何國ノ語ナルヲ知ラズ。中
 華ノ制ト思ヒタルカ。或日本ノ制ト思ヒ

タルカ。根發マタ渾發ノ字ヲモツテコノ
 器ノ字トス。此ノ器モト蠻制ナリ。蠻名ニ
 ニテ文字ナシ。コニパスト云モ。阿蘭陀ノ
 語ニハアラス。拂郎察國ノ語ナリ。阿蘭陀
 ニテハ是ヲパスルト云。唐人ハ是ヲ圓規
 ト書ク。都テ此書ニ唐人ト云ハ世俗ノ所
 謂朝鮮人阿蘭陀人ノコトニハ非
 ス。中華本唐此ノ器ハ拂郎察國ノ人始テ
 長崎ニ持來レリ。故ニ今ニ至リテ拂郎察
 國ノ名ヲ用エル者ナリ。今ノ世紅毛人ノ
 持來レル所ノ圓規モ奇巧ノ製造多シ

圓規之圖



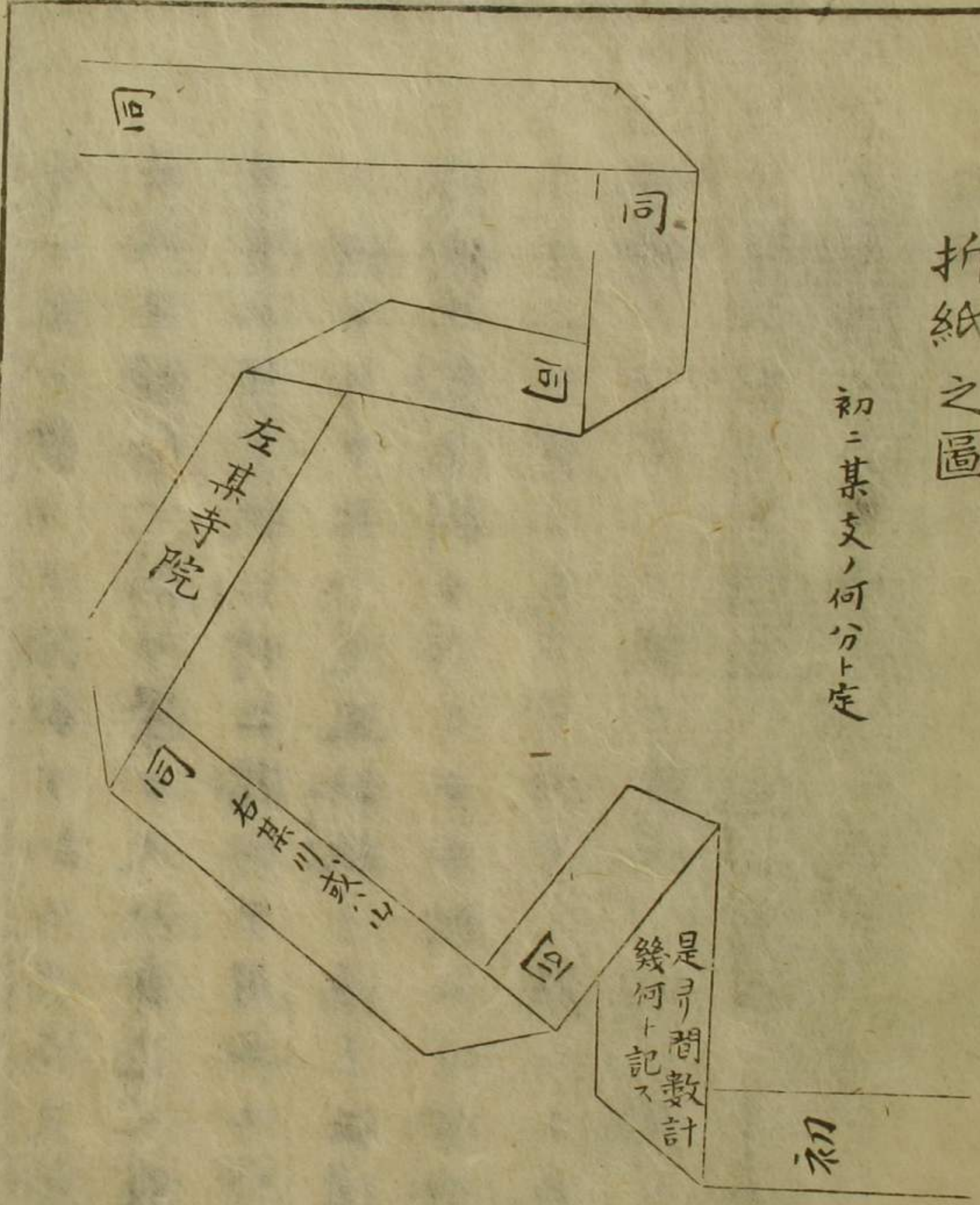
此ノ制數品アリト雖トモ略シテ時ニ
用ユルモノヲ記ス

問、樣脚樣體トイフ傳ニ說アリ。其一說ハ山
陰或目的種トト所ハ人行歩ヲ試シテ其
向ノ遠近廣狹ヲ計リ。或ハ人ヲ以テ種トシ

テ。一本ノ業ニテ間數ヲ知ルナリ。又一說ハ
スベテ規矩ノ法ヲ學ブ人ハ自己ノ肢體ノ
尺寸マテヲ試シ。時ニ臨ンテ用ユルハ規矩
ノ理ナリト云ヘリ。又折紙ノ法ト云傳アリ。
厚紙ヲ裁テ。我カ向ヒタル初メニ方針ヲ以
テ方位ヲ定メ。夫ヨリ行歩ニ隨ツテ左右へ
回轉スルゴトニ。紙ヲ道路ノ形ニ應ジテ折
リ。樣脚ヲ以テ間數ヲ識シ。道路ノ屈曲地圖
ノ大概ヲ知ル事。皆他ノ見聞ヲ忍ノ時ノ要
用也トシ。最モ秘事トス。用テ益有ニカ

折紙之圖

初二某支ノ何分ト定



答曰 據脚ハ器物ヲ離レタリトモ規矩ノ理ニ因
 テ推ストキハ。索メズト云事十ク。規矩ノ事物ニ
 固有セル理ヲ演タリ。據體ハ種ヲ用ヒストイヘ
 ドモ其物ニヨリテ。業ヲ發セハ大概ヲ求ムベキ
 一本ノ働ラキ逼ラガルノ理ヲ云ヘリ。又云據體
 ハ自己ノ寸尺ヲ試シ置テ。事ニヨリテモキユル
 事最モ空シ。按スルニ。此ノ二術。町見ノ業一偏ニ
 逼マラガルノ働キヲ説タル者ナリ。又折紙ノ法
 ト云事。方針ノ働ト異ナラガルヲ示シタリ。據脚
 據體其理一ナリ。委シクハ後ノ地圖ノ説ト合セ

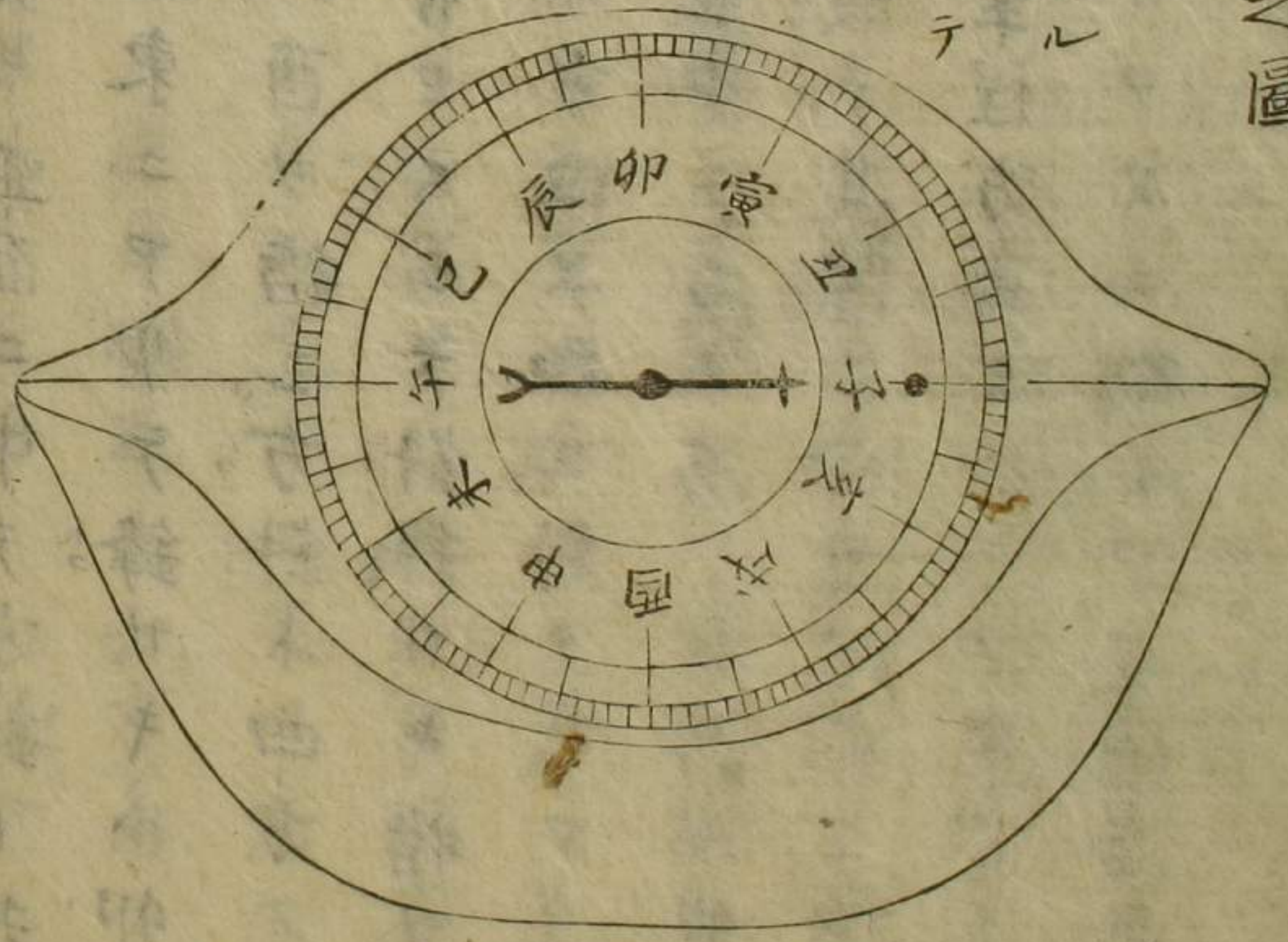
見ルヘシ。此等ノ業ヲ祕傳ト云ヘルコト。別ニ意
味有リ。畢竟^{キウ}コノ業。實測ニ非スト雖トモ。初學ヲ
誘^{ミチ}ビクニ實測ト云テ。事業ヲ切^キ磋^サセシメバ。自然
ト練^{レン}熟^{ジュ}シテ規矩ノ本理ニ至ラシメニ事ヲ欲シ
テナリ。是ヲ以テコレヲ觀レハ。業ニ摸^モシテ祕事
トシ。是ヲ實測ト云モ空ナルカナ
問。忍ノ磁石ト云器アリ。又逆目磁石トモ云。
此ノ器。常例ニ反^シシテ。十二支ヲ左ヘ配^ヘリ。方
位ヲ見ル。故ニ逆目磁石ト云。方角ヲ驗ル時。
子支ヲ以テ自己ノ正面トシ。假^カ令^ニハ東ヲ驗

ムルニ。子支ヲ正面ニ中テ。方^{ホウ}針^シト共ニ東方
ヘ向ニ。子ハ東ニアリテ鋒^{ホウ}サキハ卯ニ指ス。
西ニ向ヘハ酉ヲ指シ。方^{ホウ}針^シト四方ノ十二支
方位ト。交會セズシテ針鋒^シサキ指ヲモツテ
其向ヒタル方位ヲ知ル。針ノ傳アリ。又隨川
器ト云ハ盤中ニ右ノ忍ノ方針ヲ置キ。兩傍
ニ定^{テイ}香^{キウ}ヲ設^セテ。其際^キニ分寸ヲ刻^キシ。河海ヲ舟
行シテ。其里程方角ヲ知ルノ重器トス。又定
香ヲ別ニマフル制モアリ。河海舟行ノ要
用ト云ヘキヤ

見巨元法丁見辛是

忍磁石之圖

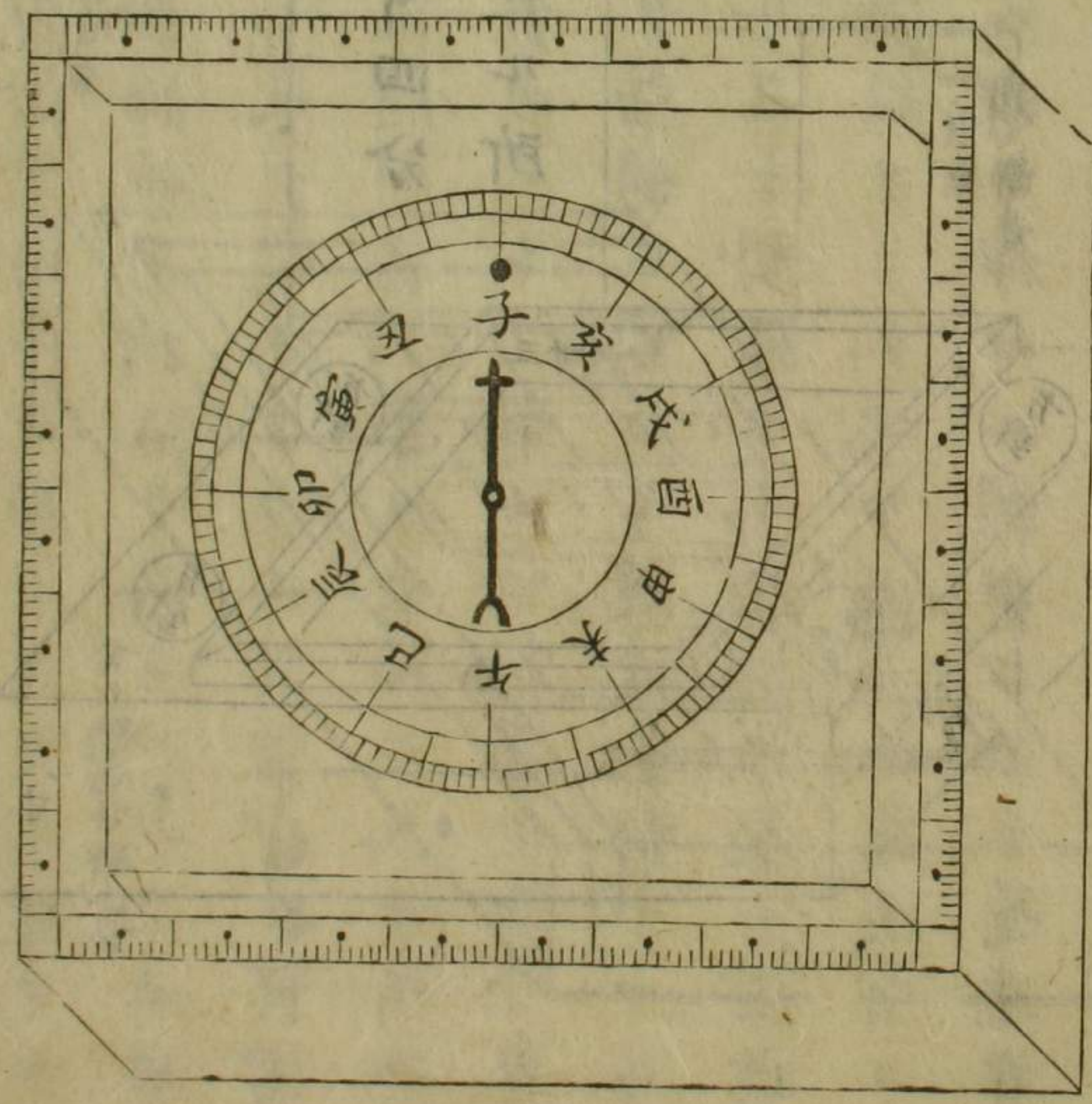
手ノ内ニ収ルル
如ク外ヲ木ニテ
作ル



隨川器之圖

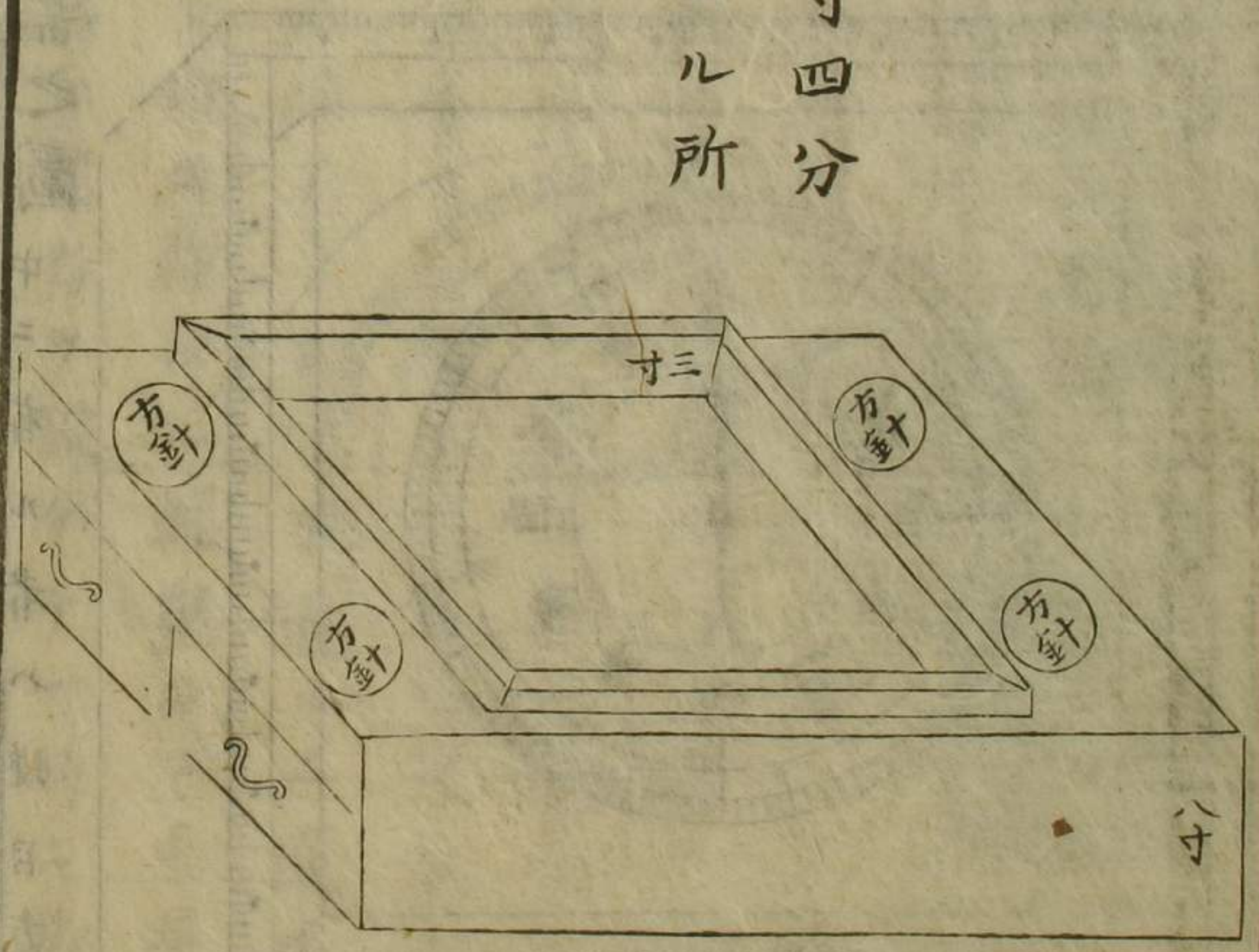
中ニ有ル者ハ逆目方針ナリ

方八寸高三寸
又好ニ隨
四面分寸ヲ
刻ム

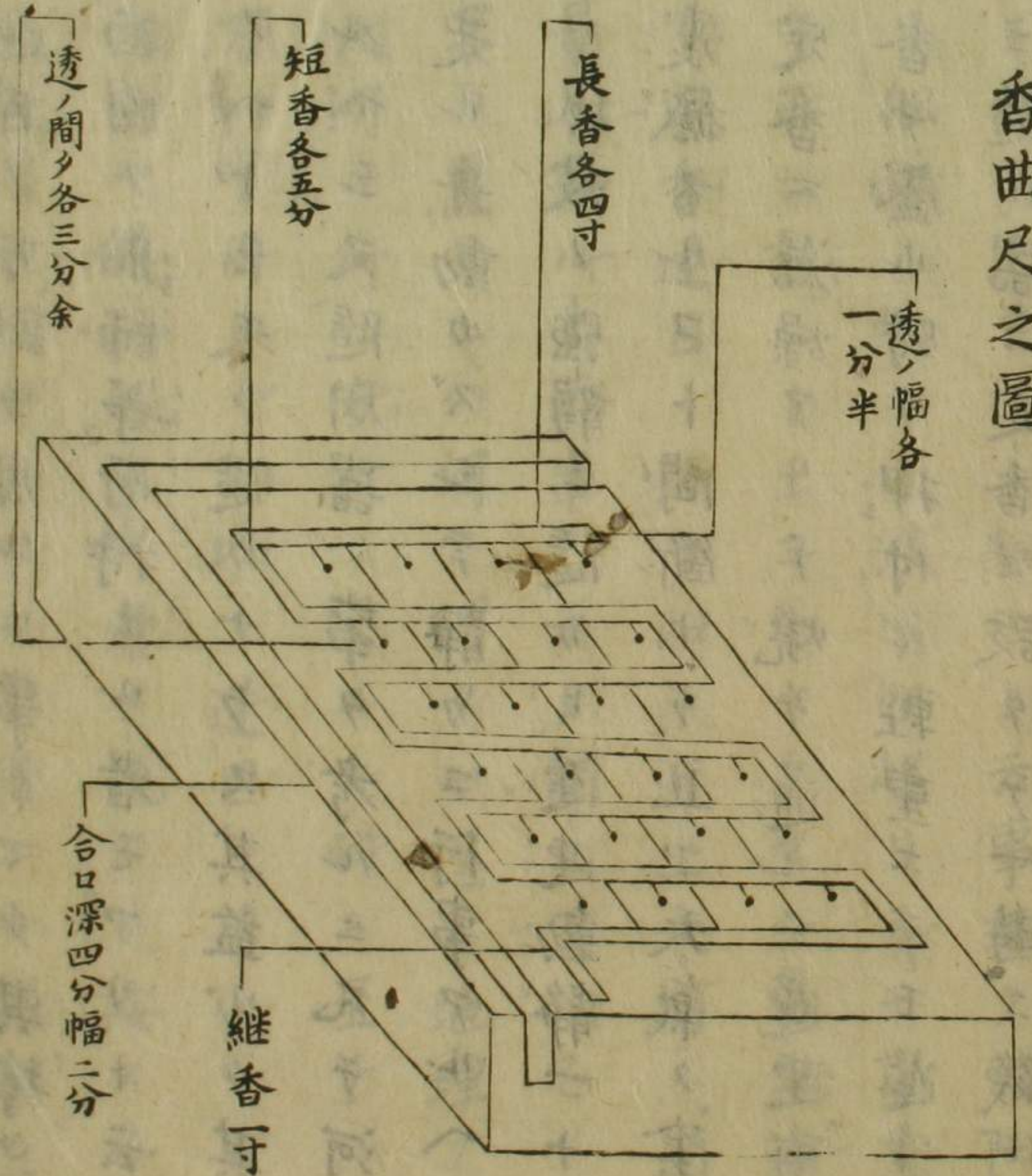


又圖

豎一尺
橫一尺三寸四分
香曲尺収ムル所
各方九寸



香曲尺之圖



見柜元去町見并疑

卷之二

十四

答曰。逆目ノ方針ヲ用ユル事イマタ其據口ヲ考
ヘズ西國ノ船師等所持スル者モアリト云事ヲ
聞トイヘドモ未タ慥カナラス其益少ク其害ハ
多カルベシ又隨川器ノ事ヲ考ルニ凡テ河海水
上ヲ走ル舟動カズシテ静カニ行事アルヘカラ
ス况ヤ風波ノ強弱ニ隨カヒ遲速動靜一ナラス
動搖震撼スルコト間斷ナク且ツ天氣ノ陰晴ニ
隨テ定香ニ濕燥アリテ燒ケ通ルニ遲速有ルベ
シ又香ヲ盛ル時ニ押付ル輕重ニテモ遲速有シ
然ルニ隨川器ニ定香ヲ設ケテ一時ニ幾何寸許

多分ニ幾何町ヲ行ト驗ルト云事甚タ謂レナキ
測ナリ船中ノ働キ風波少ク起リテモ斯ノ如ク
細密ニ正シ計ルト云コトナラサル事勿論ナリ
古ヨリ定香逆目ノ類ヲ以テ海上大河ノ里程方
角ヲ量リ得ルト云事イマタ聞ス忍磁石ト上ニ
恐ノ字ヲ置タルハ何ノ謂ソヤ忍テ地理ヲ量リ
海上大河ヲ行ニ方針ヲ用ユル時ニ至テハ豈ニ
常ノ方針ヲ用ユルト此ノ逆目ヲ用ユルト何ソ
異ナラニヤ是レ好事ノ者ノ説ナリ按スルニ異
國ノ人大洋中ヲ行舟スルニ用ユル羅宇坐針ト

見巨元法去町見詳是

云モノアリテ方隅三拾二方或ハ四拾八方ニ指
 向ノ制作アリ疑ラクハ此等ノ器物ヨリ思ヒ付
 キ無用ノ器ヲ以テ臆説ヲ演ヘテ實測ノ器物ト
 為テ誤ルモノナリ斯ノ如キ方針或ハ定香ヲモ
 チヒテ其益アラハ古ヨリ長崎へ來ル唐土阿蘭
 陀其外西域ノ舟彼ノ器物ヲ所持スベシト雖ト
 モ今ニ至リテ斯ノ如キ器物ヲ貯ル事ナシマタ
 唐土ヨリ來レル長崎近國ノ仕出ノ唐船ニハ二
 拾四方ノ羅經ヲ用ユル者多シト雖トモ皆順支
 ノ配分ニテ逆目ヲ用ユル事ナシ此逆目ノ制作

何人ノ始メタル事ヲ知ラス寔ニ無益ノ器ナリ
 扱マタ船路行舟ト云ハ數多ノ人ノ死生ニ關ル
 大事ナレバ至テ謹ムヘキ事ナリ斯ノ如キ定香
 逆目ノ業ヲ以テ大海大河ヲ渡ラバ其方位里程
 ヲ需メ得サルノミニアラス必ス自他幾ク人ノ
 生命ヲ失ハシ甚タ怖ルヘシ恐ヘシ是ヲモツテ
 觀レハ此説全ク不替ノ事ナリ

規矩元法町見辨疑卷之一

規矩元法町見辨疑

卷之一

二十五

規矩元法町見辨疑卷之二

東都 島田 源道桓 著

崎陽 西川 源正休 閱

問。町見ヲ學フノ初ノニ。平町ト号シテ。平陸ノ地ニ相距ル間町ヲ求ムル時。先ツ空眼ト云テ。相望ム所ニ至ルコト。大略何町。或ヒハ何百間ト。空ノ規リヲ見テ種ヲ起スノ本トス。次ニ分數ト云テ其ノ地形ヲ考ヘ。其所ヨリ間數幾何開テ。盤ノ差ヒヲ求ムレハ。相距ノ間町ヲ得ルト察シ。其ノ開クヘキ場ヲ定

メ。次キニ度量ト云テ其ノ開ノ間數ヲ。空眼
ニテ察タル。間町ノ三拾分ノ一ヲ以テ。開ノ
大格トナシ。其ノ地左ニ有ルヤ右ニ有ルヤ
否ヲ究ム。此ノ開三拾分ノ一ト云ハ。假令ハ
三百間ノ空眼ニハ。凡ソ開キ拾間。三拾町ハ
一町ナリ。斯ノ如ク定メテ見ル時ハ。盤ニ勾
股弦ノ形千頭ハシ。其ノ差ヒヲ開キノ間數
トシテ。量リ得ルノ本トスル故ナリ。次キニ
見盤ヲ居ヘテ左ヘ開クヘキニハ。盤ノ右ヲ
目的ニアツルナリ。次ニ定規ヲ置キ向ノ目

的ニ成ルハキ物ヘ引キ摸シテ見ルヲ見込
ト云ナリ。此ノ見込ノ傳ハ。我カ體ヲ直ニシ。
心ヲ静ニシテ。定規ノ上稜ヨリ見ル者。イ
ツモ上稜ヨリ見込。下稜ヨリ見時ハ下稜
ヨリ見ルカ如ク。始終均シク目ツカイスル
ノ傳有リ。定規ニ目近キ時ハ。眼精散シテ空
シカラス。少シ退見込也。故ニ目近則指高山
如陰ト云云。斯ノ如ク向ヲ能定メ。次キニ見
通ト云テ。見盤ヲ動カサスシテ。定規ヲ取り
ナヲシ。盤ノ手前ニ横ニ置テ。又見込ヲ為カ

如ク。開キノ場ヲ見通シ。標ヲ建ルコレヲ見
通ノ標ト云ナリ。次ニ初メニ見込タル盤ノ
隅ニ。又標ヲ建ル是ヲ殘標ト云ナリ。爰ニ於
テ。向ノ目的ト横ト豎横ノ真矩已ニ極ル十
リ。次ニ見盤ヲ揚ケテ。見通ノ標ノ所ニ到リ。
盤ノ横ヲ殘標ト見通ノ標ト各直ヲ合ス。是
ヲ二目返ト云ナリ。次キニ定規ヲ直シテ。最
初ニ見込タル目的ヲ見ル。是レヲ見返ト云
ナリ。此時盤上極テ。三四五ノ形子顯ハル
ヲ以テ定規ヲ動かサス。圓規ヲ以テ墨線ヲ

曳キ。次キニ手前ノ差ヒタル口ヲ開キノ間
數ト定メ。假令ハ開ノ間數三拾間ニテ。盤上
ノ差ヒ一寸ナレハ。此ノ一寸ヲ三拾間ト定
メ。圓規ヲ以テ一寸ヲ挿シ。此ノ口ヲモツテ
見込タル通りノ見盤ノ片面ヲ量リ。假令ハ
其ノ數拾二有レハ。三百六拾間ト量リ得ル
ナリ。大略是ヲ平町ノ業ト云テ。町見第一ノ
用トス。然レトモ斯ノ如ク。真矩ナル地形寡
キモノナレハ。向フ上下左右高低ト云テ。目
的ニ上下アレハ。見盤ヲ開闔シ。左右高低十

レハ。定規ニ枕ヲ入テ。其ノ地形ニ隨テ標ヲ
建ルナリ。此ノ術見盤ニ拘ハラス其ノ開キ
ノ分數ニ隨テ。見盤ヲ繼キ廣ムル法ナル故
ニ。數拾里ト雖トモ眼カノ及フ間ハ測リ求
ムヘキ妙術ナリ。然ルニ誓古ノ為ニ。席上庭
中ニテ拾間或ヒハ二拾間ノ場ニテハ。丈尺
差ハサルカ如シト雖トモ。山野曠原ニ出テ。
百間及ヒ二百間ヲ索ムルニ。此人術ノ如ク
シテ差ノ間數盤上へ顯ルト雖トモ。實測ニ
協ハス此ノ理分明ナラス。冀クハ其ノ詳カ

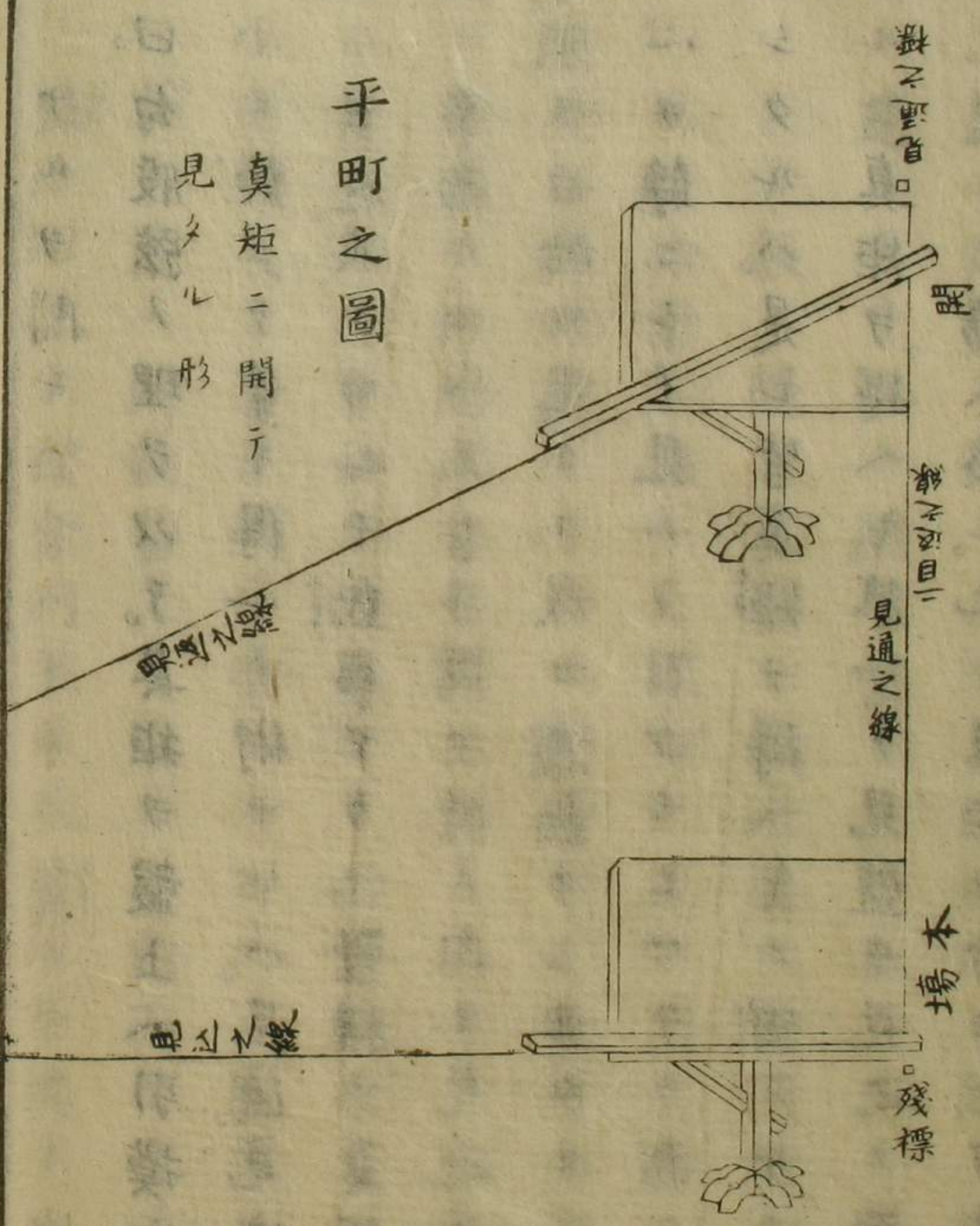
ナルヲ聞ニ

答曰。勾股弦ノ理ヲ以テ。真矩ヲ盤上へ引摸シ。大
ヲ小ニ約メテ量リ得ルノ術ナレハ。見通見込見
返。二目返共ニ少シモ動事アラハ。豎横ノ真矩ヲ
得ル事難カルヘシ。吾子問フ所ノ内ニ見込見返
等。總テ目的ヲ見ルニ。我カ體動カス曲ラサル如
ク。心ヲ静ニシテ見ルト目ツカヒマテヲ委シク
論シタルハ。是レ皆真矩ヲ得ヘキノ謂ニ非スヤ。
然ルニ真矩ヲ得ヘキ第一ノ見盤ヲ見込ノ場ヨ
リ見通シノ場へ移シ。此ノ真矩ヲ合セニカ為ニ。

見直元去町見岸走

平町之圖

真矩二開
見夕ル形



見非元去町見并是

卷之二

五



残ス標ト。見通ノ標ト。二所ノ標ヲ定規トシテ。見
 盤ノ横ノ直ヲ極ムルト云事。前後齟齬ナリ。斯ノ
 如クシテ何ソ豎横ノ真矩ヲ得ヘケンヤ。細密ヲ
 以テ論セハ。二所ノ標共ニ垂糸ヲ以テ正サハ。自
 然真矩ニ協フ事モ有ルヘキ理ナリト雖トモ。其
 間夕拾間以上隔リテハ。慥ニ糸ヲ見ル事成難シ。
 其上少シモ風有テハ。糸ノ直ク定ル事ナシ。故ニ
 曠原ニ於テハ垂糸ヲ用ユル事能ハス。残標見通
 標斜直均シカルヘカラス。是ヲ以テ。二目返ニ正
 シ見テ。真矩ヲ求ントスル事。至テ䟽業ナリ。又向

ノ高低ニ随テ。見盤ヲ開闔シテ。目的ト見込ト盤
 面ヲ平均スルト雖トモ。開クヘキ所。高低有ラハ
 定規ニ枕ヲカイテ。見通ノ標ヲ建テ。再ヒ見盤ヲ
 移シ。二目返ヲシテ最前ノ目的ヲ見返スニ。先ニ
 枕ヲカイタル程。勾配ノ違ヒ有レハ此ノ場ニテ
 ハ。本目的盤面ニ摸ルヘカラス。是ニモ亦。定規ニ
 枕ヲカイテ見返スヘキヤ。然レハ見盤ノ開闔ス
 ルモ。一方ニハ用アリ。一方ニハ用無シ。斯ノ如ク
 機ノ如クニテ何ソ真矩ヲ得ル事有ランヤ。席上
 庭中ハ平直ニテ。シカモ向ト定ムル所。五間拾間

ノ所ナリ。故ニ細キ竹ヲ假リニ建テ標トナスト
 雖トモ。其ノ差ヒ少カルハシ。猶細密ニヒハ。垂糸
 ヲ標シニ用ヒ。其ノ間タヲ能ク正シ。開ノ間數ト
 シテ。量ル時ハ五間拾間ノ間ハ。丈尺寸マテ中ル
 ト雖トモ。遠近ノ用ニ依テ。大ヒニ替レル事ハ。前
 段ニ答タルト理同シ。今問所ノ如キハ唯其理ヲ
 業ニ摸シテ教ヘタルヲ。實ノ町驗ヲ測ルモ是十
 リト心得違ヒタル者ナリ。斯ノ如ク事ヲ以テ曠
 野平原ニ用ヒハ。萬カ一モ中ルヘカラス。按スル
 ニ勾股弦ノ理ヲ以テ。遠程ノ間町ヲ求ムルハ。其

器物ノ制ニ因ルヘシ。後人誤テ一庭中ノ小業ヲ
 以テ曠野平原ノ大術ニ及ホス實測ノ器トスル
 事。方寸ノ木ヲ以テ岑樓ヨリ高カラシムルソ謂
 ナリ。後人惑フコト勿レ
 又問。量地指南ニ。此ノ術ヲ。左右正開方ト名
 ケ。見込見通。再見。見返。次第ヲ追テ勤ムル時
 ハ。千萬里ト云トモ立所ニ其ノ道程ヲ知ル
 ヘシト云ヘリ。是ナルヤ
 答曰。僅ノ里程ヲ求ル町見術ヲ以テ。千萬里ヲ知
 ラント云ハ。針ヲ以テ大象ヲ殺サント為ルカ如

見三三去町見術

卷之二

七

シ甚夕誤ナリ。地躰渾圓ニシテ。百里以上ハ。圓徑ノ矢高ク平直ナシ。千萬里ハ云ニ及ハス。唐土日本相距ノ里程。僅カ二百里三百里ノ間ト雖トモ。是スラ町見ノ術ヲモツテハ量ル事能ハサル也。又問。量地指南ニ。遠所ノ目的ヲ見ル為メニ。望遠鏡ヲ用ユル事ヲ載テ。其ノ用法ヲ記サス。且ツ此ノ器日本ノ制ヨリ紅毛ヲ好トスト云ヘリ。其ノ用法是非如何。

答曰。望遠鏡ヲ用ユル事。其ノ用無キニシモ非ス。然トモ是レヲ用ヒテ目的ヲ紀スト云ニハ非ス。

總テ町見ニ望遠鏡ヲ用ル用法無シ。但シ望遠鏡ヲ用ル法。容易ニ知ルヘキコトニ非ス。口傳ニ有リ。今マ茲ニ云タルハ其ノ用法ハ知サレトモ。彼ノ望遠鏡ノ用有リト云事ヲ聞傳ヘテ假ニ云ヘルカ。又此ノ望遠鏡日本ノ制作ハ用ユルニ足ラサル趣ニ載タリ。今ノ世崎陽ニテ制スル所口ノ望遠鏡殆ント紅毛ヨリ勝レタリ。故ニ當時官家ニ用ユル所。皆ナ崎陽ノ制作ヲ專用トス。此等ヲサヘ糺サスニテ。何ソ望遠鏡ノ用法ヲ知ンヤ。是レ又圓規ト同シク。奇巧ノ制作品ク多シ

問。其ノ地形ニ因テ。真矩ニ開テ求ル事成ラ
サル地ニ於テハ。左右ヘ斜メニ進退シ。成ハ
左右ヘ開クヘキノ地無キニ至リテハ。前後
ヘ進退シテ求メ量ルノ術アリ。其ノ業各平
町ノコトクシテ。左右ヘ進退スルニハ。見込
ハ盤ノ真矩ヨリ見込。開ラクヘキ場ニ随ヒ
テ盤上ヘ斜メニ墨筋ヲ援テ此ノ筋ヲ横ノ
矩トス。二目返ヲシテ見返ス時。斜メニ三四
五頭ルヲ。平町ノ如ク量ルナリ。前後ヘ進
退スルハ。見込所ハ平町ニ同シク盤ヲ動カ

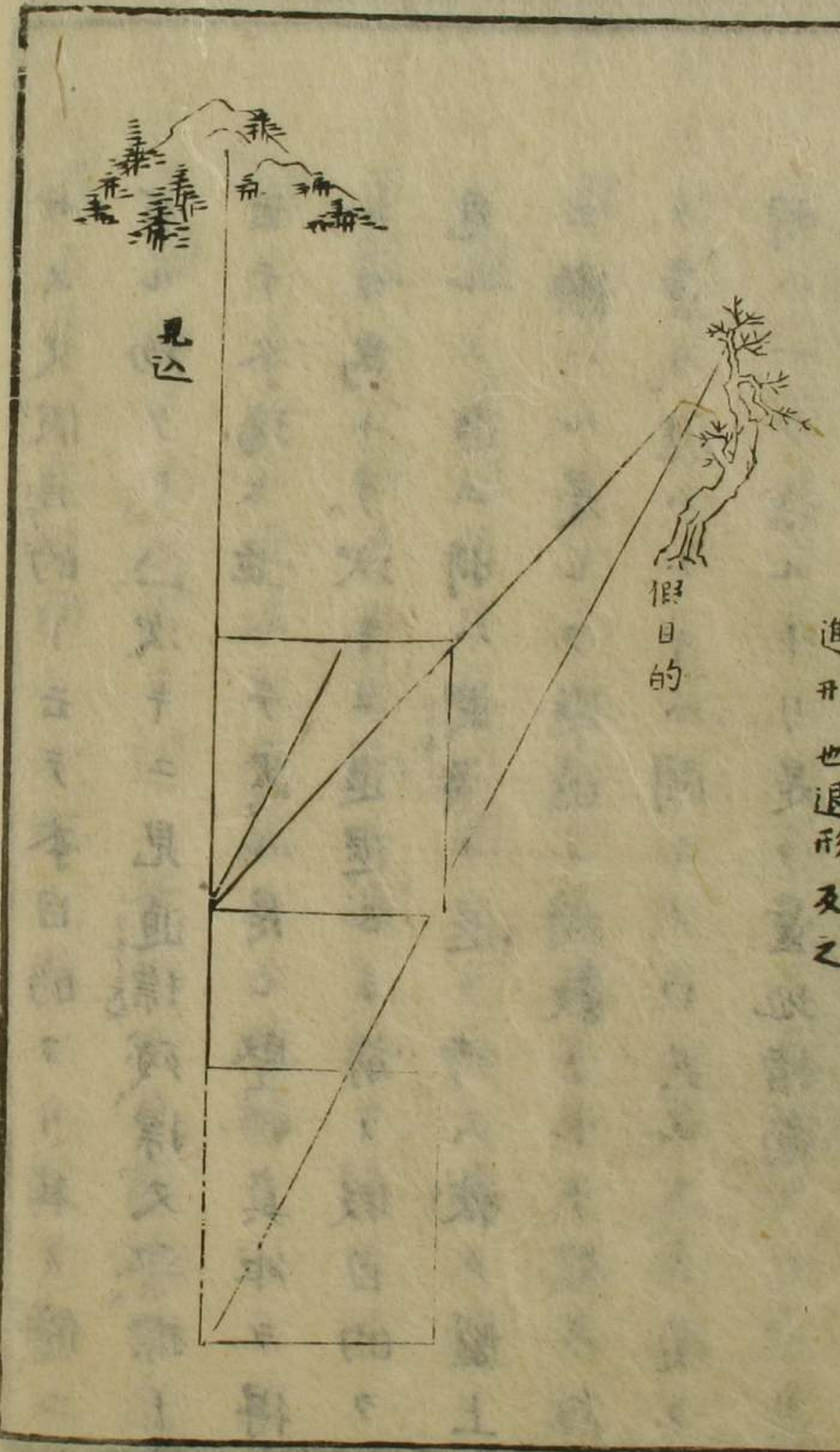
サス。又假目的ト云テ本目的ヨリ其ノ傍ニ
有ル物ヲ見込。次キニ見通標殘標又繫標ト
云テ本場ニ並ヘテ建ル。是レ豎ノ真矩ヲ得
ンカ為ナリ。次キニ進退シテ前ノ假目的ヲ
見ルニ進ム時ハ開黄ク退ク時ハ狭ク盤上
ニ顯ハル。是レヲ進退ノ間數トシテ盤ノ向
ヲ量リ。進ムトキハ開キノ口共ニ入レ退ク
時ハ一ツ捨ルナリ。是ヲ量地指南ニ左右進
退ノ事ヲ左右斜開方ト云。前後進退ヲ前後
當開方ト云ヘリ。斯ノ如クシテ各間町ヲ得

知幾子河由身言矣 卷之三

此ノ用所平町ト同意ナルヘキ力

前後進退之圖

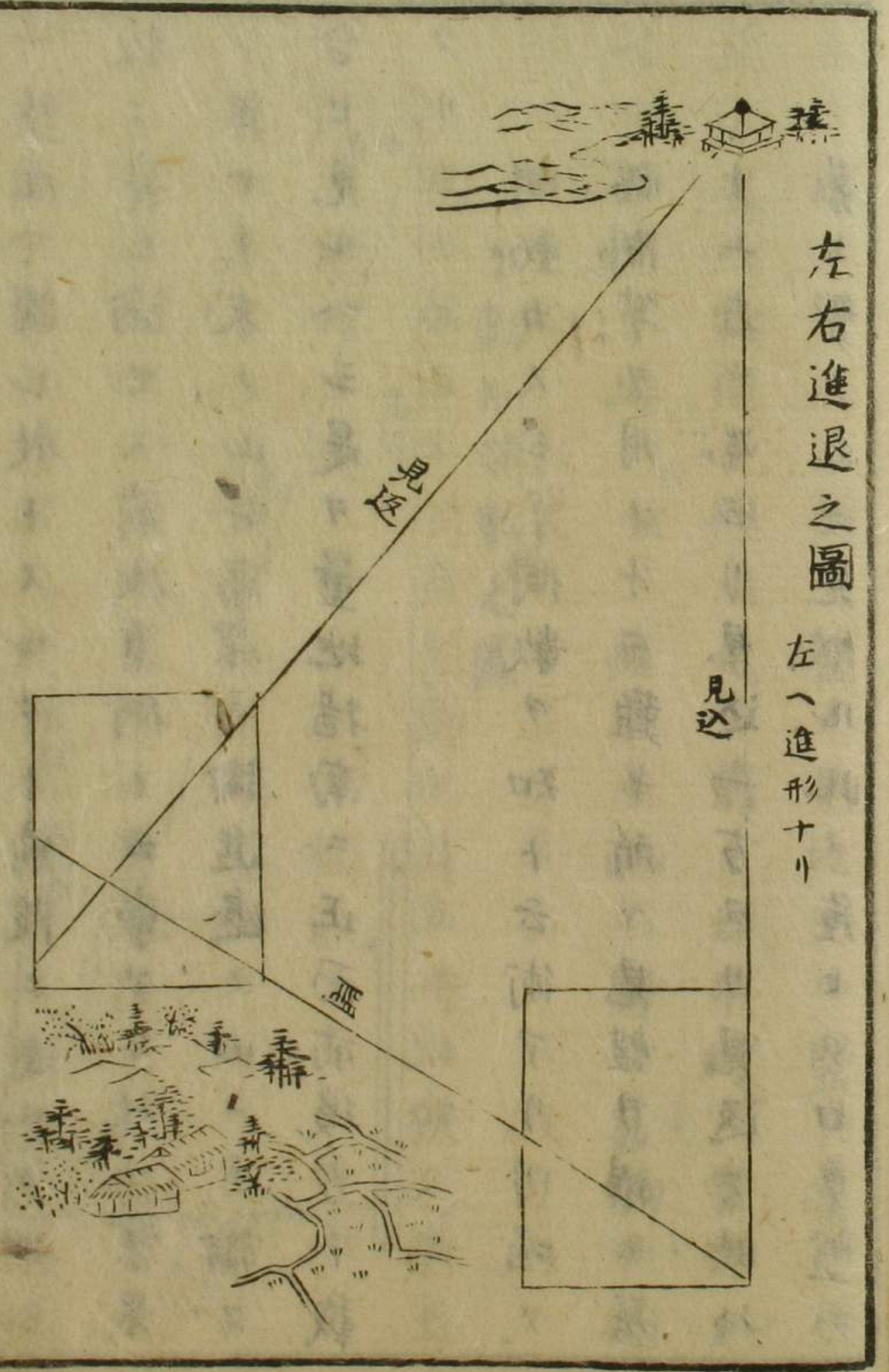
進形也退形及之



左右進退之圖

左へ進形ナリ

見込



答曰。此ノ術。平町勾股弦ノ形子。究リ無ノ變化ヲ

見巨元去町見屏是

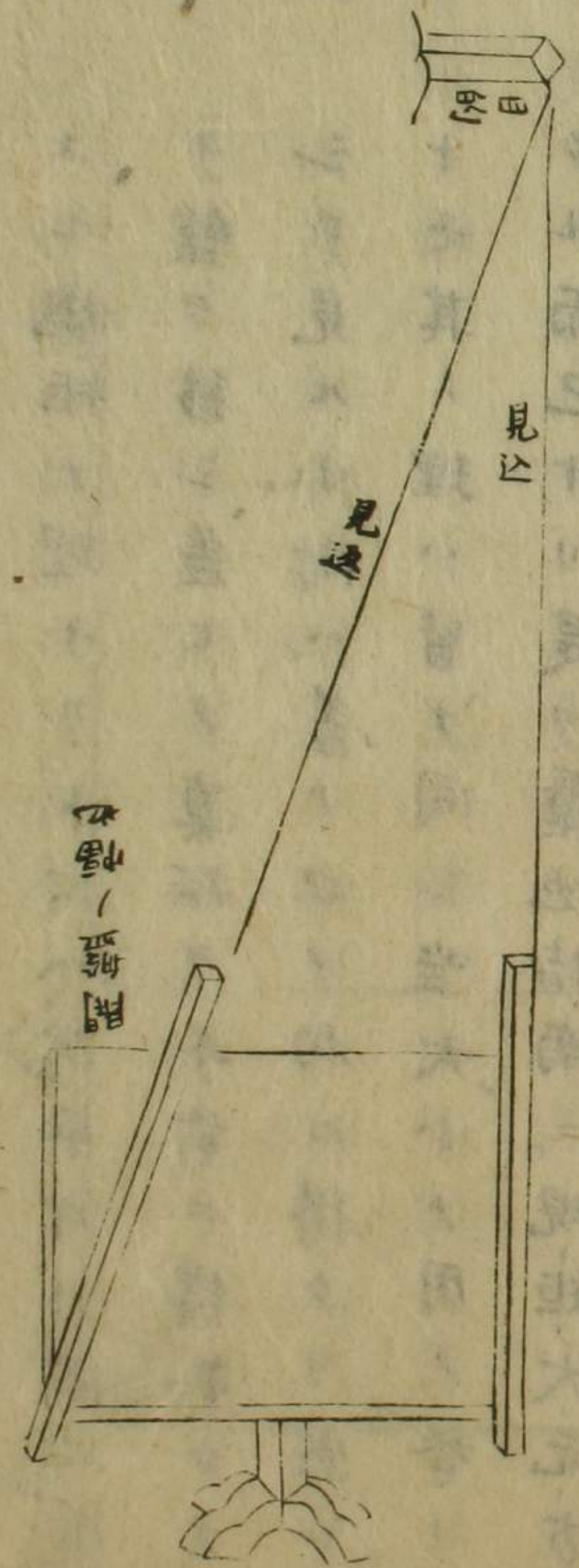
卷之三

云へり。實測ニハ非スト雖トモ亦是ヲ實測ト為
テ盤面へ摸シ教トスルコト。前段ニ述ルカ如シ
故ニ爰ニ論セス前後真術ト云事アリ此ノ業是
ト異ナリ。末ノ山谷高深ノ論。進退ノ山ニテ論ス
合セ見ルヘシ。是ヲ量地指南ニ。正面前後方ト載
タリ

問動カスニテ間數ヲ知ト云術アリ。川堀ノ
幅間竿ヲ用ヰルニ難キ所ハ見盤ヲ横ニ居
テ一方ノ端ヨリ見込一方ヨリ見返ス時ハ
差ヒ盤ノ向一見ハル此ノ差ヒノ口ヲ盤ノ

横ノ寸尺トシテ。盤ノ見込タル豎ヲ量レハ
丈尺幾何ヲ知ル是レ前ニ云平町ノ業モ此
ノ理ニ止マレト雖トモ此ノ術ハ器物ニ因

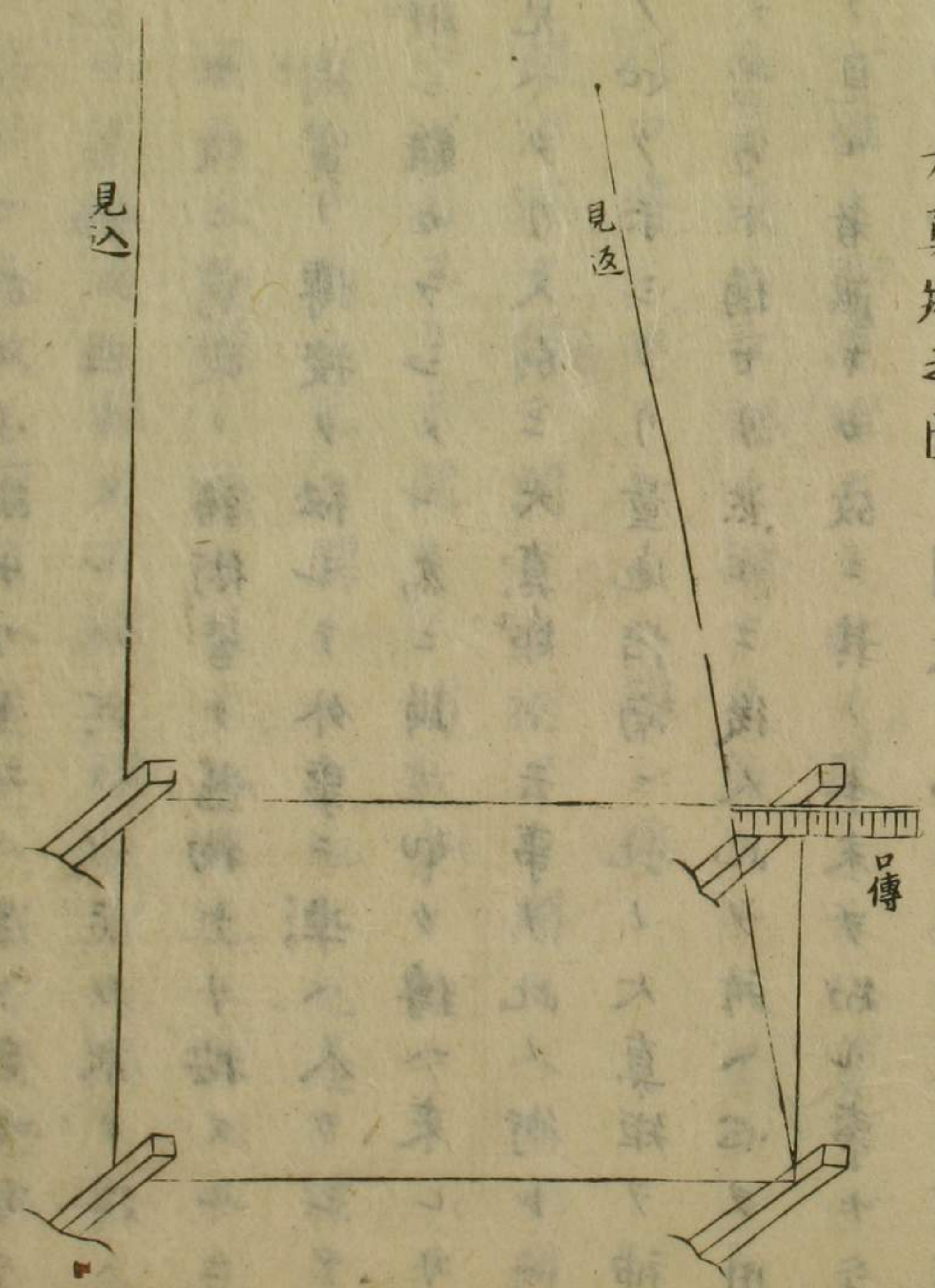
不動知間數之圖



ルカ故廣大ノ用ニハ及ハス皆ナ小事ニ用
 ムル規矩ノ理ナリト云ヘリ。平町ハ関ニ隨
 テ盤ヲ移シ差ヒノ真矩ヲ手前ニ得。動カス
 シテ見ル小術ハ差ノ口ヲ向ニ得タリ。然レ
 トモ其ノ理ハ皆ナ同シ唯大小ノ用ノ替リ
 タル而已ナリ是ヲ量地指南ニ。規矩大元方
 ト云ヘリ此ノ術用ヒテ益有ラシカ

答曰此ノ術平町ニテ左右前後進退ニテ間町ヲ
 盤面ノ上ニ摸シ取ト云全體ノ形ヲ不動一所ニ
 居テ器物ノ上ニ摸シ取ノ理ヲ知ラシメタリ器

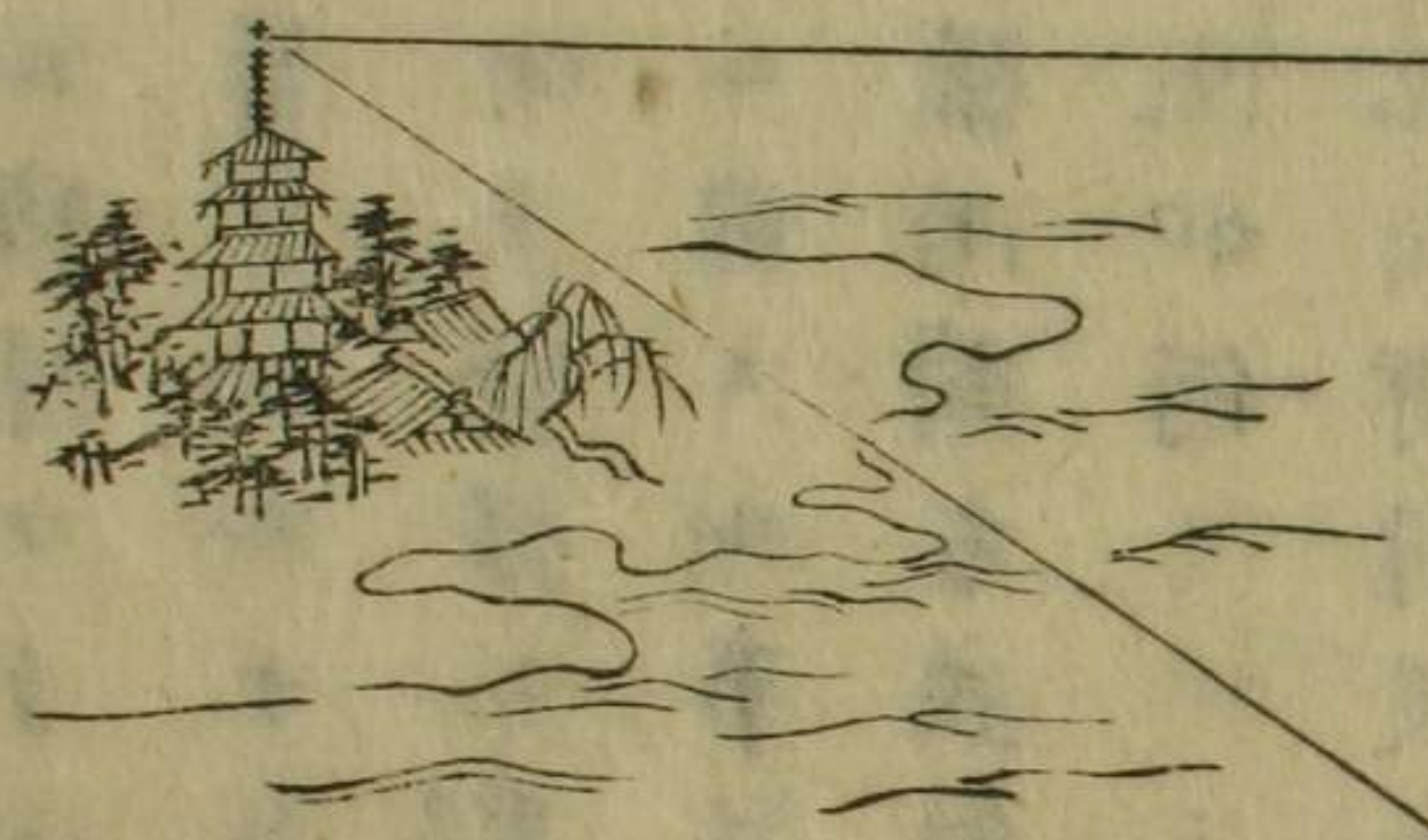
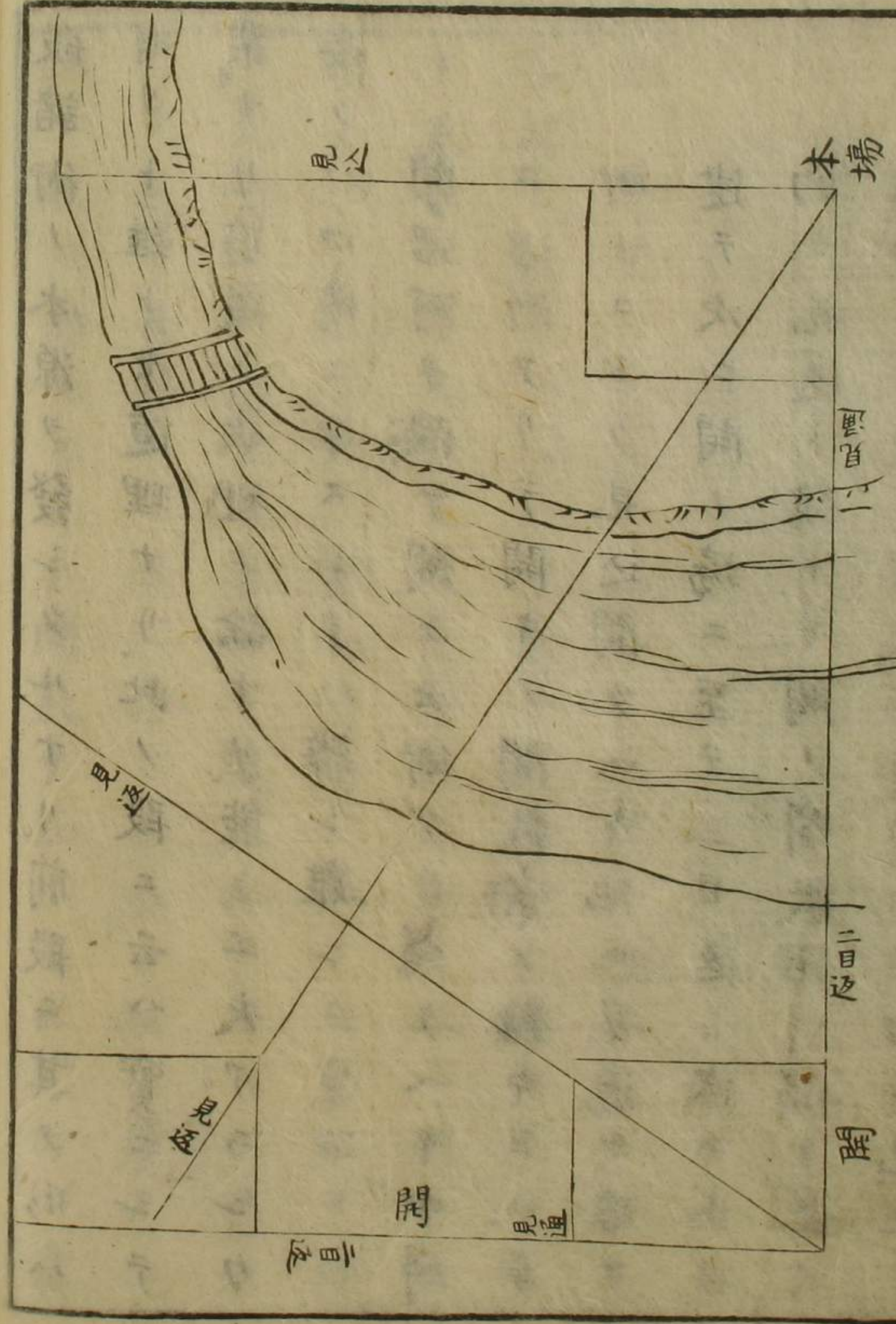
大真矩之圖



物ニ拘ルカ故ニ小術ナリト云ハ深キ意味有リ
町見ハ器物ニ因ラスニハ河ヲ以テカ求メ得ヘ
ケンヤ故ニ前段ノ諸術皆ナ器物ナリ按スルニ
此ノ術實ノ傳授ヲ秘シテ外事ニ準ヘ人ヲシテ
各解シ難カラシメン為ニ斯ノ如ク傳ヘ来レリ
ト見ヘタリ又別ニ大真矩ト云事ヲ此ノ術ト一
理ノ如ク示シタリ量地指南ニ此ノ大真矩ヲ神
速大盤方ト稱セリ然ルニ後人此ノ所ヘ心ヲ用
ヒテ見ル者無キカ故ニ其ノ本末ヲ知ル事ナシ
此ノ段ニ動カスニテ間數ヲ知ルト云タルハ前

段諸術ノ本源ヲ發シタルナリ前段ニ其ノ形ハ
有リト雖トモ道理ナリ此ノ段ニ云ハ實ニシテ
業ナリ前段ト表裡ノ論ナリ能ク工夫アラシカ
委クハ口傳ニ非スシテハ辨シ難ニ
問沼河ヲ隔テ開ト云術アリ開クヘキ中間
ニ沼河アリテ開キノ間數索メ難キニハ平
町ノコトク見込開クヘキ地ヘ見通テ標ヲ
建テ次ニ開ノ場ニ至テ二目返シ次ニ本目
的ヲ見返ト雖トモ開ノ間數沼川隔テ正ス
事能ハス故ニ前後ヘ進退シテ初二見込夕

隔沼河開之圖



見拒元去町見辨疑

卷之二

十四

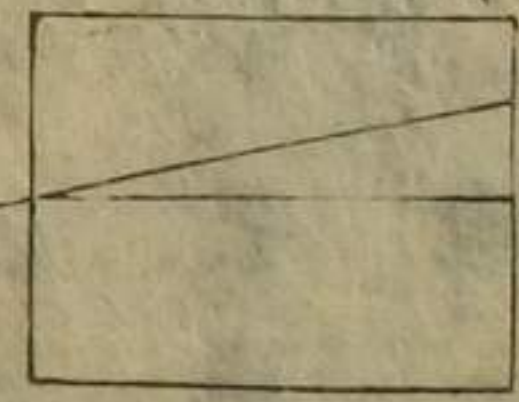
ル残標マテノ遠サヲ量リ開ノ間數ヲ得テ
量リ知ルナリ。左右筋違重ノ品アリ。皆ナ平
町ヲ豎横ニ累タル者ナリ。此業何等ノ大場
ニ用ユル事ニヤ。量地指南ニ。残子一開方正
當兩開方正斜兩開方ト三術ニ分ケテ云ヘ
リ。如何

答曰此ノ術前段ニ演ヘタルカ如ク。見盤移リ動
カユヘニ真矩ヲ得事難シ况ヤ是ハ平町ヲ累タ
ルモノニテ真矩何ノ中ラン。按スルニ平町ハ三
四五一一段ノ業ナリ。此ノ術ハ三四五二段ニテ其

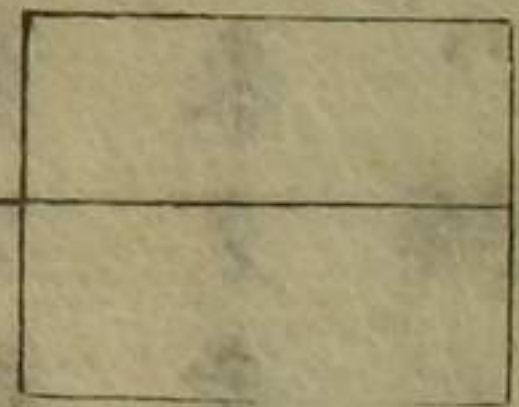
形豎横ニ累子タルモノヲ。見盤ノ業ニ摸シテ初
學ヲシテ其ノ事理ヲ明ニセン事ヲ欲シテナリ。
後人は是ヲ實測トシテ。廣大ノ業トス。實測ノ用ニ
ハ非ス。初學誤ル事勿レ。左右筋違重ノ事未ノ陰
ノ目的ニ答タルト合セ見ルハシ。總テ町見ヲ驗
ルニ開ヲ多ク取ル事無キ者ナリ。何ヲ以テ吾子
問所ハ斯ノ如ク開キ多ク用ルヤ。不審ニ且三拾
分一ヲ開ト云事其據未タ考ヘス。開キ多ク用ヒ
スト云事口傳ニ非レハ辨ニ難シ
問中不中ヲ極ムルト云術アリ。諸術ヲ施タ

極中不中之圖

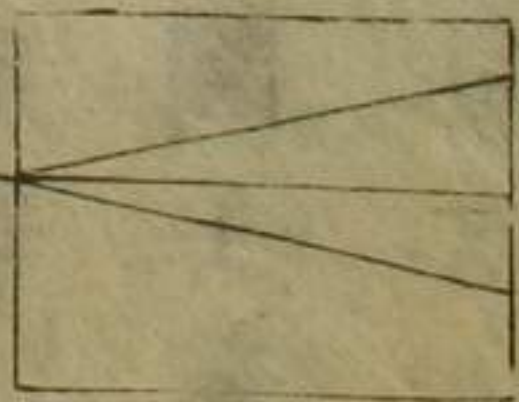
初開



本場



後開



一方へ開キ求タル
線ヲ如圖盤へ摸シ
又一方同間ニ開
テ合セ見ル也但左
右進退ノ品有皆同
今本圖ヲ載ス



ル上ニテ猶又極リタルヤ。否ヤヲ其ノ場ニ
テ再ヒ糾ス事ナリ。見盤ノ中間へ線ヲ曳キ
先ツ一方へ開キテ。中線ヲ要トシ。盤ノ前ニ
差ヒノ開キヲ付ケ。是レヲ開キノ間數トシ。
此ノ筋ヲ又中線ノ一方へ差ハサル如ク引
摸シ。次ニ同間ニ開キ。此ノ引摸シタル筋ニ
前ノ目的ヲ當テ見ル時其ノ差ヒ無キ時ハ
前ノ平町ニテ求メタル間ヲ實測トス若シ
一方ノ線ニ合ハズ。譬へハ三拾間ノ内ニテ
二間差へハ。此ノ差ヒヲ左右へ割テ二拾九

間ノ割合ニ。盤上ノ斜線ヲ改タメ。實測ニ協
フ如ク正スナリ。左右へ開キ無キ地ハ。一方
ニテ假目的ヲ以テ正ス。是ヲ片極ト云へリ。
斯ノ如ク再三業ヲ重子ハ。平町及ヒ沼河等
ノ諸業。見盤ノ移リ動ク差ヒアリトモ。是ヲ
以テ糾シ極ル時ハ。用ヒテ可ナルへシ。量地
指南ニ。此術ヲ一知雙開方ト載タリ。細密ナ
ル業ト云へキニヤ

答曰。此ノ理前段ト同シ。此段ニ至リテ。平町三段
ナリ。皆三四五ヲ累テ其事理ヲ委ク説タリ。是ヲ

實測トスルニハ非ス。二四五ヲ三累ニテ平町術ノ至極トス。故ニ此ノ以下ノ條目ニ寸尺算法三四五天圓地方ナト。平町ノ道理用法ヲ擧タリ後人誤リテ是ヲ實測トス。見ル者能ク翫味スヘシ問當流町見術ノ上ニハ寸尺算法用捨ト云テ算術ヲ用ユルニモ非ス。捨ニモ非ス。盤上ノ差分ヲ量リ。間町ヲ知ルニハ圓規ヲ以テ量ルカ故ニ寸尺ヲ用ルヨリモ不盡無ク。算法ヨリモ簡易ナリ。其上曲尺ヲ試シ見ルニ分刻均シカラスニテ。必ス用ヒ難シ。故ニ圓

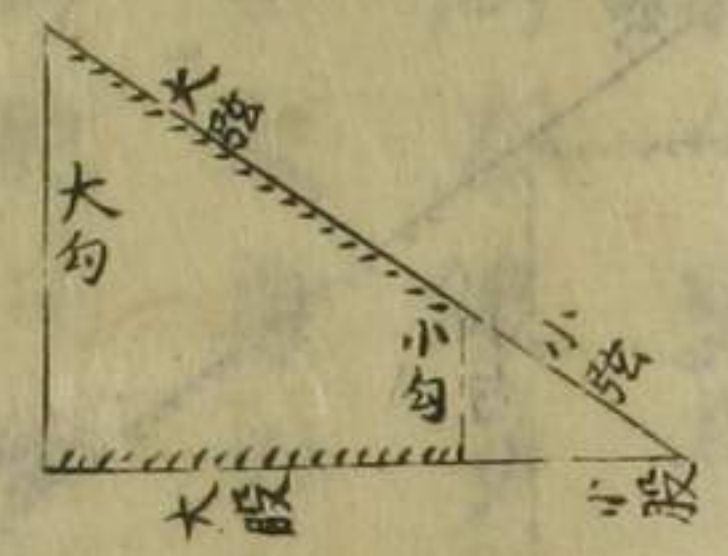
規ヲ以テ量知ル訓ヘナリ。然レハ寸尺算法ニハ因ラサル事ナリ。但シ一向ニ捨ルト云ヘハ。規矩ノ理ニ非ス。用捨其ノ時ニヨルヘシト云ヘリ。其ノ是非ヲ詳カニ聞シ。答曰。數尺用捨ト云事。尤モ理アリ。然レトモ數ハ天地人物ノ上ニ具テ。物皆數理ヲ遁レス。此町驗勾股ヲ求メテ遠近ヲ測ルモ。數理ノ盤上ニ顯ルルヲ以テナリ。此ノ盤上ノ數理ヲ校計スルニ算術ヲ以テ推シ考ル時ハ。分釐細密ヲ知リテ。是ニ如ク者ナシト雖トモ。九因歸除スラ知ラザル人

有リ。且ツ遠近ノ間町ヲ驗ニ量ルハ。分釐ヲ究メ
 スシテ用足レリ。故ニ圓規ヲモツテ盤上ヲ度量
 シテ。間町ヲ求メ得ルナリ。後人此ノ術ヲ傳テ。町
 驗ハ算術ヲ用ルニ及ハズ。算術ハ圓規ノ度量ニ
 如ズト思ヘリ。又外夷ニテハ圓規ヲ用ユルコト。
 町見而已ニアラス。都テノ算術皆圓規ヲ以テス
 ルト云説アリト雖トモ甚夕誤ナリ。外夷ニテ布
 地錦筆算ナト云。或ハ圓規ノ算術アリテ。皆止ム
 事ヲ得スシテ。時ニ依リ所ニヨリテ。算盤ニカヘ
 テ用ト雖トモ。其ノ術簡易ニ似テ。却テ算術ヨリ

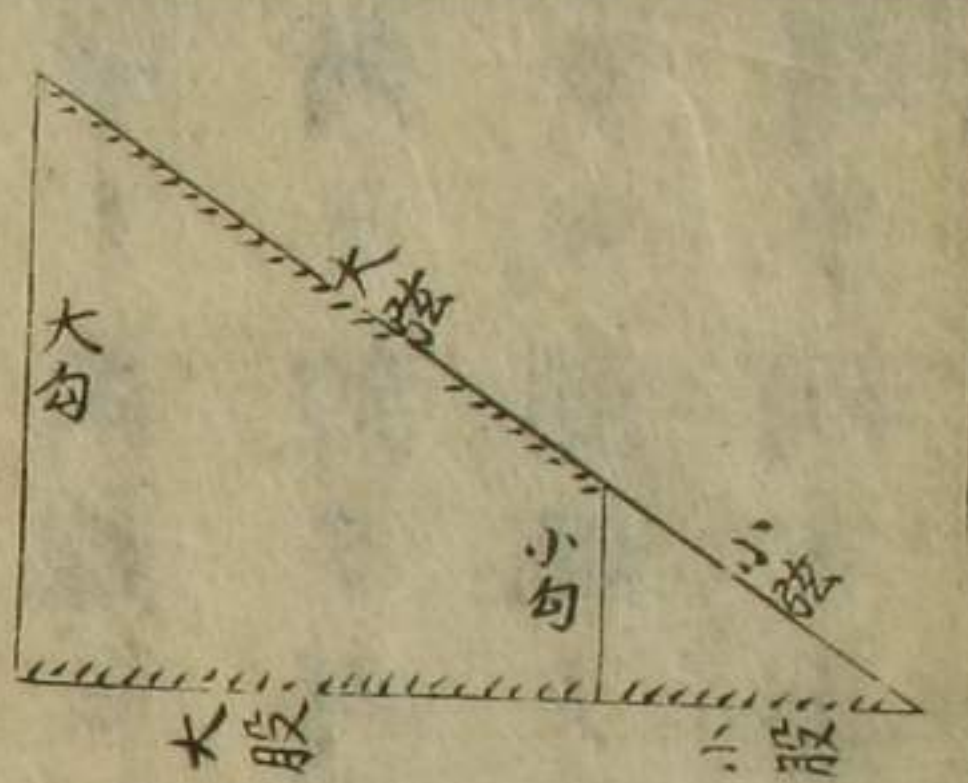
勞煩アリ。唯小事ニ用ユルノミ。今マ算家ニ云所
 ノ。天元演段暨天文曆數ノ如キ。何ソ圓規ヲ以
 テ推シ窮ムル事有ニ。又此町見算法ヲ用ユル時
 ハ。曲尺ニ因ル。曲尺數品ヲ相較ルニ。各寸分均シ
 カラズシテ用ヒ難シ。故ニ圓規最トモ宜ト云然
 ト雖トモ圓規ヲ以テ量ルモ亦先ヲ肇テ線上ヲ
 突歩ムニ從ヒ。歩毎ニ小差ヲ生シ。且ツ銃先ノ穴
 ニモ少ク違ヒアル事。曲尺ノ差ト何ソ異ナラン
 ヤ。今マ問所ノ寸尺算法用捨ト云三八。別ニ深キ
 意味アルナリ。口傳ニ非レバ辨シ難シ。此ノ傳中

頃ヨリ本意ヲ傳へ誤マルト見ヘタリ。凡ソ圓規
 ヲ以テ筭理ヲ發スル事。是レヲ必ス用ユベシト
 云ニハ非ス。然レトモ勾股弦真矩ノ道理ヲ知リ
 或ハ時ニヨリ所ニ依テ用テ其ノ大概ヲ測筭ス
 ルノ用アリ。或ハ九因歸除ヲモ知ラサル人。是レ
 ヲ知テ用ヒハ又一助ナランカ。故ニ今其ノ一二
 ヲ擧テ茲ニ誌シテ以テ初學ノ為ニ便リトスル
 事左ノ如シ

何 小勾三間。小股四間。大勾拾五間。問大弦股幾



術云。真矩ヲ求メ。次ニ圓規ヲ開ヒテ
 一間トシ。小勾ヲ三ツ。小股ヲ四ツ。量
 リ。留ヘ曳ク線。小弦ナリ。次ニ小弦ト
 小股ト。ニツノ線ヲ曳伸ハシ捨テ。次
 ニ圓規ノ口ヲ拾五間ノ分開テ。曳捨タル線ニ合
 セ。股ノ線ヲ真矩ニ曳ニ。末ニ至リテ圓規ノ口。上
 下ノ兩線ニ合フ所。即チ拾五間ノ大勾ナリ。其ノ
 所ニ線ヲ曳キ。是ヨリ初マテノ弦ト股ヲ先ニ定
 タル。圓規ノ一間ヲ以テ量リ。大股大弦各幾何ヲ
 得テ問ニ合ス

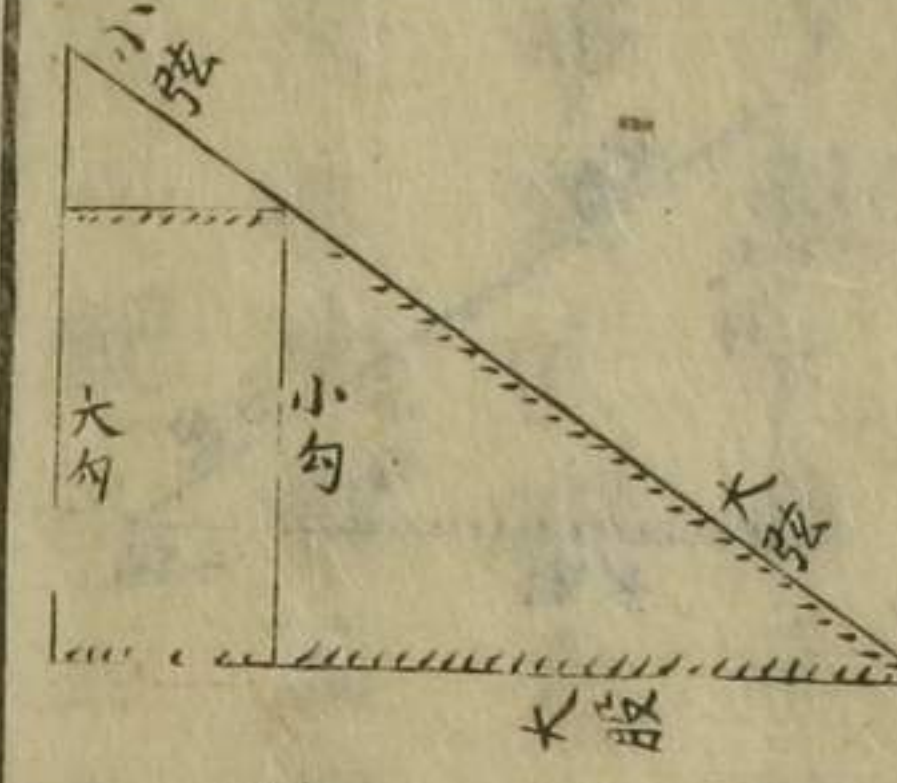


小弦五間。小勾三間。大勾拾間。問。大小股幾何。

術云。真矩ヲ求メ圓規ヲ開テ一間ト

シ。小勾小弦ヲ設ケ。小股四間ヲ得。次

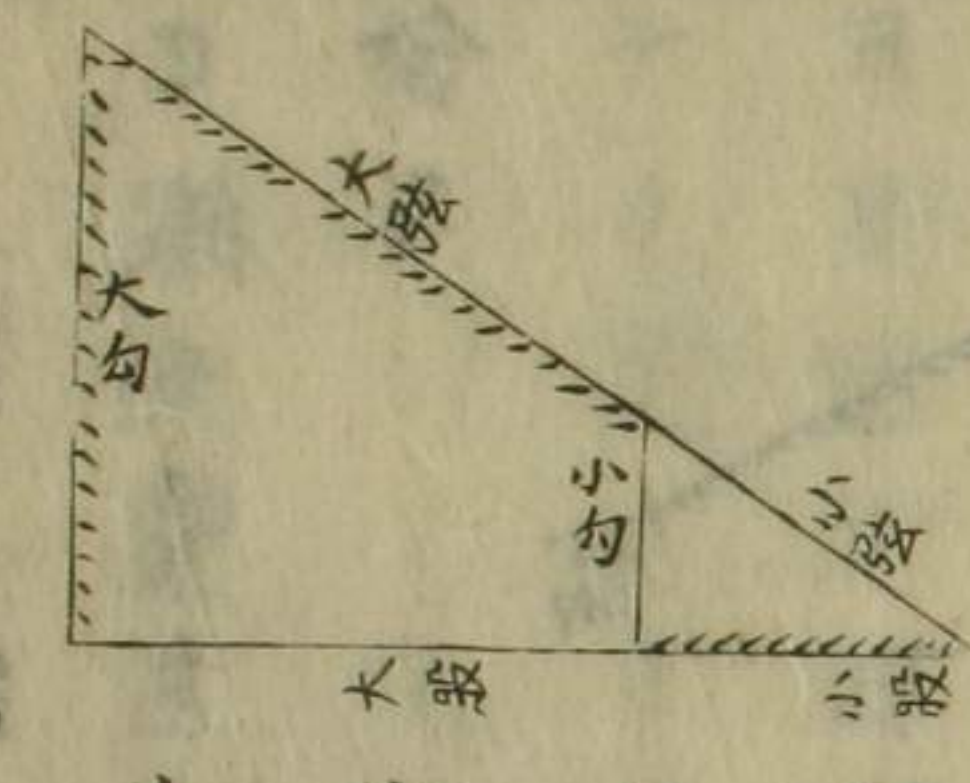
二圓規ノ口ヲ拾間開キ。前術ノ如クシテ。大股ヲ得テ問ニ合ス。



小弦五間。大勾拾間。小勾七間。問。大弦大股幾何。

術云。大勾ノ内。小勾ヲ減ジ。余リ三間ヲ勾ニ用ヒ。五間ヲ弦ニ用ヒテ。股ヲ

求ムレハ四間ヲ得タリ。此ノ如ク首尾ヲ求メ七間ノ線ヲ二筋引ケハ。則チ大勾小勾極ルナリ。次ニ大勾ヲ真矩ニ合セ。股ノ線ヲ曳キ捨テ。又弦ノ勾配ニ合セ。線ヲ曳ケハ。兩線交リ留テ。各大弦大股ヲ得テ問ニ合ス。

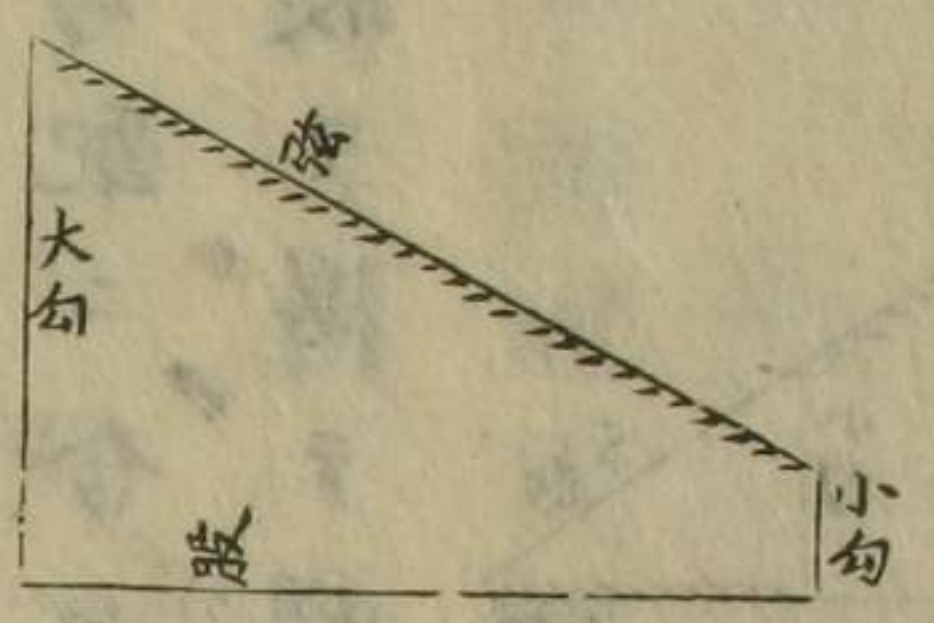


大股一尺二寸。小勾三寸。小弦五寸。問。大勾大弦小股各幾何。

術云。真矩ヲ設ケ。圓規ヲ開テ一寸ト為。小勾三寸小弦五寸ヲ設ケ。小股四

寸ヲ得タリ。次ニ真矩ニ一尺二寸ヲ極。其留ヨリ

又真矩ノ線ヲ横ニ曳キ捨テ。小弦ヨリ勾配ニ合セ。線ヲ曳テ兩線交リ。即チ大勾弦ヲ得テ。問ヒニ合ス。

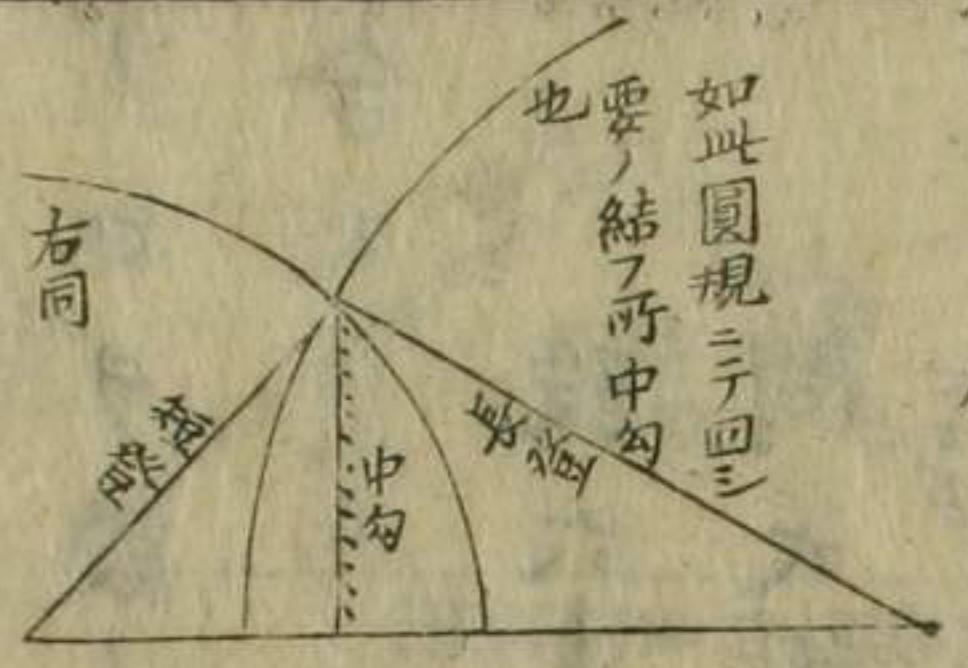


大勾三拾五間。小勾五間。股四拾間。問弦幾何。

術云。大勾ノ内小勾五間ヲ減ジ。余リ三拾間ヲ勾ニ用ヒ。圓規ヲ開テ。拾間トシ。真矩ヲ以テ勾三ツ股四ツ量テ。留リヨリ留一線ヲ曳キ弦ヲ得テ。問ニ合ス。

長登二拾間。短登拾間。股二拾五間。問中勾幾

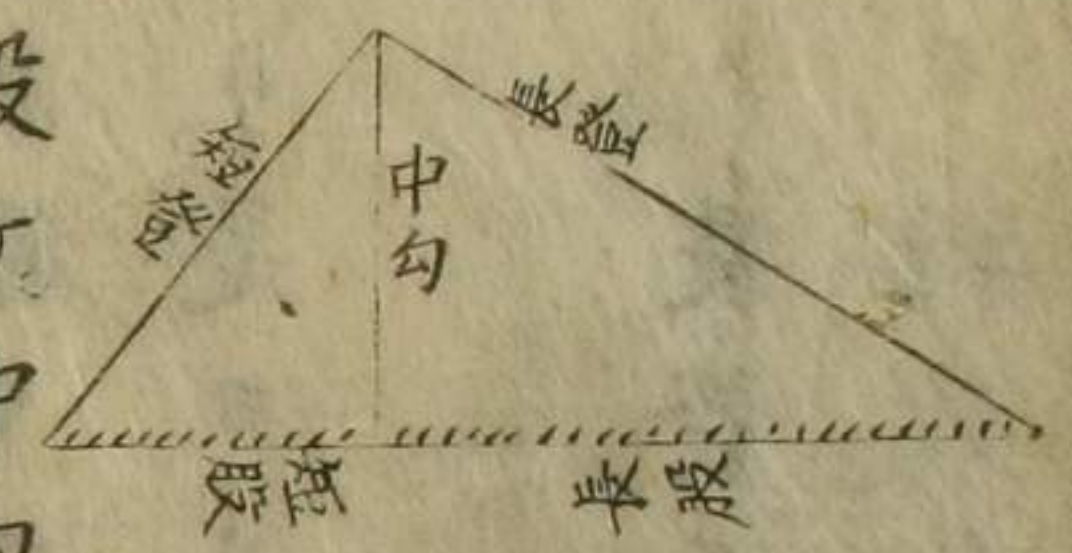
何



如此圓規ニテ四三
要ノ結テ所中勾
也

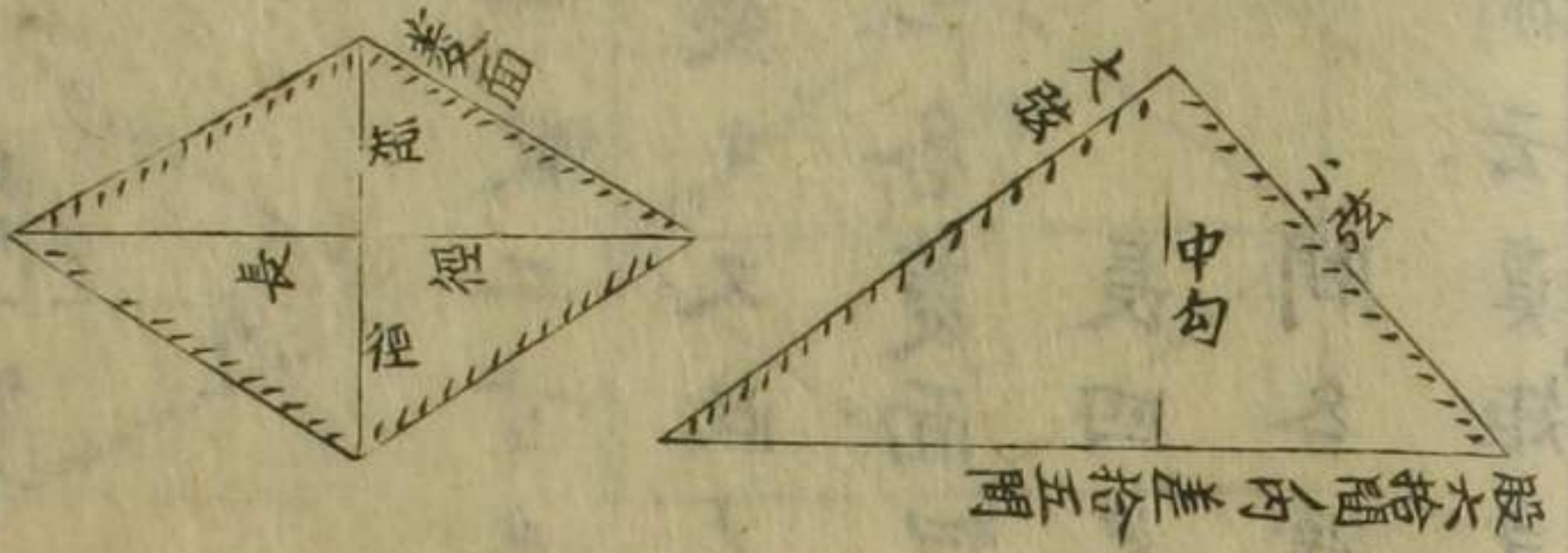
術云。圓規ヲ開テ拾間ト為シ。真矩ヲ設ケ。股二拾五間ヲ曳キ。次キニ二拾間ノ口ヲ以テ。一方ノ留ヨリ圓ヲ回シ。次ニ拾間ノ口ヲ以テ。又一方ノ留ヨリ圓ヲ回シ。兩圓線ノ交ル所。即チ中勾ノ留リナリ。是ヨリ直ニ線ヲ下ケ。中勾間ヲ得テ。問ニ合

長登五拾間。短登三拾五間。中勾三拾間。問長短股幾何



術云。真矩ヲ設ケ。股ノ線ヲ曳キ捨テ。次キニ堅三勾ノ線ヲ曳キ。次ニ圓規ヲ開テ拾間トシテ。堅ノ勾線ヲ三ツ量リ。星ヲ突次キニ長登五拾間ノ口ヲ設ケ。中勾ノ星ヨリ。股ノ線ハ合セ。又三拾五間ノ口ヲ設ケ。短登ノ股ヲ設ケ。各兩股ヲ得テ。問ニ合ス。

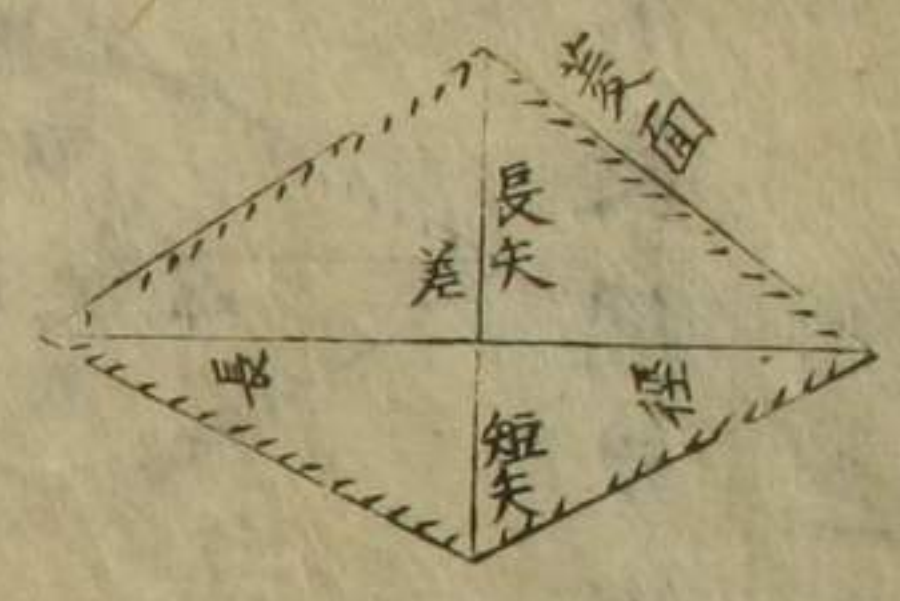
股六拾間。中勾三拾間。長股短股ノ差。拾五間。問。大小弦。各幾何。術云。真矩ヲ設ケ。圓規ヲ開ヒテ六拾間ヲ列シ。差



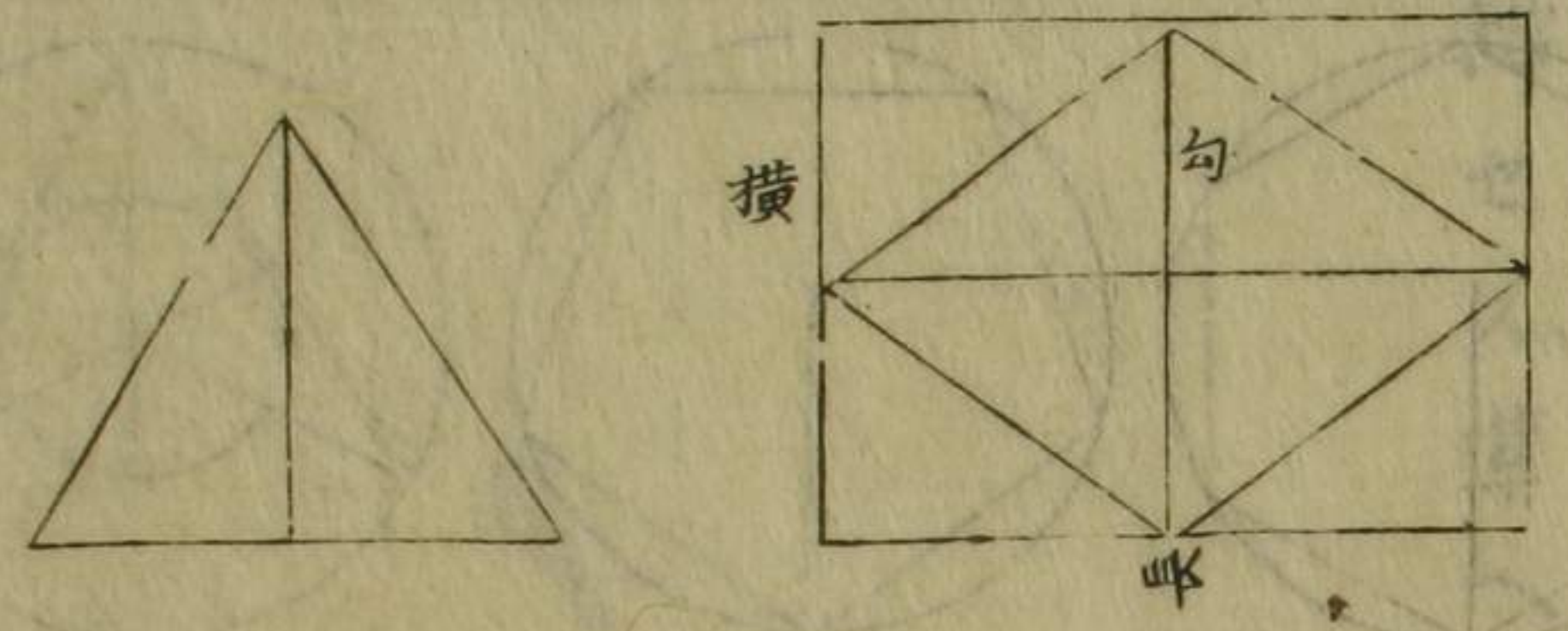
七拾五間ヲ減シ。余リ四拾五間ヲ折半シテ短股二拾二間半極ル。是ニ差七拾五間ヲ加入シテ。各前術ノ如ク。大小弦ヲ得テ。問ニ合ス。菱面各五尺。短徑六尺。問。長徑。幾何。術云。真矩ヲ設ケ。圓規ヲ開テ短徑ヲ六ツ量リ。折半シテ三尺トナル。是ヲ勾ニ用ヒ。菱面ヲ弦ニ用ヒ。股ヲ倍シテ長徑ヲ得テ。問ニ合ス。

長徑三尺。短徑二尺。上下ノ差四寸。問。長短菱

面各幾何

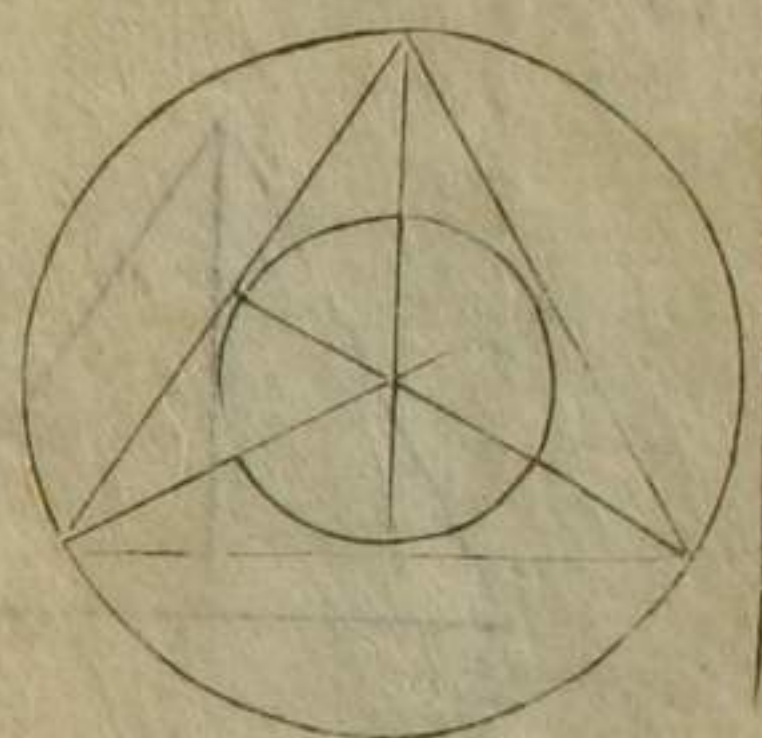


術云真矩ヲ求メ圓規ヲ開テ一寸ト
 為シ左右へ拾五ツハ量リ星ヲ突キ
 別ニ二拾ト四ツト量リ折半スレハ
 一尺二寸ヲ得タリ是ヲ上ノ豎真矩トシテ星ヲ
 突キ又此ノ内四寸ヲ減シ八寸ヲ下ノ真矩ト為
 シ各菱面ヲ得テ問ニ合ス
 長四尺横三尺ノ四隅ヲ切テ圖ノ如ク菱面
 問各幾何

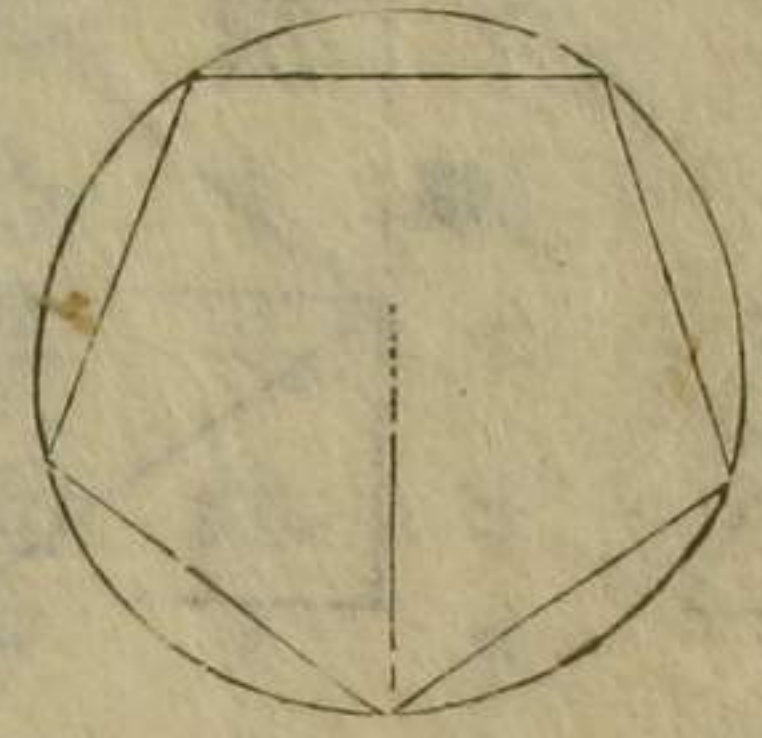


極ハメ其ノ長ヲ折半シテ股ニ用ヒ
 又横ヲ折半シテ勾ニ用ヒテ一方ノ
 弦ヲモトメ菱面各寸尺ヲ得テ問ニ
 合ス
 三角ヲ求ル法十字ヲ設ケ圓規ヲ開
 テ左右へ均ク星ヲ突キ又圓規ヲ兩
 星ニ合セ其口ヲ以テ豎ノ線ニ合セ
 三方極ル又ノ術ニ平圓ヲ設ケ半徑
 ニツ圓規ヲ開テ圓周ヲ量テモ三角
 ヲ得ルナリ

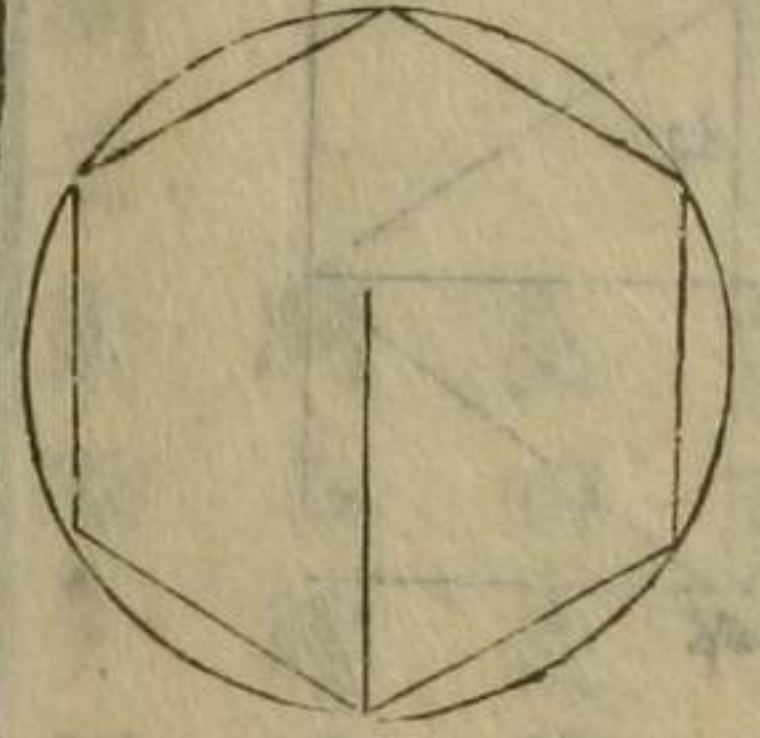
見巨元云可見幸矣



三角内外ノ圓ヲ知ルニハ圖ノ如ク
中心ヲ求メ平圓ヲモフケ内外ノ圓
徑ヲ求ム



五角ヲ求ルニハ平圓ヲ設ケ半径ニ
又半径ノ五分一ヲ加ヘ周ヲ量テ五
角ヲ得ナリ



六角ヲ求ムルハ平圓ヲ設ケ半径ヲ
以テ周ヲ量ルニ大格六ツアリ亦三
角ヲ求テ知ル事モ有リ一理ナリ右
三角ヨリ九角十角其ノ法アリト雖

トモ前術ニ依テ求ムルニ便リ有ル故別ニ茲ニ
辨セス。準ヘテ知ルヘシ

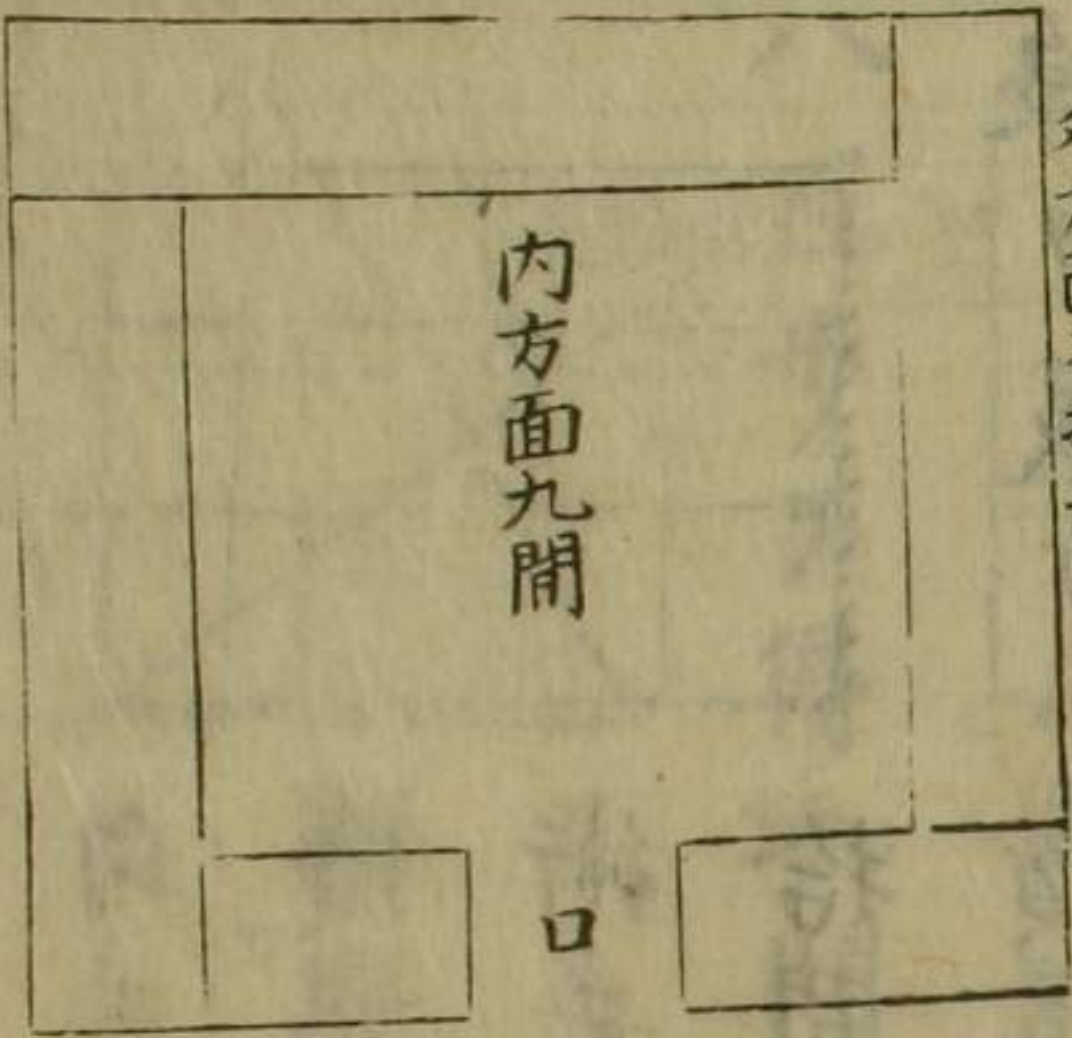
規矩元法町見辨疑卷之二

見矩元法町見辨疑

知... 身... 卷之三

規矩元法町見辨疑卷之三

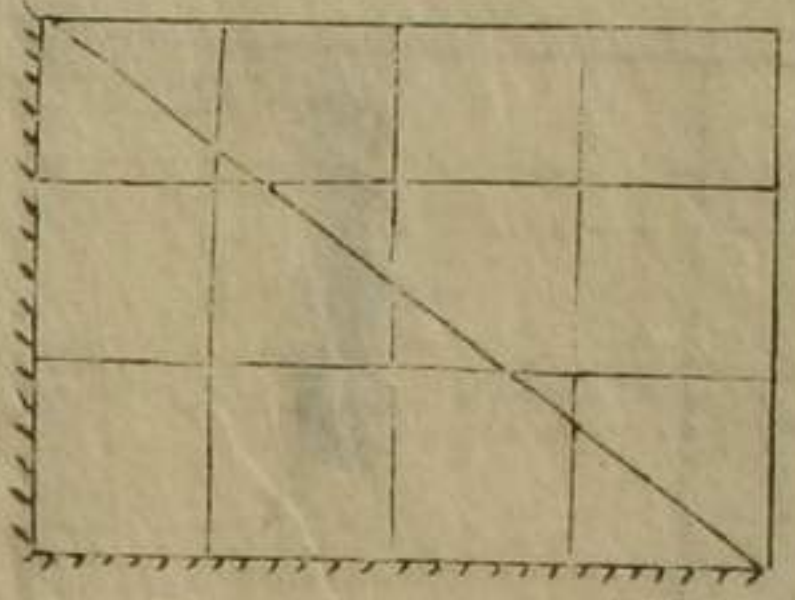
東都 島田 源道桓 著
崎陽 西川 源正休 閱



鋪三間。長四拾三間ノ土居ヲ四
 角ニ折廻シ。前ニ五間ノ口ヲ明
 ケ。内外方面問幾何
 術云。コンパスヲ開ヒテ一間ト
 十シ。四拾八計テ四ニ割レハ。拾二間ヅトナル。
 是ニ幅三間ヲ加ヘ。外面拾五間ヲ得タリ。拾二間

見... 町見辨疑

ノウ千三間ヲ減シテ。内間方面九間ヲ得テ問ニ合ス。

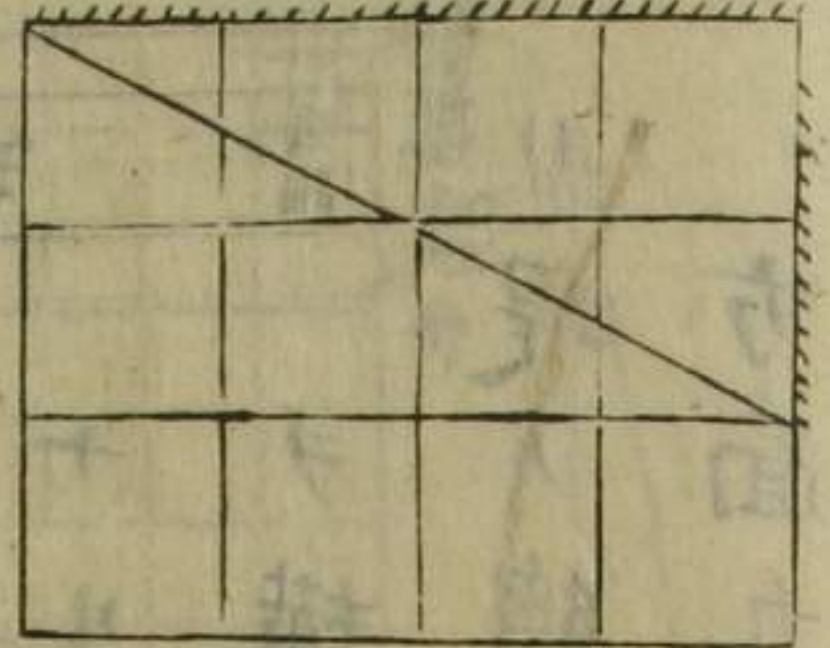


勾三拾間。股四拾間ノ勾股田アリ。歩積問幾何

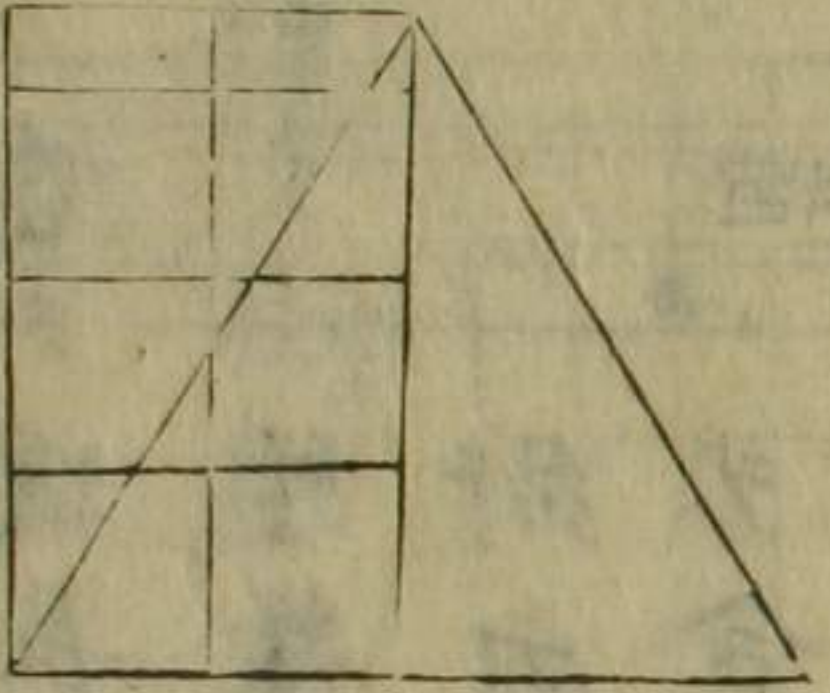
術云。真矩ヲ求メ。コンパスヲ開ヒテ拾間トシ。縦横ニ三ツ四ツ圖ノ如ク

線ヲ曳ケハ。積毎ニ各百歩ナリ。是ヲ角ヨリ折半シテ。實歩六百歩ヲ得テ。問ニ合ス

廣勾三拾間。狹勾拾間。長四拾間ノ片狹田有積問幾何

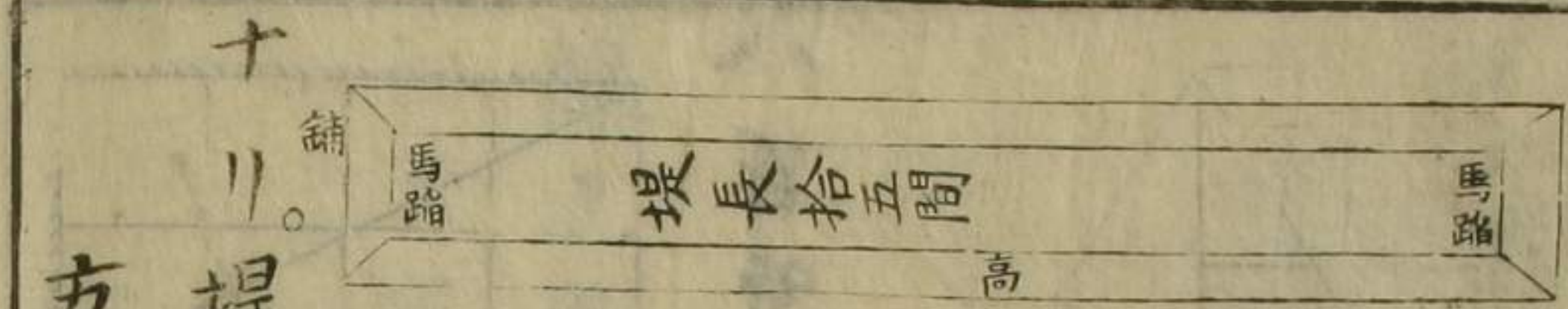


術云。真矩ヲ求メ。コンパスヲ開ヒテ拾間トシ。圖ノ如ク片狹ヲ求メ。狹勾ヨリ上八百歩ヲ折半シテ。實歩四百歩ヲ得。是レニ下ノ四百歩ヲ加入シ。八百歩ヲ得テ。問ニ合ス



三角方面各四尺。問積幾何
術云。定法ヲモツテ三角ノ形ヲ求メ。ソノ方面ヲ四拾ニ割テ。其ク千ヲ以テ。中斜ノ長ヲ得。圖ノ如ク半面ヲ縦横線ヲ曳キ。歩積ヲ得テ。問ニ合ス。五角拾角皆是

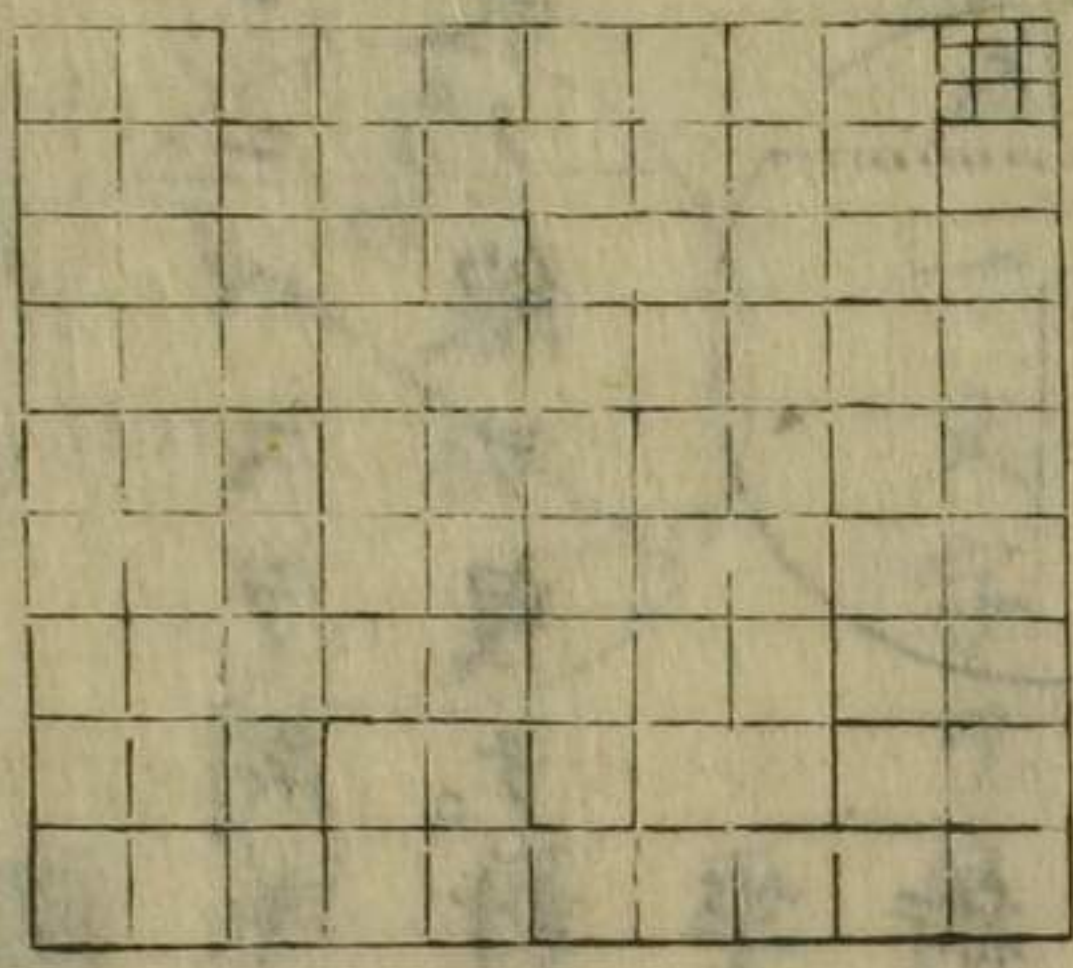
ト同シ



堤長拾五間。鋪五間。高二間。馬踏三間。問歩積幾何

術云圓規ヲ開ヒテ一間トシ。鋪ト馬踏トヲ合セテ折半スレハ四間ナリ。是ヲ長ニ用ヒ。二間ヲ横ニ用ヒテ線ヲ曳ハ。八歩トナル。是堤ノ小口ノ歩積ナリ。又コノ八歩ヲ横ニ用テ。拾五間ヲ長ニ曳ハ。百二十拾歩ナリ。堤ノ總歩ヲ得テ問ニ合ス

積每三九歩

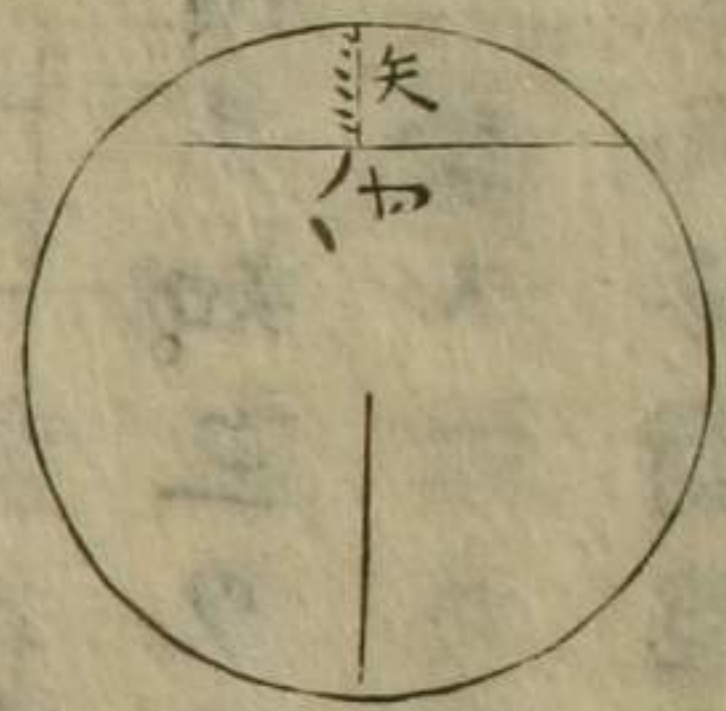


術云コニパスヲ開ヒテ。一寸トシテ。九寸延シ八尺一寸トシ。是レヲ三ツニ割レハ。二尺七寸トナルヲ横ニ用ヒ。長三尺ヲ縦ニ用ヒテ線ヲ曳ケハ。

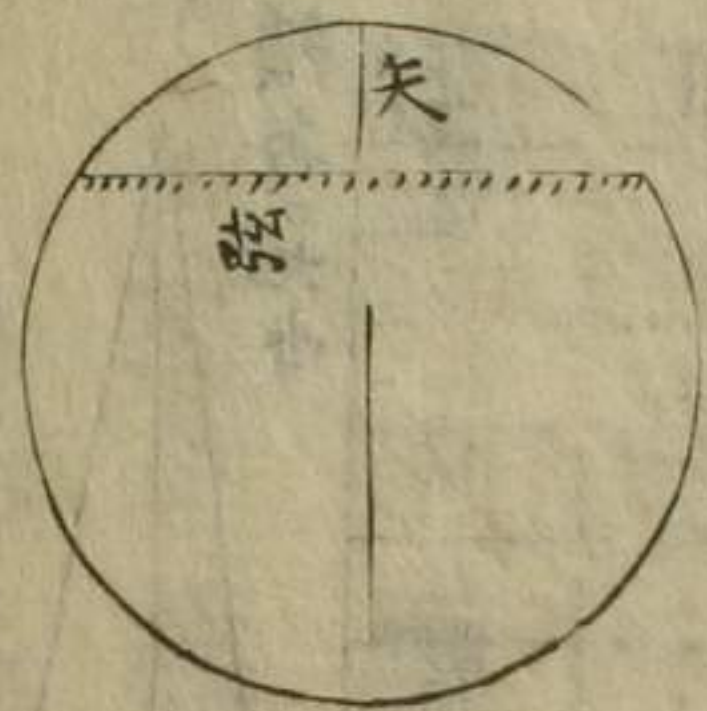
八百拾歩ヲ得テ問ニ合ス。三角錐ハ。三角ノ法ヲ以テ歩積ヲ知。三ツニ割テ前術ノコトク歩積ヲ得テ。問合ス

平圓徑一尺。弦八寸。問矢寸幾何

見矩元法町見算

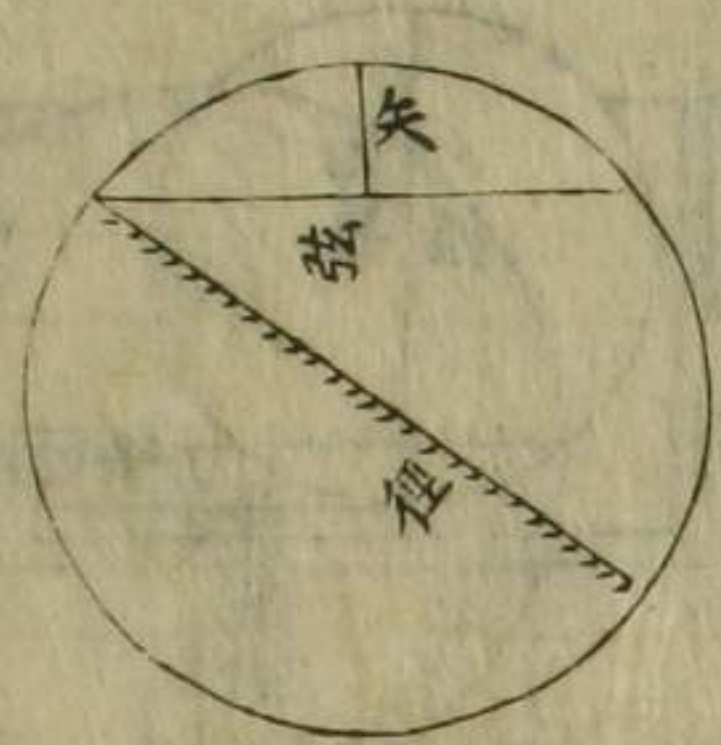


術云真矩ヲ設ケ。コンパスヲ開テ
一寸トシ。中心ヨリ五ツ量リテ其
口ヲ合セテ平圓ヲ廻セハ。一尺ノ
圓ヲ得タリ。別ニ八寸ノ口ヲ以テ。
コンパスヲ開キ。圓周ノ合所。弦極ル是ヨリ真矩
矢ノ線ヲ曳テ。計リ得テ。問ニ合ス



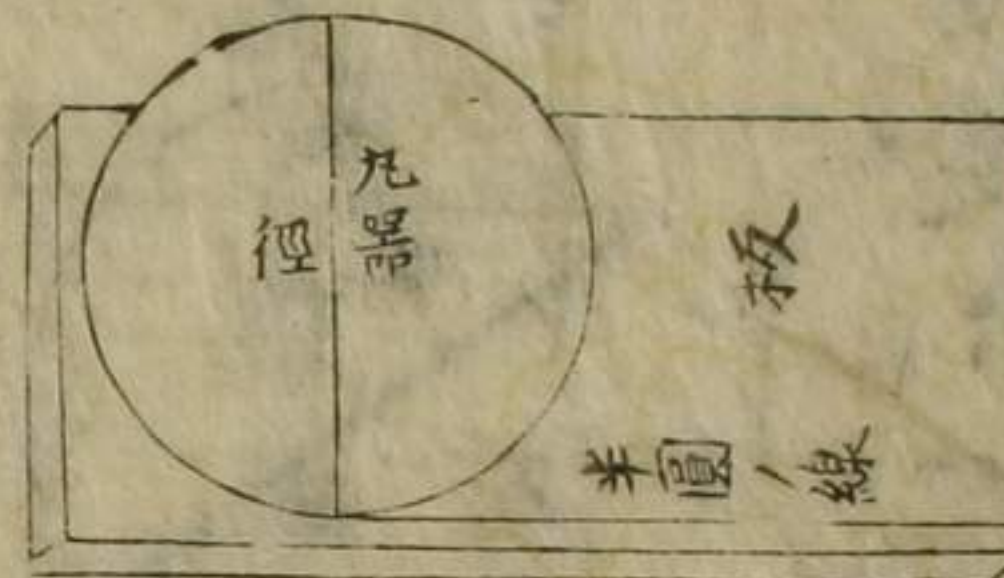
平圓徑二尺。矢四寸。問弦幾何
術云。真矩ヲ求メ。コンパスヲ開テ
一寸トシ。中心ヨリ拾計リテ。其口
ニ圓規ヲ合セ。是ヲ以テ平圓ヲ廻

セハ二尺ノ圓徑ヲ得タリ。別ニ四寸ノ口ヲ求テ。
中墨ノ周ノ方ヨリ四寸ヲ曳テ。其止リニ横ニ真
矩ノ一文字ヲ曳テ弦ヲ得テ。問ニ合ス



平圓之。闕矢三寸。弦一尺二寸。問。圓
徑幾何
術云。コンパスヲ開テ一寸ト為シ。
真矩ノ中ヨリ左へ六ツ計リテ星
ヲ突キ。一尺二寸ノ半弦トシ。又上へ三ツ計リテ。
矢ノ三寸トス。次ニ圓規ヲ開キ。中墨ノ線ト矢ノ
星ト弦ノ星ト。合所ヨリ平圓ヲ廻シ。實ノ圓徑ヲ

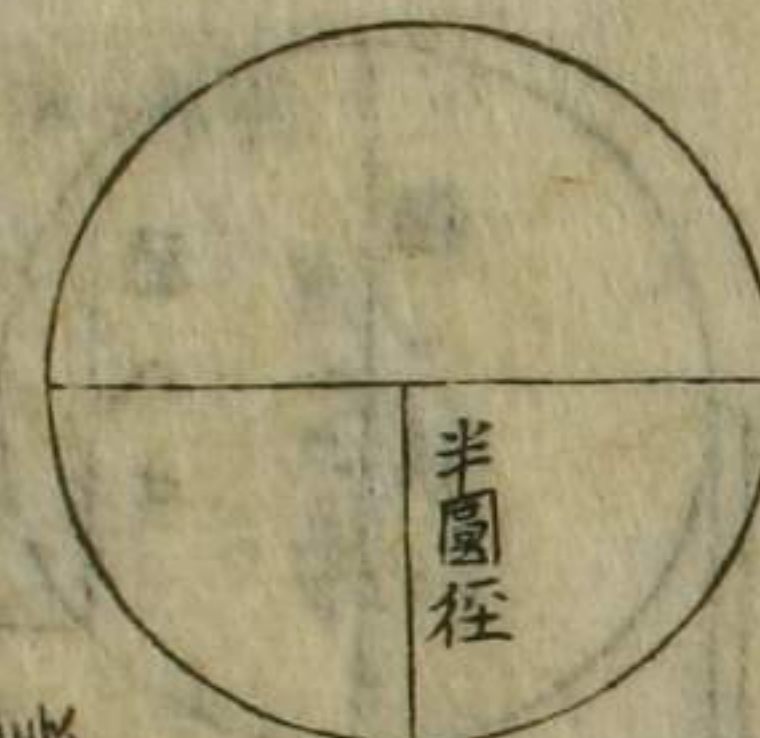
得テ問ニ合ス



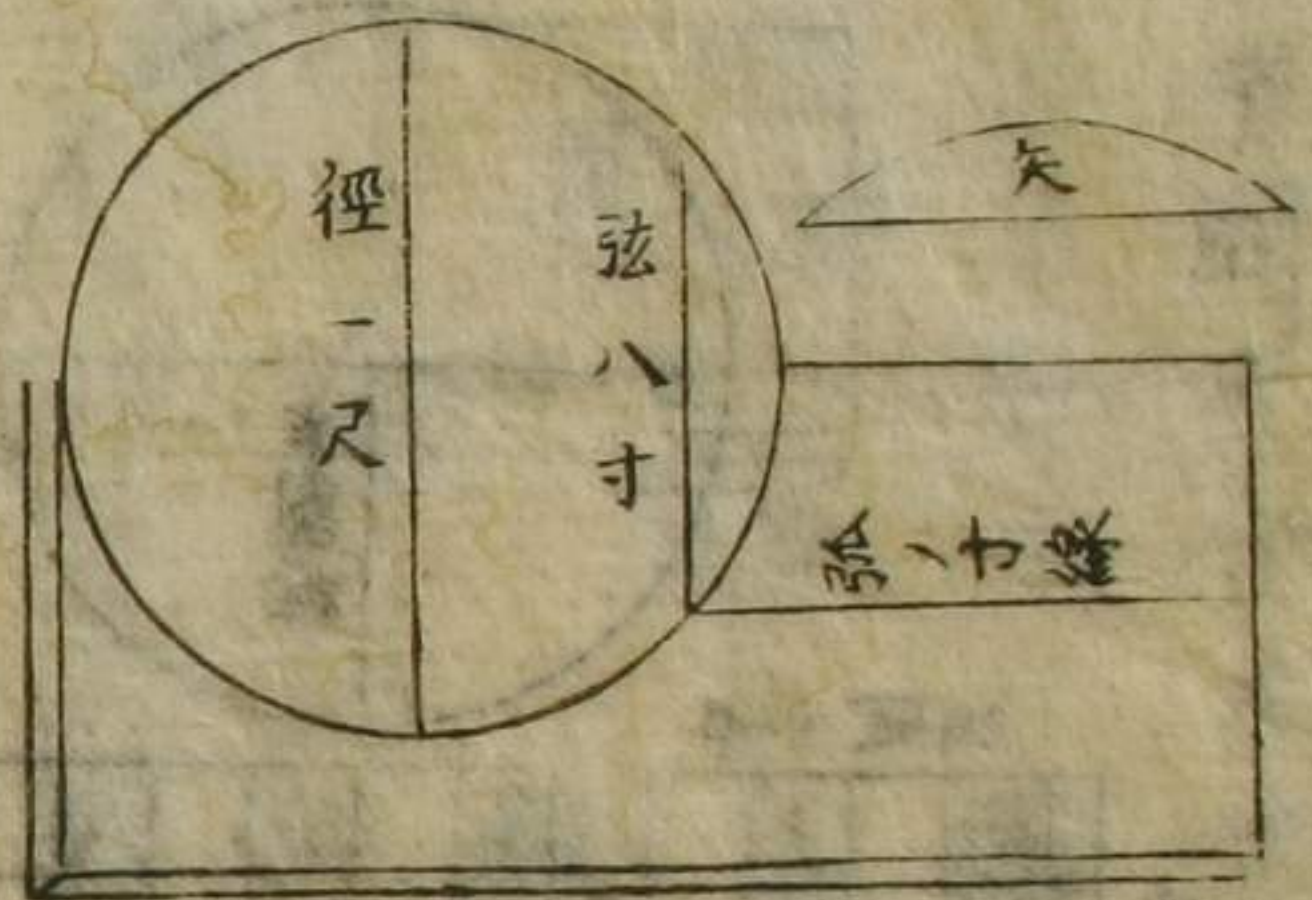
圓周ヲ求ムル事。板ニ直線ヲ曳キ。益ノ如キ九キ器ニモ中徑ヲ曳キ。板ノ墨ニ合セテ。半周ヲ廻シ。是ヲ倍スレハ。圓周ヲ得ルナリ。斯ノ如ク求ムト雖トモ。算法ニイワユル定法。徑一周三。三一四二。三一六。三一六二。等ノ圓法ヲ以テ細密ニ求メ知ル如クハ非ラス。圓周ハカリニ限ラス。次キニ載スル所ノ圓積。弧矢弦皆トキニヨリテ是ヲ用ヒ。測量ニ便

リセハ又一助ナランカ。然トモ是ヲ必トスル事勿レ

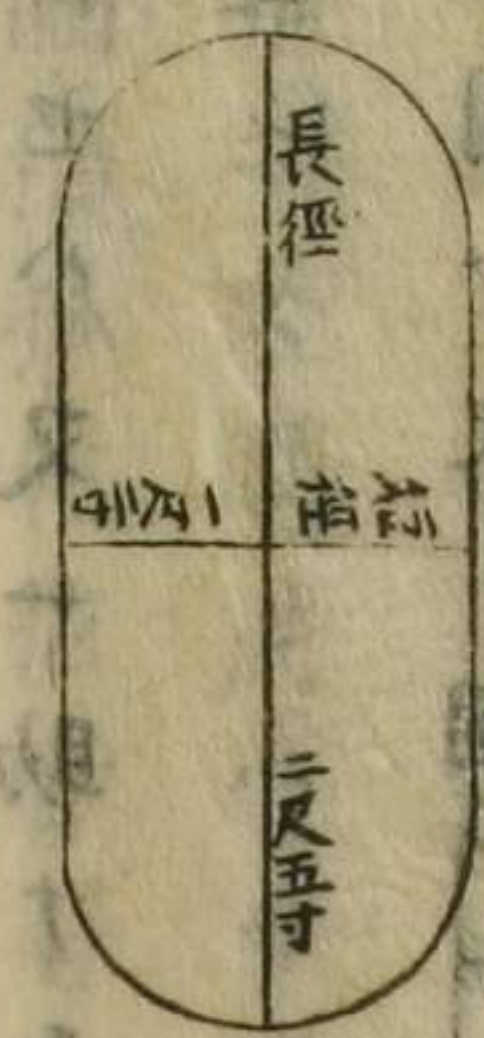
此圖一尺ノ圓
徑七九ノ法ニ
因テ圖ス



圓積ヲ求ムル事。半周ノ歩積ヲ長トシ。半圓徑ヲ横トシテ。縱横ニ線ヲ曳テ。圓積幾何ヲ知ル。然レトモ算家ニ謂ユル定法。七五。七八五五。七九。七九令五。等ヲ以テ求ムル如ニハ非ス

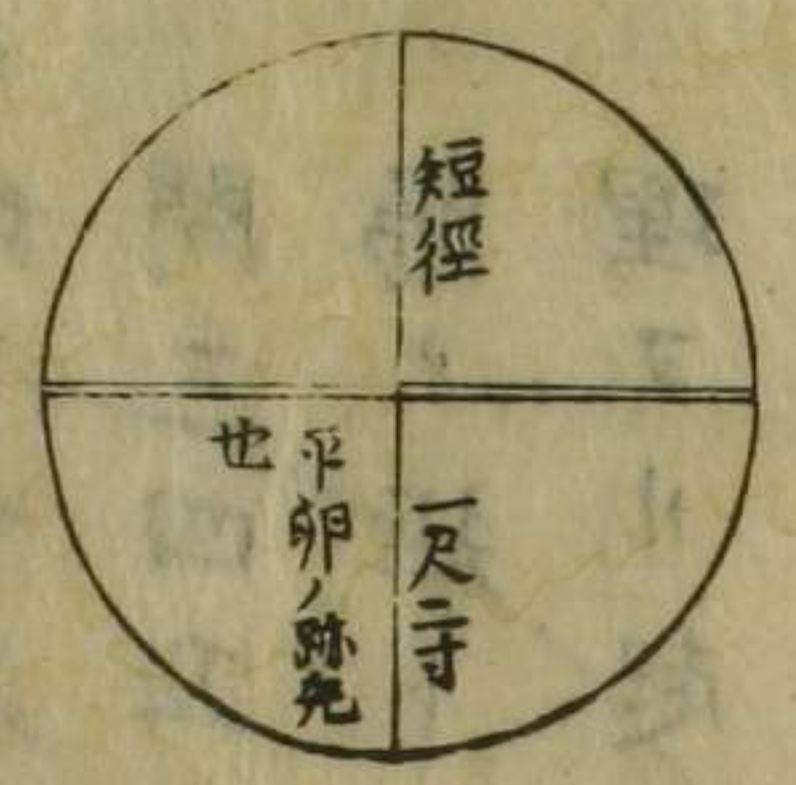


テ考へ知へシ



弧、矢、弦ヲ求ムル事。徑一尺ニシテ八寸ノ弦ナレハ。弧ノ寸ヲ求ムルニ、九器ニ徑一尺ヲ曳キ、又八寸ノ所ニ線ヲ設ケ、前法ニヨリテ弧寸ヲ求メ知ルコト。圖ニ因

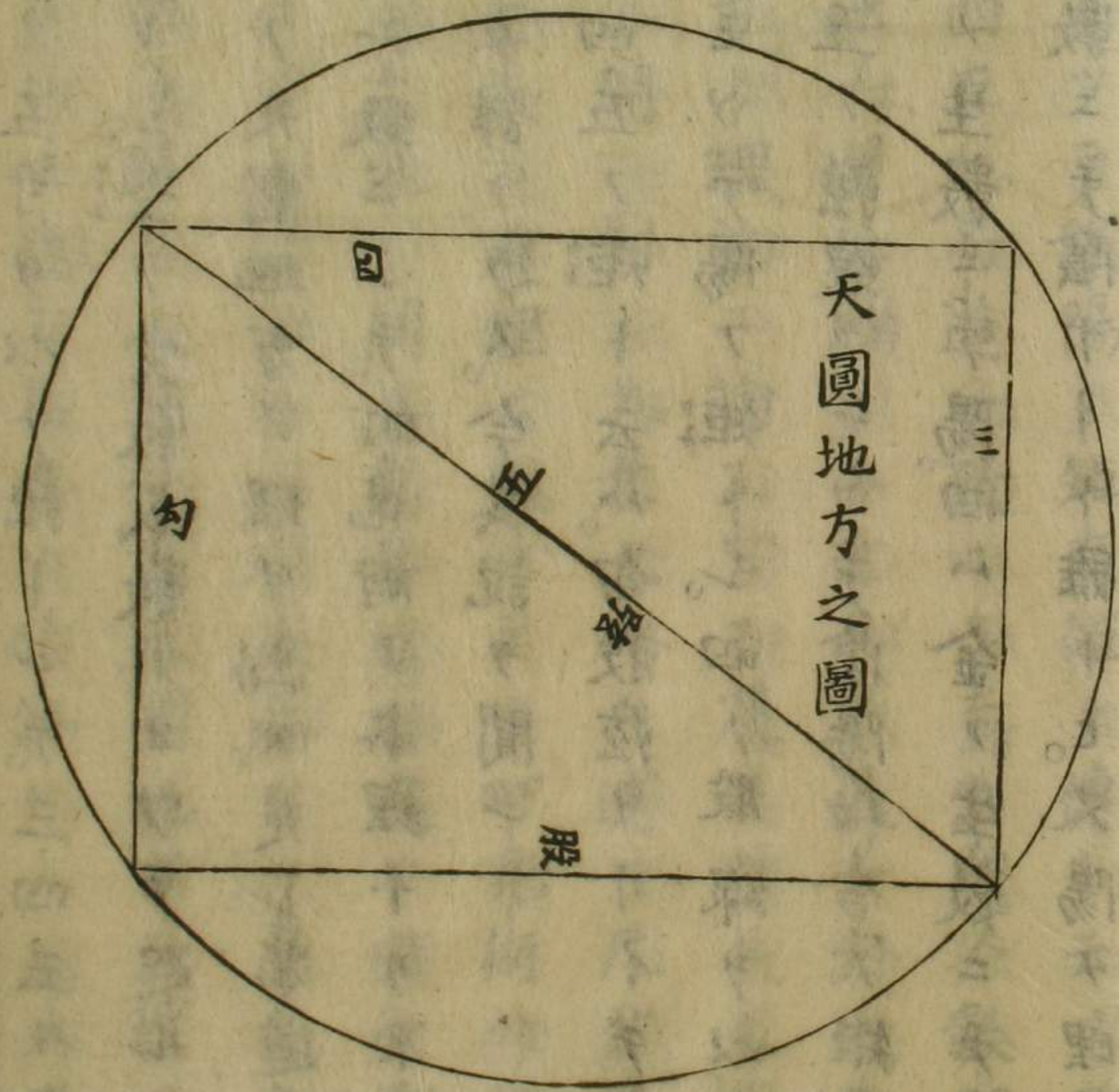
平卵形ノ積ヲ求ルニハ、假令ハ長徑二尺五寸、短徑一尺二寸ナル時ハ、圓規ヲ開



テ一寸トシ、長徑二拾五計リ。此内ヨリ短徑ノ分一尺二寸ヲ減スレハ、残り一尺三寸アリ。是ヲ長ニ用ヒ、短徑ノ一尺二寸ヲ横ニ用テ、線ヲ曳ケハ、中ノ步積百五拾六步ヲ得タリ。又別ニ短徑一尺二寸ヲ圓徑ニ用ヒテ、平圓ノ積、百拾三步余ヲ得タリ。先積へ加入シテ、平

卯積ヲ得ルナリ委ク圖ヨリテ知ヘシ。右ノホカ
近世採用ユル所ノ諸術。幾何品ト云事ヲ知ラス。
皆好事ノ事ナリ。且ツ弧矢弦ノ積。玉積等ヲ求ル
法アリトイヘトモ。其業重シニシテ簡易ナラス。
カエツテ算術ヨリ勞煩ナリ。然レハ用ユルニ益
無シ。故ニ今是ヲ辨セス

問三四五ノ矩。真^{ニカ子}矩ノ傳。勾股弦ノ号。陰ノ矩
陽ノ矩ト云傳アリ。此ノ源ト。天圓地方ノ道
理ヨリ起リ。其圖式五寸ノ圓中ニ。豎ニ三寸
ヲ設ケテ勾トシ。横ニ四寸ヲ列シテ股トシ。



天圓地方之圖

徑ノ五寸ヲ以テ弦トシテ。三四五ノ因テ出
所トシ。全ク生數成數ノ。ヨツテ起ル所モ亦
此ノ天圓地方ノ理ヲ出ズ。是レ易道數術共
ニ一致ニシテ。町見術ノ本理ナリトイヘ
未タ詳ナラス。今其説ヲ聞ン

答曰。三四五ノ矩ト云ハ。勾股弦ヨリイデハ。三ノ
勾線ヲモツテ陽ノ矩トシ。四ノ股線ヲ以テ陰ノ
矩トシ。五ノ弦線ヲモツテ陰陽和合ノ矩トス。又
三八木ノ生數ニテ陽。四ハ金ノ生數ニテ陰。五ハ
土ノ生數ニテ陰ナリト雖トモ。又陽ノ理有リ。木

略是ヲモツテ陰陽ノ矩真矩ノ傳ト云フカ。且ツ
此ノ三四五ハ。易道一致ニシテ。生成ノ數理ニ至
ルマテ。此ノ理ヲ出ズト云コト最モ空ナルカナ。
天圓地方ノ理。茲ニ論スルニ及バズトイヘトモ。
今初學ノ問ニ對シテ。其大略ヲ述ニ。凡ソ天圓地
方。河洛生成ノ道理ニ至ツテハ。町見術ハ云ニ及
ハス。都テ天地ノ間。萬事萬術及ヒ虫魚糞土ノ
理ニ至ルマテ皆十易ノ理ニ漏ル。事ナシ今マ
此等。小藝ヲ學フ人何ソ。天圓地方ノ理ヲ窮ル
事ニ關ランヤ。蓋シ易書ハ始終コトク此ノ天

圓地方道理ニ因テ。河洛卦爻ヲ以テ。萬物生成。陽
圓陰方ノ道ヲ示シタル者ニテ。易ノ本文ト云ハ
即チ河洛ノ生成。卦爻ノ圓方也。連山歸藏ト云シ
時ハ。文字ナク。今ノ文字ハ後代周二至リ。生成卦
爻ノ注釋ヲ。文王周公孔子ト云ル聖人加ヘ玉ヘ
リ。天圓地方生成ノ理ヲ究ニト欲セハ。深易書ニ
入テ後。此問ヲ明ムベシ。今兒童ニ對シテ勞ノ爻
ニ答ヘズ。按ルニ町見ノ小術ヲ學フ者。此理ヲ究
ルニ及ハスト雖モ。此術ヲ廣大ニ云テ人ノ信用
願フカ故ニ。易理ニ及ホスカ。異客何ノ易理ヲ説

カニ。後人附會ナル事明シ。今マ吾子此理ヲ究ニ
ヨリ。能ク町見ノ事業ヲ勉メヨ。何ノ雞ヲ殺スニ
牛ノ刀ヲ用ヒンヤ。笑ベキニ堪タリ。此傳又別ニ
深意有ルナリ。故ニ辨セサルノミ。此ノ三四五ノ
圖。圓中ニ長方ヲ設ケ。三寸ト四寸トニ合スルカ
如ク。強テ作為シタル者ニテ。自然ノ三四五ニ非
ス。此圖何ノ易理ニ符合センヤ。此ノ圖式別法有
リ。口授ニ非レハ辨シ難シ

又問。量地指南ニ云。當術ハ元ト伏羲氏ノ一
画ヨリ起リ。後代此教ヘ流レテ紅毛ニ入り

見巨元三町見辭

却テ紅毛ヨリ本朝ニ傳ヘシト云云。是十ル
ヤ否ヤ

答曰。此ノ術三十。數理ヨリ出タル者十リ。故ニ伏
羲氏ノ一画ヨリ始マルト云ハ。最モ空十リ。然レ
十モ流レテ紅毛ニ入ト云ハ。甚夕謂レ十三夫レ
數ト云ハ人作ノモノニハ非ズ。天地自然ノモノ
ニテ天ノ覆ヒ。日月ノ照シ。地ノ載セテ萬物ヲ生
スル所。數ナシト云事ナシ。蝦夷國ハ日本ニ属シ
テ。松前主ノ命令ヲ蒙ムルト雖トモ。今ニ至テモ
數アリテ文字十リ。其外戎蠻外夷ノ諸國。文字無

キ國多ト雖モ。數ナキノ國ハ十三。伏羲ノ時モ文
字十リ。數ヲ以テ天地ノ道理ヲ著述シタル者。是
ヲ河圖卦爻ト云テ。即チ易書ノ本文也。伏羲ノ時。
縦ヒ文字有ト雖トモ。文字ヲ以テ陰陽五行ノ道
理ヲ述ルトキハ。數ヲ以テ述ニハ及ヘカラス。其
故如何ントナレハ。文字ハ數ノ如ク天地自然ノ
者ニハ非ス。皆國々ノ人作ニシテ。僅カニ國三國
ノ外通用十リ。國々各文字有テ通用シ。中華ノ文
字ト雖モ。專ラ通用スル者ハ。日本朝鮮琉球ノ三。
又文字ハ字形ニ古今ノ不同有リ。數ハ古今ノ不

同十。故ニ礼樂射御書數ノ中千。古今ノ不同十
 久。和漢外夷ノ不同十キモノハ。惟リ數ノ三。礼ハ
 至テ重ク。聖人ノ制法ナリト雖トモ。中華ニ於テ
 モ。古ノ礼法今マ用ル事能ハサル者多シ。况ヤ本
 朝ニ於テヲヤ。數ノ一二三四五六七八九十ト序
 ルモノハ。易モ商賣モ中華モ外夷モ異ナルコト
 十三。唯夕言語ノ音聲異ナルノ三。數ハ伏羲氏ノ
 始メテ造リ夕マヘル者ニハ非ス。伏羲氏未生ノ
 前ヨリ天地アリ天地アレハ即千數アリ。天ニ日
 月ノ二數五星ノ五數アリテ。運行ノ數ヲ生ス。一

歳ノ中千。至テ晝ノ短キ日ヲ冬至ト云。當年ノ冬
 至ヨリ來年ノ冬至マテ。三百六十五日ノ數アリ。
 又正月元日ヨリ。翌年ノ正月元日マテ。微月ヲ十
 二度ヒ見。滿月ヲ十二度ヒ見テ。十二ノ數アリ。是
 レコノ數ハ。伏羲氏以前ヨリアリテ。此ノ數中華
 モ外夷モ相同シク。往古ト當今ト相同シ。又人間
 始メテ生ルヨリ。血肉骨毛温ノ五躰具テ五數ア
 リ。手ニ指ノ五數。六折ノ六數アリ。足ニ指ノ五數
 六折ノ六數アリ。體内ニ五臟ノ五數六府ノ六數
 有リ。是レ又中華外夷相同シク。古人今人相同シ。

伏羲出テタマヒ此ノ理ヲ觀察シテ。天地萬物ハ
 悉ク理數アリテ。人間ノ萬行萬事皆天地ノ理ヨ
 リ出テ。數理ヲ通レサルヲ以テ。卦画ヲ著シテ。後
 世ニ示ス。紅毛易書ハ著ハサズト雖トモ。天地萬
 物ノ道理ヲ究メ。數理ヲ知ルコト最モ精シ。都テ
 世界ノ萬國。人物禮法文字器物ハ。國々各々異ト
 雖トモ。數理測量ノ理ニ於テハ。國々皆同シ。此ノ
 理ヲ以テ。此術ノ本原ヲ推察有ヘシ。此理ヲ知ス
 シテ流テ紅毛ニ入ト云ハ。甚理ニ戻レル説也
 問山谷ノ高深ヲ測ル術アリ。先ニ平町ヲ用

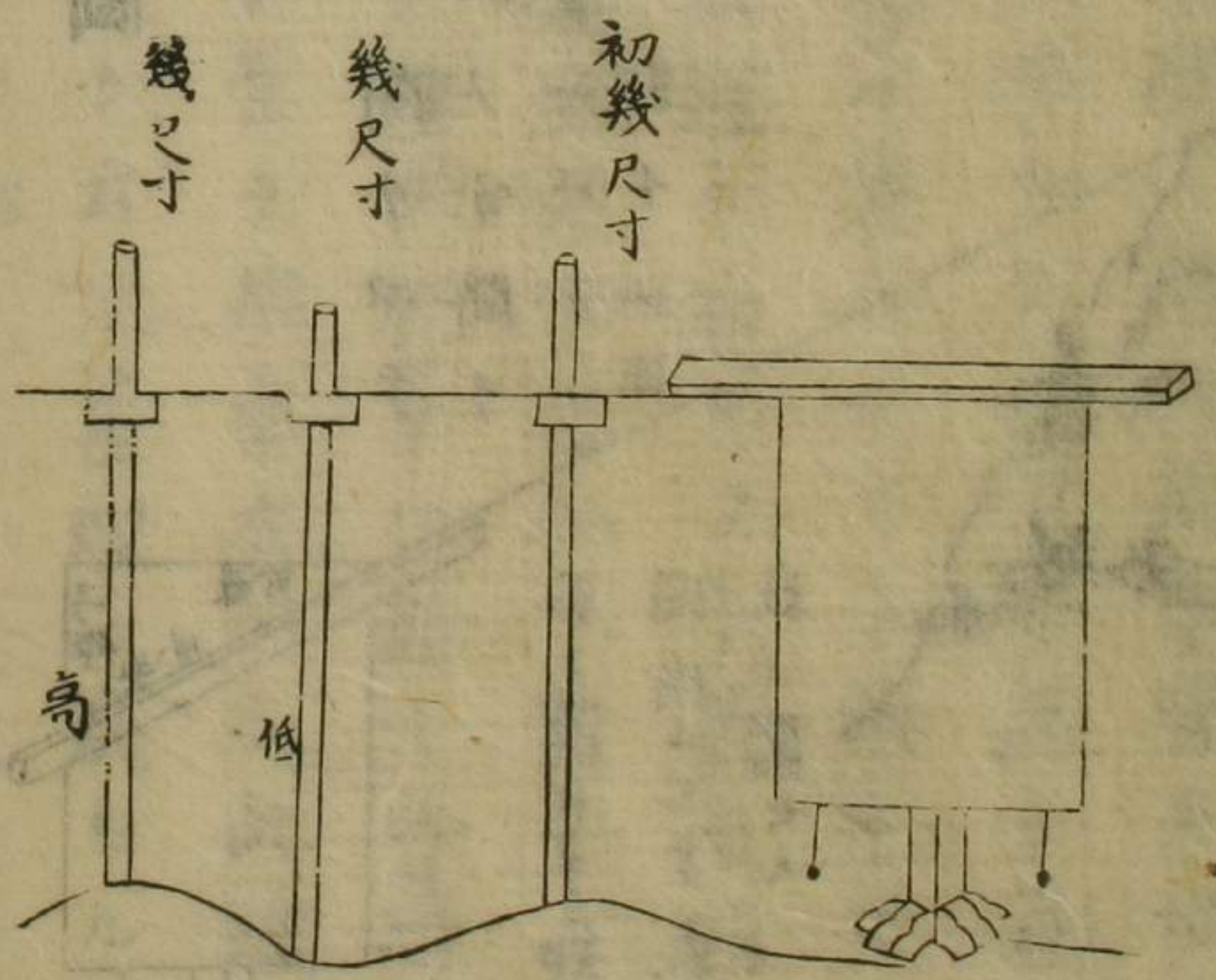
知山之高圖

平町ニテ求タル間ヲ以テ
 五ノ矩ヲ割リ此ノ分間ヲ
 以テ三ノ矩ヲ量レハ山ノ
 高ナリ四ノ矩ハ即チ地徑
 千

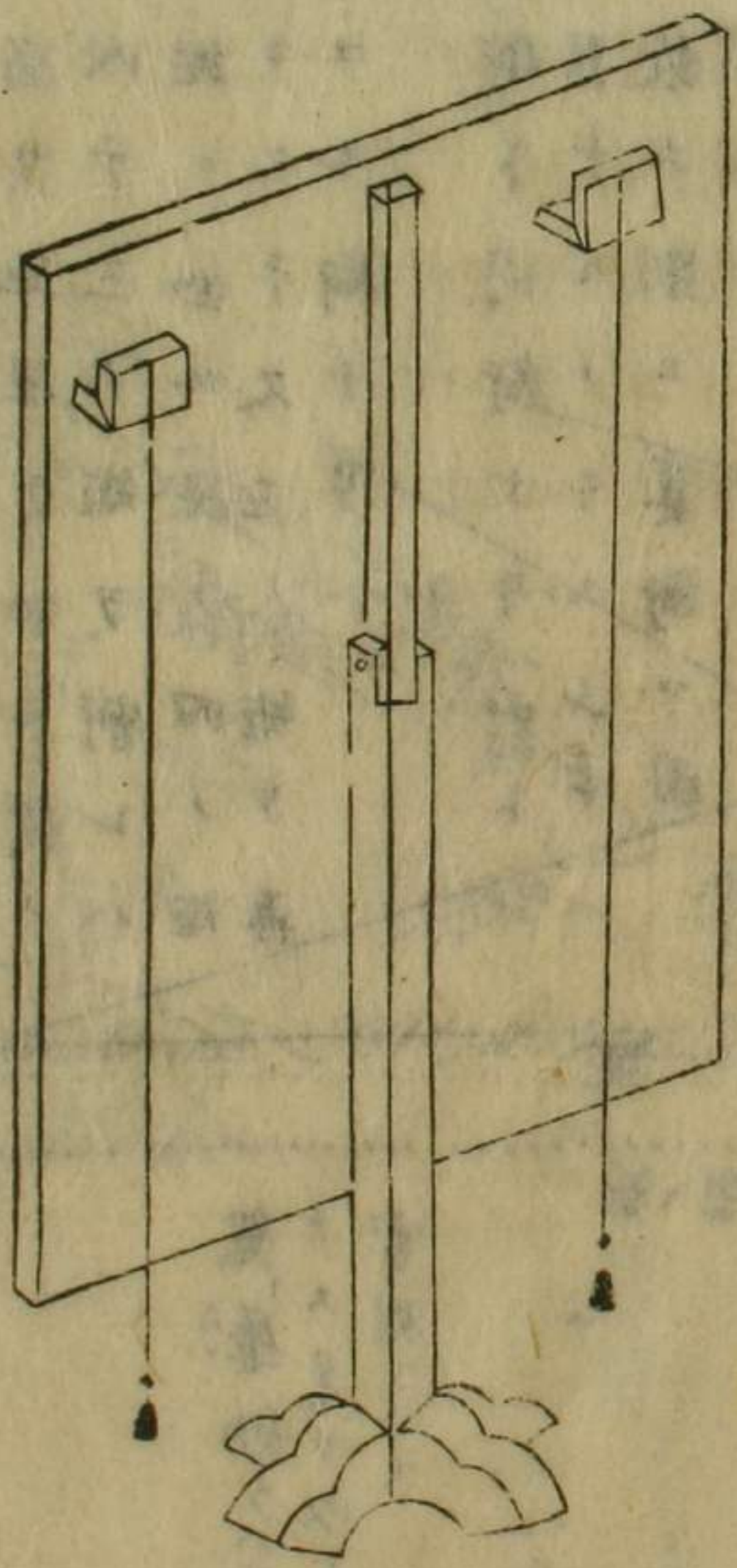


谷ノ深サヲ知ルハ是ノ
 同術ニシテ表裡ナリ
 故ニ圖セス

知地形高下小事見渡之傳圖

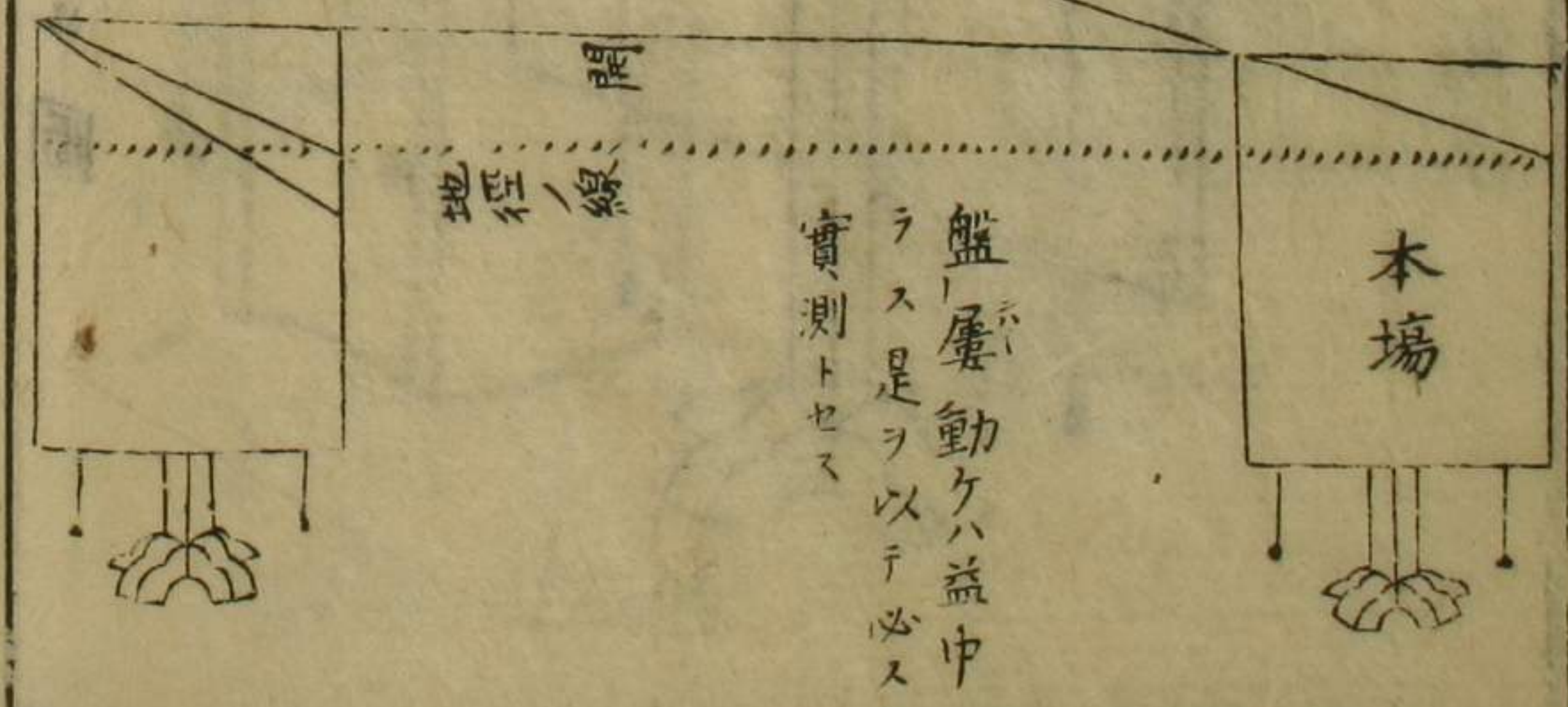


盤ニ水ヲ盛り天頂ヲ極ル圖

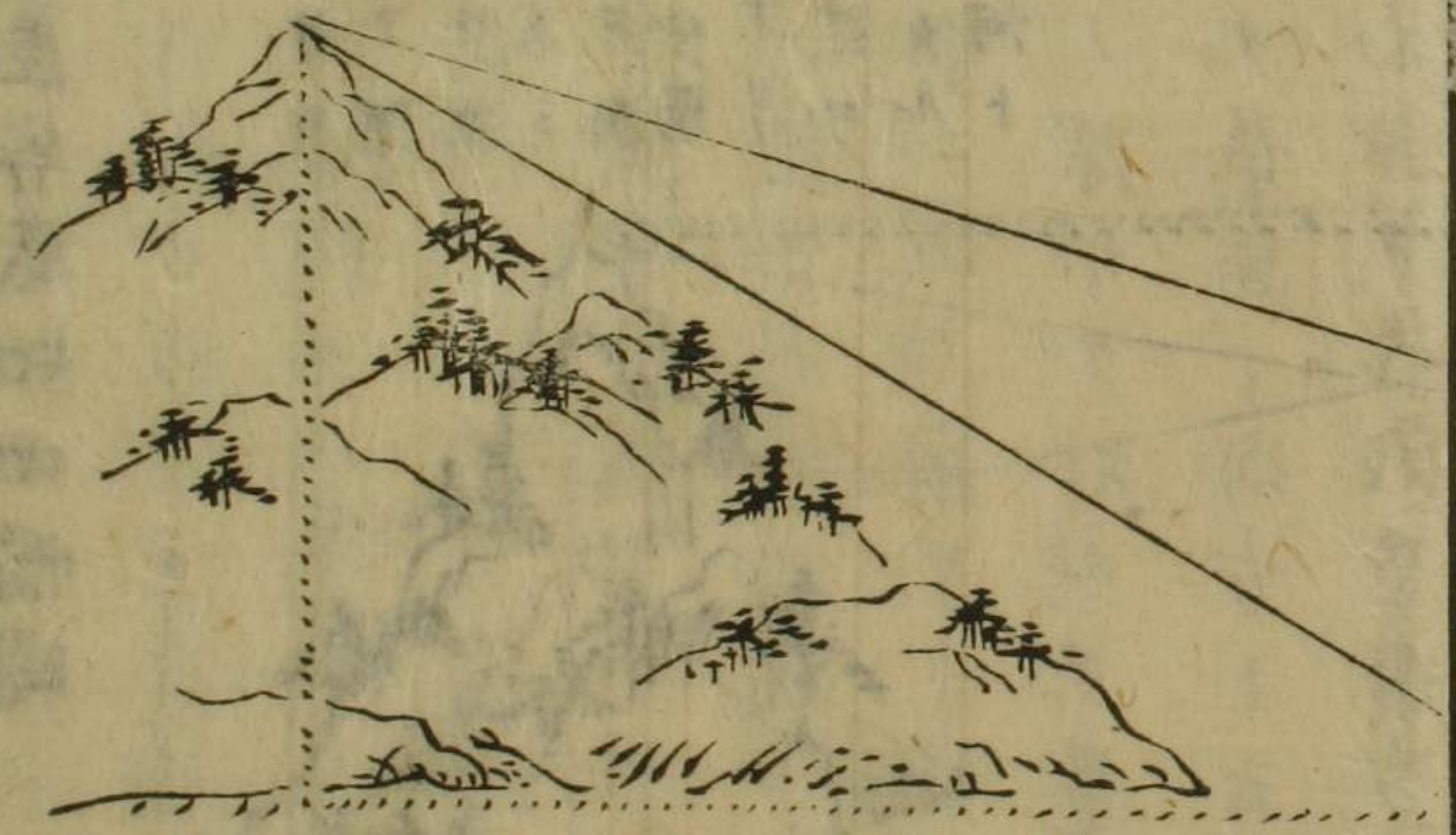


進退之山圖 進形

別ニ五ノ矩ヲ求メス直ニ進
 退シテ高サ地徑ヲ知ル開ノ
 差ヒヲ以テ三ノ矩ヲ割レハ
 四ノ地徑ヲ知ル此ノ四ノ矩
 ヲ分間ニシテ又三ノ矩ヲ再
 割リ替ユル術ナリ
 前後真術ト同術ナリ山ト
 平陸ト異ナルニシテ
 地理同シ故ニ別ニ真術ヲ圖
 セス

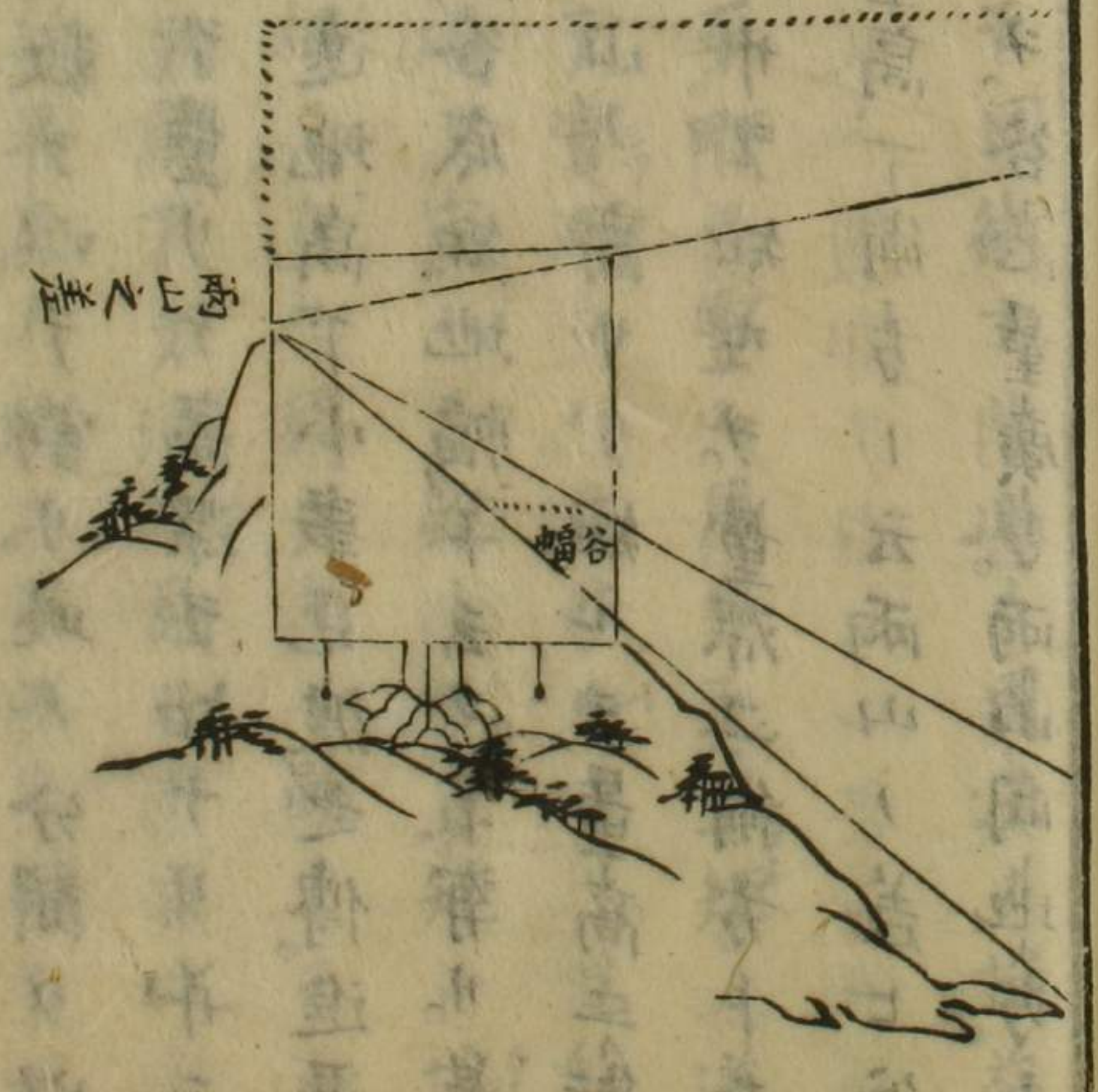
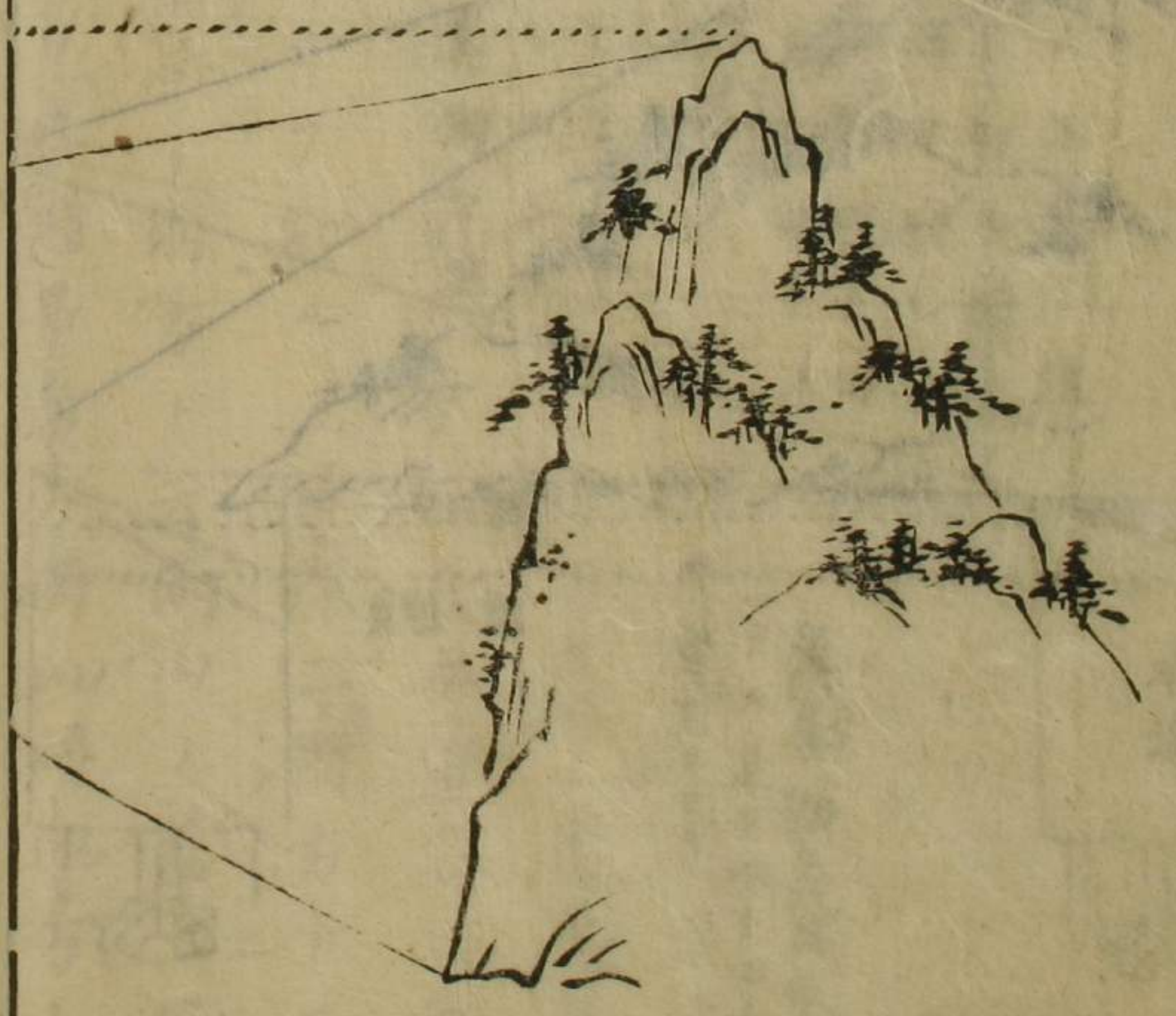


盤^ハ屢^ニ動^クケハ益^中
 ラス是ヲ以テ必ス
 實測トセヌ



兩山之差谷底知地幅圖

一方ノ山高サヲ
 量リ兩方谷ノ深
 サヲ知ル先ツ法
 ノ如リ直ヲ正シ
 五ノ如リ直ヲ正シ
 ニ求メタル分間
 ニ改メ量ルナリ
 言ハ山谷高深ヲ
 一術ニ累子タル
 十リ意味沼河ト
 相同シ



七次ニ見盤ヲ豎ニシテ垂糸ヲ以テ天頂ヲ
極メ定規ニ引キ摸シ。其墨線ヲ先ニ平町ニ
テ求メタル間數ヲ以テ割り。此ノ分間ヲ以
テ見盤ノ差ヒヲ量リテ。高深ヲ知ナリ。并ニ
知地形高下隔遠境高下小事見渡之傳。進退
之山。兩山之差。谷底知地幅ト云コト有リ。是
ヲ量地指南ニ。山ノ高サヲ知ルヲ。量高二術
方ト云。谷ノ深サヲ知ルヲ。量深ニ術方ト云。
進退ノ山ヲ。量高一術方ト云。兩山ノ差ヒ谷
底地幅ヲ知ルヲ。谷心量廣方。兩山同地方ト

云ヘリ。イツレモ同術ナリ。此ノ用法ノ損益
ヲ聞ン

答曰。高深ヲ測ルハ。平町ヲ豎ニ用ヒテ。真矩ノ道
理ヲ述ヘタル者ニテ。實測ニハ非ナルナリ。見盤
ニ垂糸ヲ用ヒテ。天頂ヲ定ムト雖トモ。真矩ニ協
フ事難シ。タトヒ天頂ノ直ハ得タリト雖トモ。少
キ見盤へ定規ヲ當テ。高下ヲ測リ見ルト云コト。
正ク中ルヘキ理ナシ。平直ノ地ニ用ユル時タモ
猶ヲ動キ移テ直サタマリ難シ。然ルヲ况ヤ器ヲ
豎ニ成シテハ。猶以テ居ルヘキ理ナシ。按スルニ

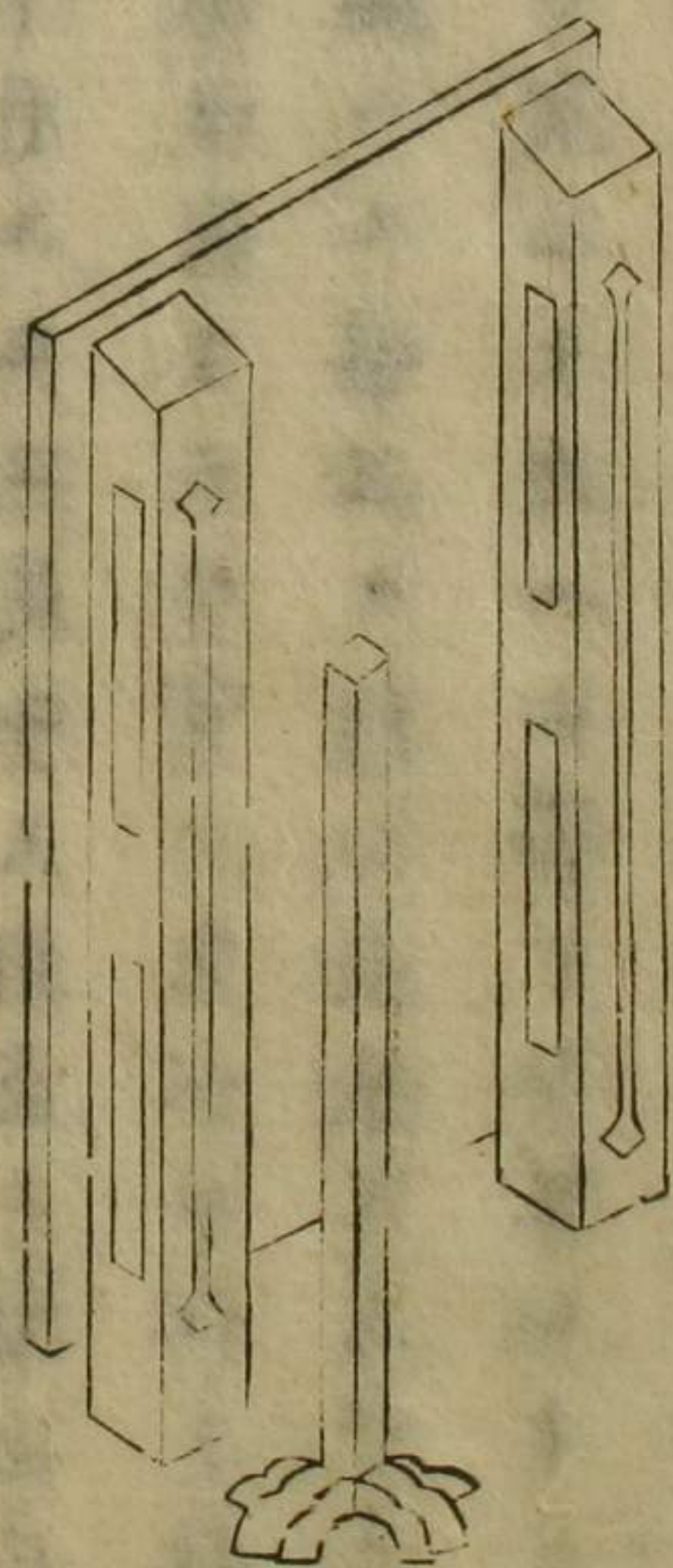
都テ地形ノ高下ヲ測量スル其源ト如何ト云ニ
新夕ニ水田ヲ開ラキ。用水ヲ通スルニ。水ノ乏シ
キ地ハ。遠境ヨリ水ヲ洩クニ。河水ヲ堰キアケ。或
ハ地ヲ掘テ水ノ勾配ヲ考カヘ。地形ノ高下ニ隨
テ溝ノ淺深ヲ究ハメ。或ハ堤塘ヲ築ク一。水ノ流
ニヨツテ。高低ヲキハメ。或ハ川ノ瀬違ヒ等ニ至
ルマテ其ノ業細密ナラサレハ。民力ヲ勞シ。錢貨
ヲ費スノミナラス。民間村里ノ患ヒ。其ノ害却テ
甚タ大ナリ。蓋シ治水ハ國郡ヲ治ムル要用ナリ。
皆土地ノ高低ヲ測リ。民間ノ利害ヲ察スルニ有

ル而已斯ノ如キ至テ重キ事ニ用ユヘキノ術ナ
レハ。能ク其業ヲ正スヘキナリ。今問所ノ水ヲ盛
用法。曾テ取り用ユルニ足ラス。無益ノ事也。凡ソ
水ヲ盛テ。高低ヲ糺スニハ實ノ生水ヲ以テ糺サ
サレハ。直ヲ極ムル事必ス難シ。垂糸ヲ用ユル事。
大場ノ事ニハ決シテ用ユル事ナシ。然レトモ事
ニヨリテ小細ノ事ニ用ユル時ハ。ソノ器物ノ制
ニ因テ用捨アルヘシ。生水ハ其差ヒ有ルヤ否ヤ
ヲ。釐毛^{モウ}マテ正シ易ク。垂糸ハソノ差ヒ改メ難シ。
故ニ用ヒス。水盛ノ器物用法品々習ヒ有リ。只傳

一非サレハ辨シ難シ。且ツ當時町見者ト云モノ。

添水掛之圖

碓子ニテ張ト云者又此制ニ異ナリ
盤ノ板ヲ溝ニシテ其上ヲ碓子ヲテ
張ナリ



當時制スル所此外數品有リ
皆好事ノ説也故ニ今圖セヌ

見盤ニ下^カ系ヲ用ユル時。風ノアタルヲ厭ヒ碓子
ニテ張タル器ヲ以テ。見盤ニ懸テ。下ケ系ヲ覆ヒ。
或ハ木ニテ作テ是ヲ添水掛ト名付ルモノ有リ。
糸ニ風ノ當ルヲ厭フテ。盤ニ風ノアタルハ厭ハ
サルカ。又實ノ高下ヲ正スニ。見盤ヲ用ヒントシ
テ。斯ノ如キ事マテ細密ナラシムルヤ。論スルニ
足ラス。甚夕不替ノ事ナリ。或人ノ云。生水ハ下ケ
糸ヨリ直合サルモノナリ。如何トナレハ。鋪居溝^{シキイミ}
ニ水ヲ盛^{モリ}或ヒハ盆ノ中ニ水ヲ入ルニ。必ラス中
高ニシテ。正直ナラス。又ハ蓮ノ葉芋ノ葉。總シテ

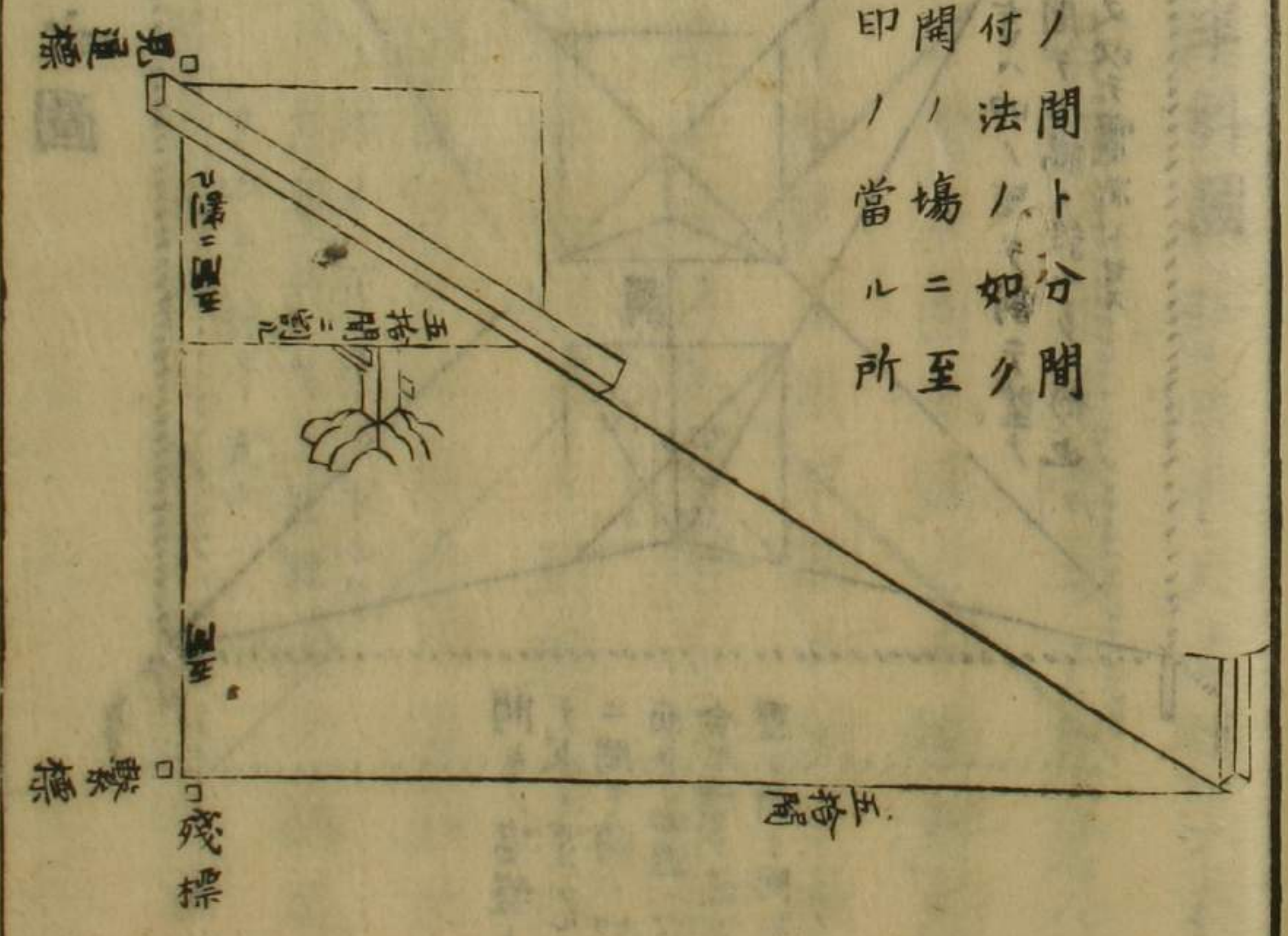
艸木ノ葉ニ露ヲ。置ク皆丸シ。水性其形ノ自然ト
圓ニシテ。平直ノ理ニ協ハス。故ニ細密ノ事ニハ
用ヒ難シト云説アリ。此ノ理可ナルニ似タリト
雖トモ。大ニ誤レリ。未タ生水ヲ以テ釐毛ノ差ヒ
有ルヤ否ヤヲ糾スノ。器物用法ノ有ル事ヲモ知
ラスシテ。唯尋常ノ下系。或ハ鋪居溝ノ属ヲ以テ。
僅カノ堂塔家作ノ地形ヲ平均ニスルノ小事ヲ
以テ。大場ノ平直ヲ索ント欲スルコト。是ハ三十
自己ノ見ナルノミ。物ニヨリテ其ノ損益ヲ考ヘ。
水ノ性丸シト雖トモ。器物ノ制作ニ因テ。平直ト

成シ。是ヲ以テ糾ス時ハ。數拾里ト云ト雖トモ毫
釐モ差ヒ無キ事ヲ知ラス。寔ニ其事ニ馴スシテ
ハ斯ノ如キノ惑ヒアルモ亦空ナル哉。量地指南
ニ。山上ニテ進退シテ谷ノ深サヲ測ル術ヲ。量深
一術方ト載タリ。是進退ノ山ノ理ヲ以テ作者ノ
新意ト見ヘタリ。然リト雖トモ。山上ニテ見込ノ
場ヨリ開キノ場へ退キテハ。地形ニ障リ谷底ヲ
見ル事アルヘカラス。尤モ山上ニテ直ニ進退セ
スニハ。真矩ヲ得ルコト難シ。大ニアヤマリタル
説ト云ヘシ

問望ノ間町ヲ指ト云術アリ。コレヨリ何町
 或ハ何間ト望ミノ場ヘ準繩ヲ用ヒスシテ
 標ヲ建ル事ナリ。又坐シテ地取ト云事アリ。
 繩竿ヲ用ヒスシテ。何間四方ニテモ望ミニ
 随テ標ヲ建ルナリ。此ノ業ニハ半斜ヲ知ル
 ト云習ヒ有ルナリ。皆平町ノ理ヲ以テ見盤
 へ望所ノ三四五ノ形ナリ。分間ニ割テ。是ヲ
 定規ニ合セ。問ニ應スル如クス。量地指南ニ
 望ノ間町ヲ知ルヲ。無的定開方ト云。坐シテ
 地取ノ術ヲ暗指方面方ト載タリ。此ノ用法

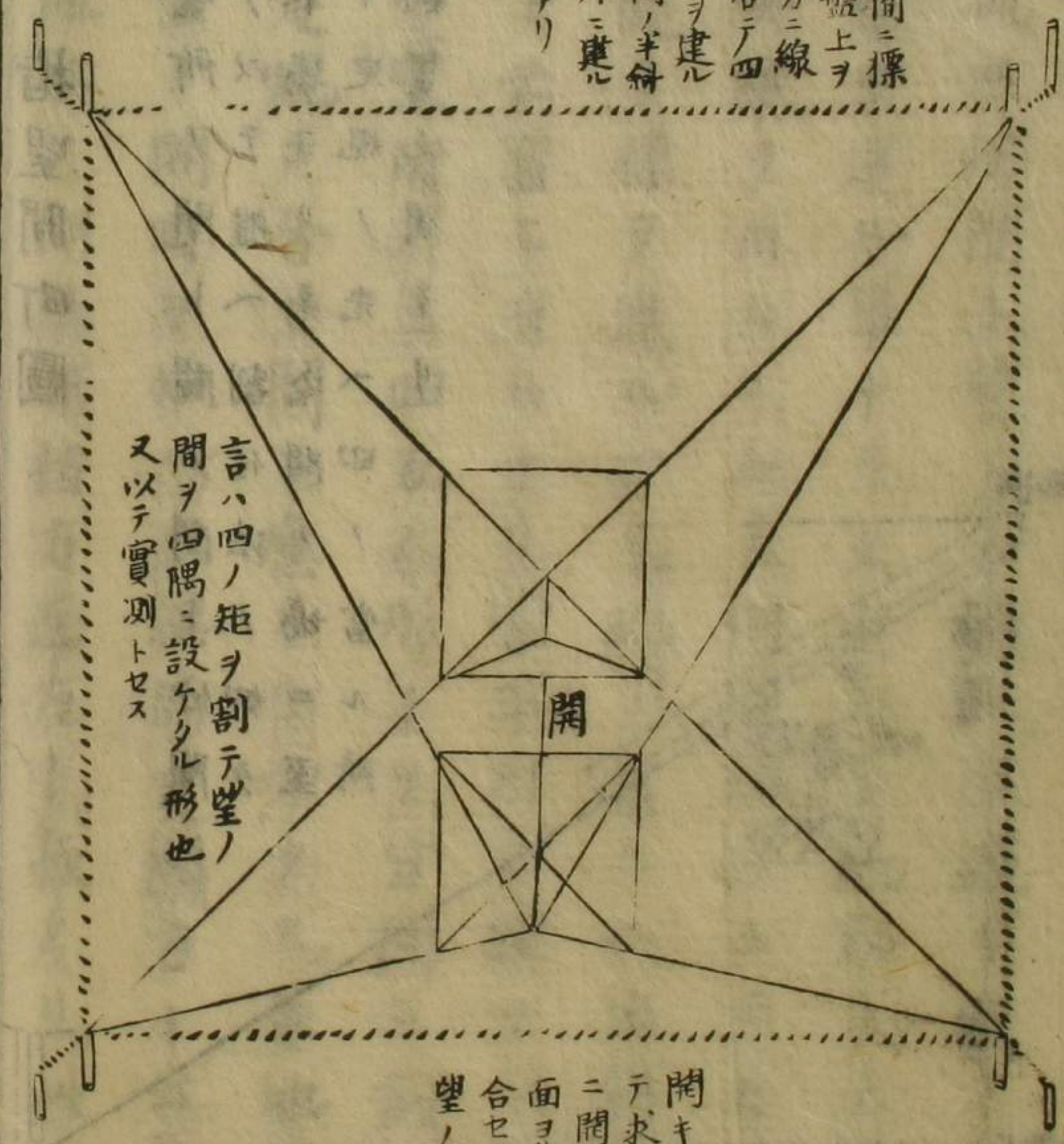
指望間町圖

望所ノ間ト開ノ間ト分間
 ヲ以テ盤へ割付法ノ如ク
 本場ヨリ見込開ノ場ニ至
 リ定規ノ先へ印ノ當ル所
 則望ノ間ナリ



坐面地取之圖

方面ニ拾間ニ標ヲ望ノ時盤上ヲ二拾間四方ニ線ヲ引中ニ居テ四隅へ假ニ杭ヲ建ル但シニ拾間ノ半斜拾四間ノ外ニ是等繫杭口傳アリ

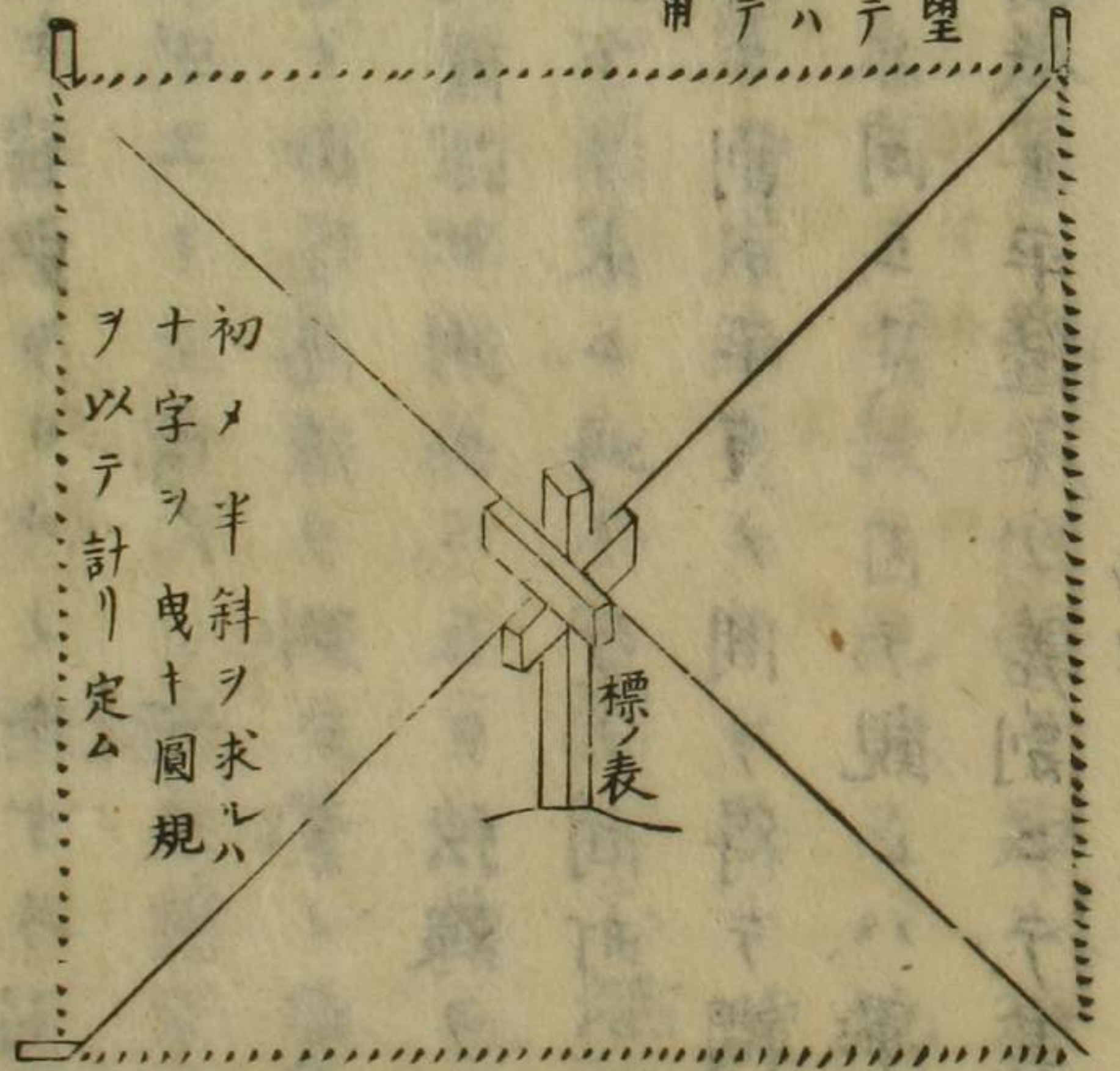


言ハ四ノ矩ヲ割テ望ノ間ヲ四隅ニ設ケル形也又テ實測トセス

間ノ場盤上へ兼テ求メ置ケル間數ニ間キ圖ノ如ク盤面ヨリ四隅へ定規ヲ合セ標ヲ建ル也用法望ノ間ト同シ

同圓角形知半斜圖

一方ノ半斜ハ望ノ間ノ術ヲ以テ標ヲ建テ三方ハ表ノ横手ヲ以テ定ムル也五角六角皆同シ



初メ半斜ヲ求ルハ十字ヲ曳キ圓規ヲ以テ計リ定ム

益有ルヘキヤ

答曰此等ノコト皆中ラサルノ術ナリ。假令ヒ能望ノ間數ニ的中スト云レ用テ何益有ニ按スルニ此ノ段前條ノ山谷高深ヲ測ル業ノ變化ヲ云ニ為メナリ。夫高深ヲ測ルハ五ノ弦線ヲ平町ノ間數ニ割テ上下ヲ求ム。此ノ望ノ間町ハ四ノ直線ヲ望ノ間町ニ割テ平直ノ間ヲ得テ間ニ合ス半斜ヲ知ルモ亦同シ是ニ因テ觀レハ畢竟高深ト平直トハ高低ト平陸トノ差別ニテ其業ハ一理ナリ然ルヲ後人誤リテ實測トス。初學マトフ

事十カレ

問。間竿打樣并ニ登竿。地幅ヲ知ル。箱竿ノ傳ト云事アリ。開ノ間數ヲ糺シ。又ハ地圖ヲ認ムルニ。間竿ノ用法正シカラサル時ハ差ヒ有ルカ故ニ。間竿ヲ二本ニ制シテ。繼竿トス。又登竿ト云ハ。地形高下ノ有ル所ニ至テハ。此ノ繼竿ヲ以テ。鴈木ノ曲尺ニシテ。高下ト地幅トヲ糺スナリ。箱竿ト云ハ。間竿ノ制法ヲ云。各長サ九尺ツ、ニシテ二本ナリ。竿幅一寸二分四方ニシテ。前後ト繼目ニ。金物ヲ

付ケ。寸尺ヲ刻ニテ。打千違へ三尺ツ、ツキ
 テトナシ。二間半ツ、段々打トキハ。直クニ
 タカヒ無クシテ細密ナリ。又直ノ繩張ト云
 。竹三本ニ準繩ヲ付ケ。中墨ヲトリテ。段々
 トヲクリニ。三本ヲ回ルトキハ。曲折スルニ
 シタカヒテ。真矩ヲ得ルナリ。斯ノコトキ用
 法ハ。萬事ニ其益多カルヘシ。今マ其ノ是非
 ヲ問フ

答曰此ノ段書ニ著ハシテ論スル事ニ非ト雖ト
 モ。町見術諸業ニ懸ル用法ナル故ニ。是マテ諸術

間竿之圖

斯ノ如ク三尺目ヲ切違テモ作ル

六尺

三尺



三尺

六尺

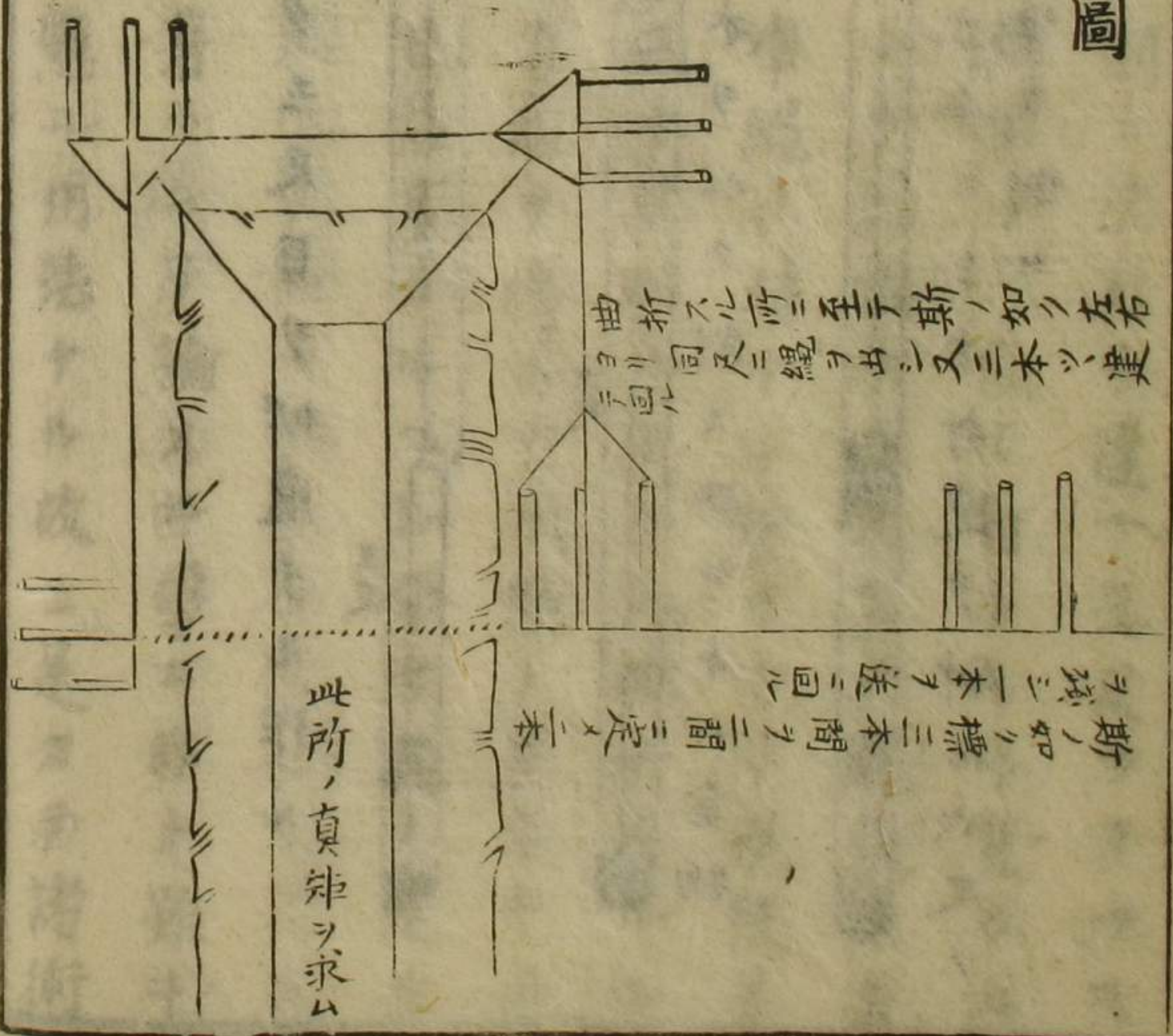


木ハ堅木ヲ以テ制ス跡サキハ金物ヲ付ル

圖ノ如ク二本ニシテ打違テ計ル六尺ノ
 分へ尺寸分ヲ刻ム



直之繩張圖



ノ終リニ此事ヲ茲ニ舉ケテ。器物ヲ細密ニスル
ノ意ヲ示シタリ。次ノ陰ノ目的ヨリハ。平町ト理
同クシテ意味又替レリ。委シクハ次ノ段ト合セ
見ルヘシ。此ノ間、竿直ノ繩張ノ用法。可ナルニ似
テ不可ナリ。箱竿ノ事。其益アルニ似タリトイヘ
トモ。取回シ重クシテ空シカラス。長廿九尺ノ竿
ヲツギクニシテ。間ヲ紮ス事。至極平直ノ場ハ各
別。大場ニ於テ。斯ノ如ク平直ニ打コトナラス。無
益ノ事ナリ。直ニ間ヲ紮スニハ。平面ニ水繩ヲ引
キ。手輕キ間竿ヲ以テ。其間ヲ知ル事常ノコトシ

是レ箱竿ヲ用ユルニ勝レリ。登竿ヲモツテ地幅
 ヲ糺スコト。總テ地形ノ高下少シキ地幅ヲ鴈木
 ノ曲尺ニテ糺スハ。直ナル竹ニ水繩ヲ付テ。天頂
 ノ直ヲキワメ。其竹ヲ計レハ。幾何丈尺ヲ得テ其
 高サヲ知り。其水繩ヲ計ルハ。地幅幾何丈尺ヲ知
 ルナリ。斯ノコトクスレハ。登竿ヲ以テ。五度ニ計
 ルヲ一度ニテ計リ。其業速カニシテ取廻シ空ク。
 然カモ違ヒ無シ。天頂ヲ極ムル事口傳アリ。又直
 ノ繩張ノコト論スルニ足ラス。田舎ノ農夫々モ
 真矩ヲモトムル事ニハ。是ヲウノクテノ曲尺ト

云テ。繩三筋ヲモツテ。曳出スニ。真矩少シモ違ハ
 ガル者ナリ。都テ此レ等ノ小事ハ。堤川除用水ノ
 普請ニ常ニ用ユル業ニテ。予數年ソノ事ヲ試ル
 ニ。山野ニテハ唯手輕クシテ益多シ。至テ細密ナ
 ラントスレハ。却テ違ヒ多ク。第一手問ヲ取りテ
 用ヲ辨セサルナリ。此段ハ皆ナ些少ノ業ニシテ。
 大場ノ事ニハ用ユルニ足ラス。是レ自ラ其場ニ
 臨マサルノ弊ナリ。猶又功者ノ人ニヨリテ尋子
 問ヘシ。此ノ段實測ノ用ニハ非スト雖トモ。斯ノ
 コトク細密ニ云ヘルハ。又別ニ意味有ナリ口傳

見在元去町見序是

卷之三

三十四

ニアラサレハ辨ニ難ニ

知知元法町見辨疑

卷之三

二十五

規矩元法町見辨疑卷之三

規矩元法町見辨疑卷之四

東都 島田 源道桓 著

崎陽 西川 源正休 閱

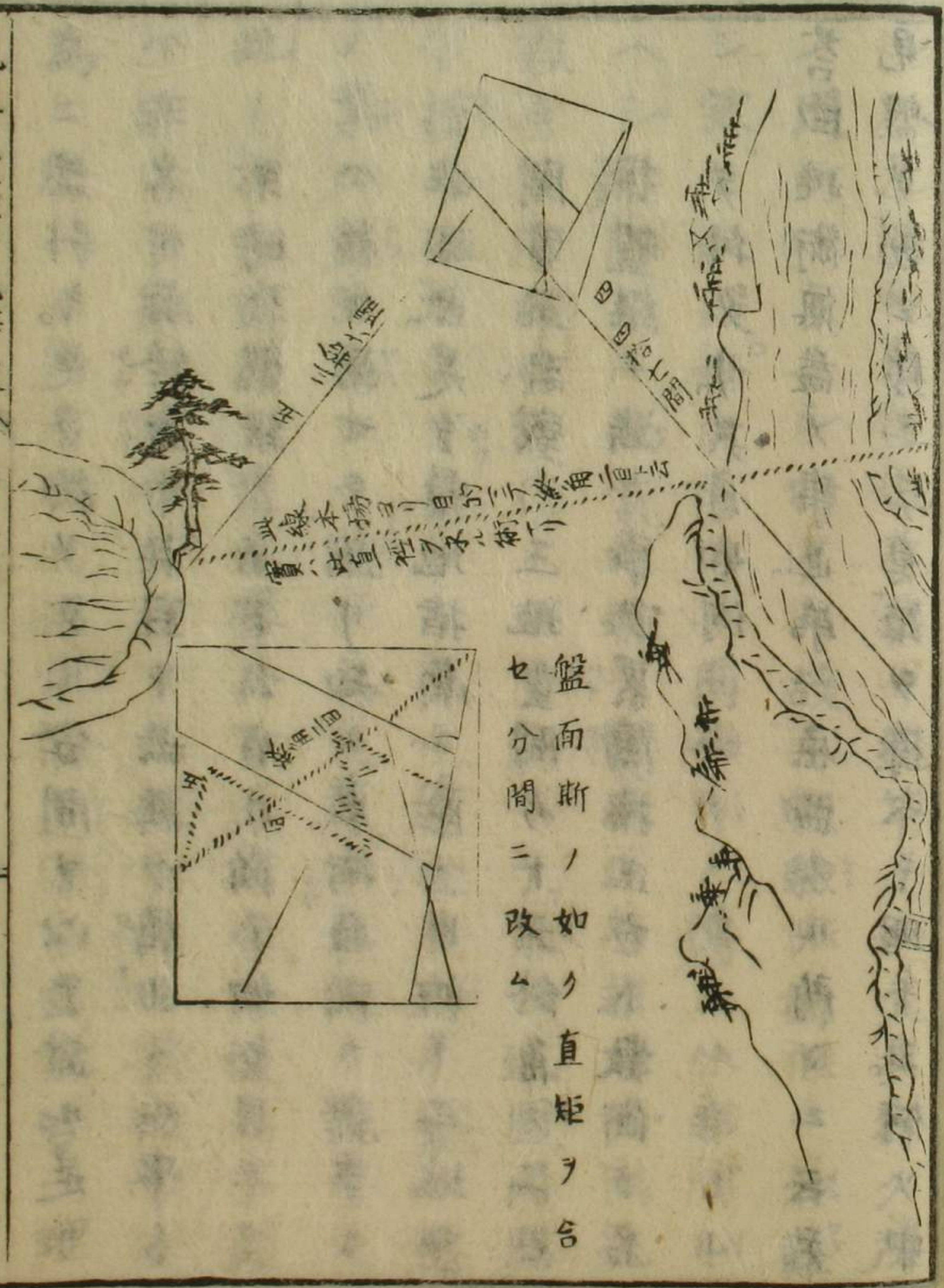
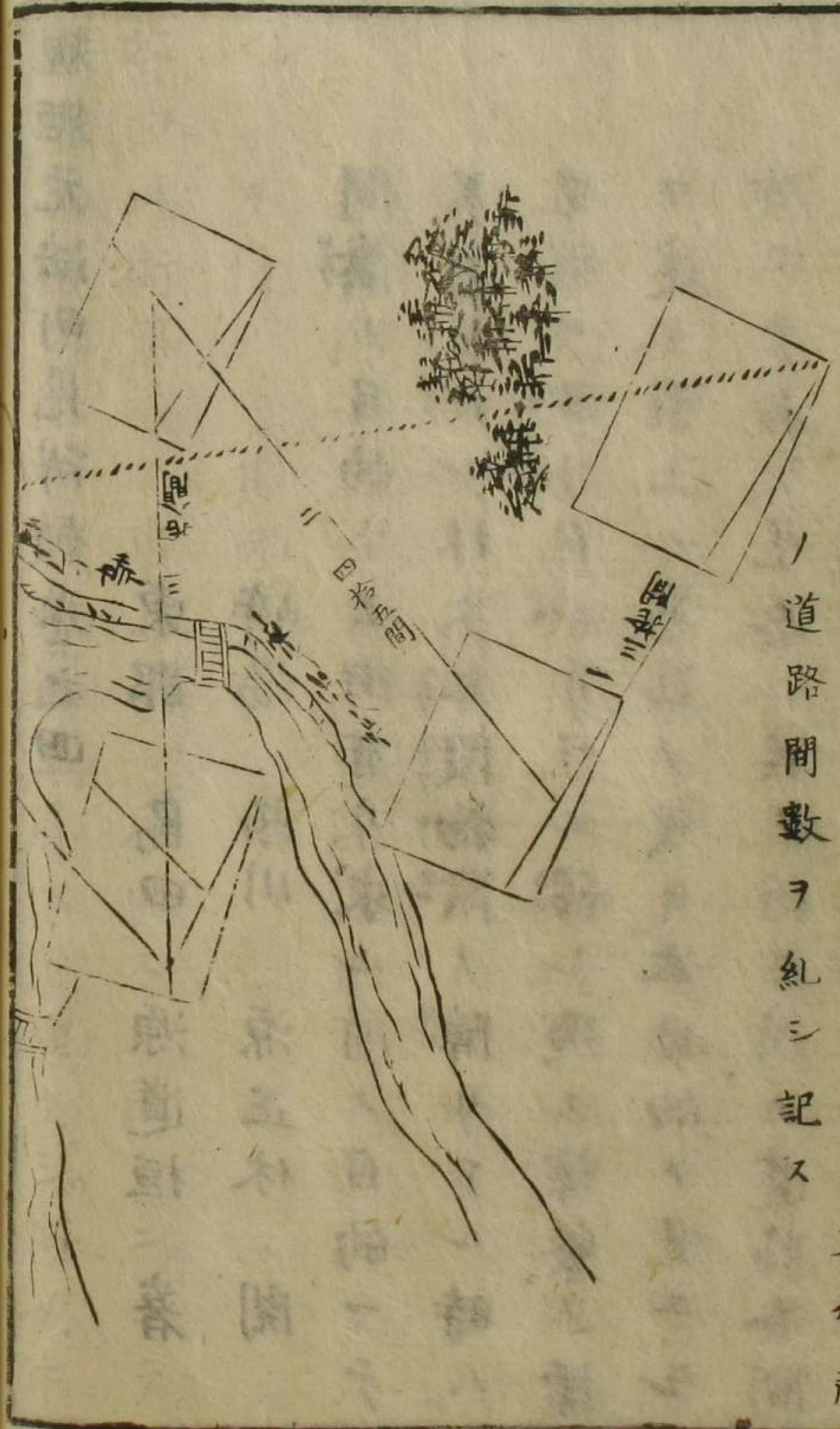
問陰ノ目的ト云術有リ。求ル所ノ目的マテ
 其道屈曲シ。林木丘陵物陰ノ障リアル時ハ。
 見盤ヲ曲リ目屈リ日ニ移シ。残ヌ標繫ノ標
 ヲ建テ。盤上へ墨筋ノ曳キ。本目的ノ見ユル
 所マテ出テ。見返シ。其ノ行ク所ノ道筋各間
 數ヲ糺ニ。次ニ見盤ノ上ニ曳タル墨線ヲ分
 間ニ約メ。本目的ヨリ初メテ。直線ノ一筋

規矩元法町見辨疑

卷之四

蔭目的圖

曲折スル場皆十殘標繫ノ標ヲ
建各見通ノ墨線へ合セ其行所
ノ道路間數ヲ糺シ記ス



盤面斯ノ如ク直矩ヲ合
セ分間ニ改ム

此線本場ヨリ目録ノ終ニ至ル
實ニ此直矩ヲ合セ

ヲ引キ。是ヲ約メタル分間ヲ以テ計ル。是ヲ名付テ終角ノ二目ト云。且ツ屈曲スル事多キ時ハ。盤繼ノ法ト云有リ。斯ノ如ク目ノ及ハサル所ニテ測リ知ル事。術廣大ナル事ニ非スヤ。是ヲ量地指南ニ。陰ノ目的ヲ。二地重開方ト云。或ハ三地重開方ト云。終角ノ二目并盤繼ノ法ノ事ヲ。累隔指正方ト。數術ノ名ヲ付タリ。其用如何

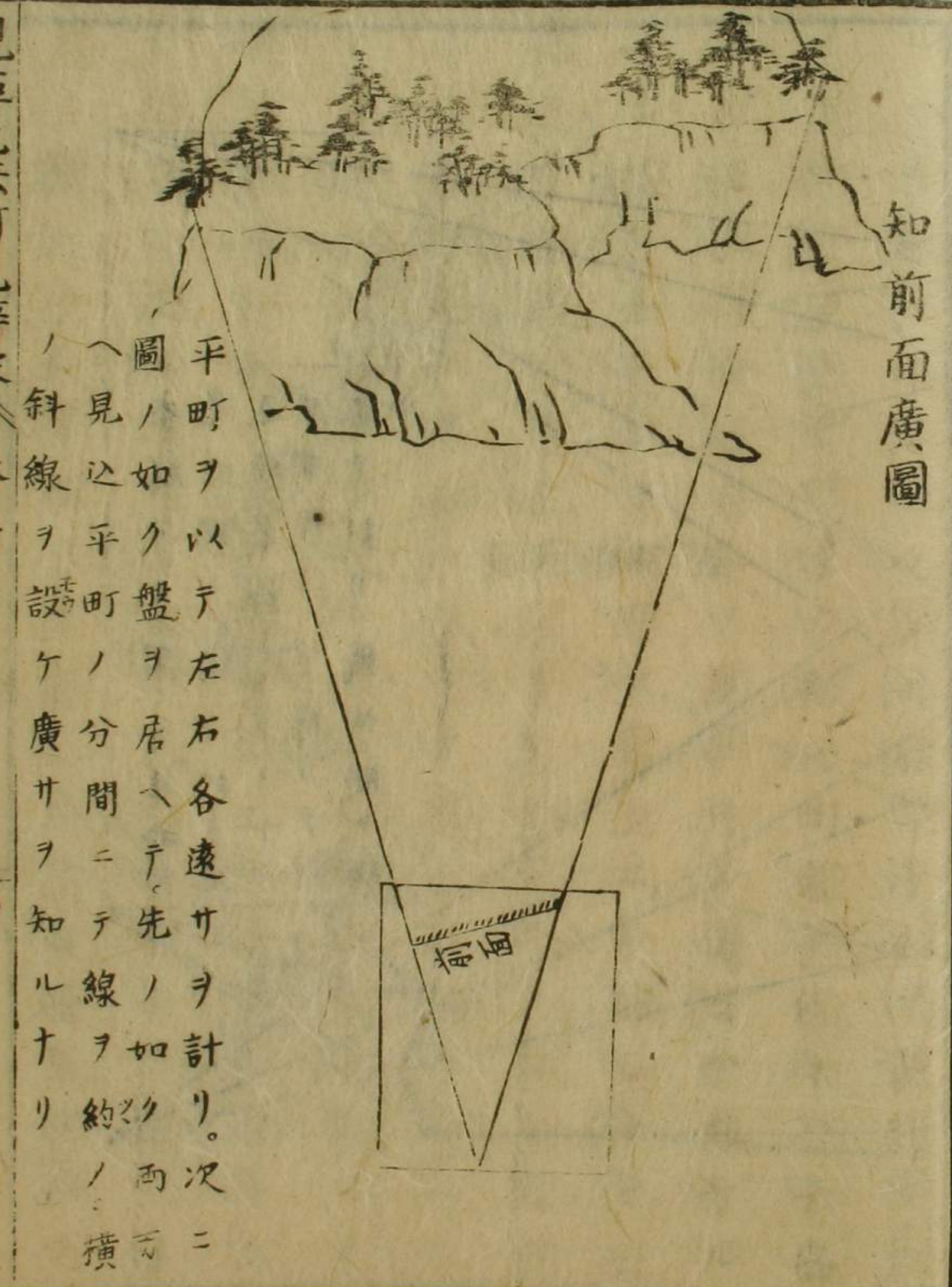
答曰。此術無益ノ事也。第一屈曲スル所ニシテ見盤ヲ動シ移シテ真矩ヲ得ヘキ理ナシ。何ソ中

ルヘケニヤ。其上此ノ業サ繩竿ヲ以テ。其行ク所ノ間町ヲタ、シ行クカ故ニ。町驗ノ術トハ云難シ。然モ此段。今マ吾子ノ問如キノ傳ニハ非ガルヘシ。按スルニ此業。町驗ノ實測ニハ非レトモ。此段ヨリ勾股弦變化ノ理ヲ演ヘテ。末ノ城圖。國圖ヲ摸ス。磁石ノ方針ヲモツテ。遠近ヲ測リ索ムルノ業ニ。移リ易カラ使ニ為ニ。茲ニ此術ヲ説キ。又此ノ次ニ前面ノ業ヲ擧タリ。二術皆見盤ノ業ニハ非スト雖トモ。唯其理ヲ見盤ニ摸ニテ。初學ノ為ニ教ヘタル者ナリ。沼川筋違重ト云業皆一理

十リ。然ルニ後人誤リテ。蔭ノ目的前面ノ術。共ニ見盤ニテ量ル實測十リト心得違種、臆説ヲ増シ夕リ。是皆其ノ業ヲ傳ヘタル而已ニシテ。自己ニ工夫受用セサルノ弊ヨリ出テ。其理ヲ辨スル事能ハス。誤リヲ又人ニ傳ル事。慎ムヘキ十リ。初學惑フ事勿レ

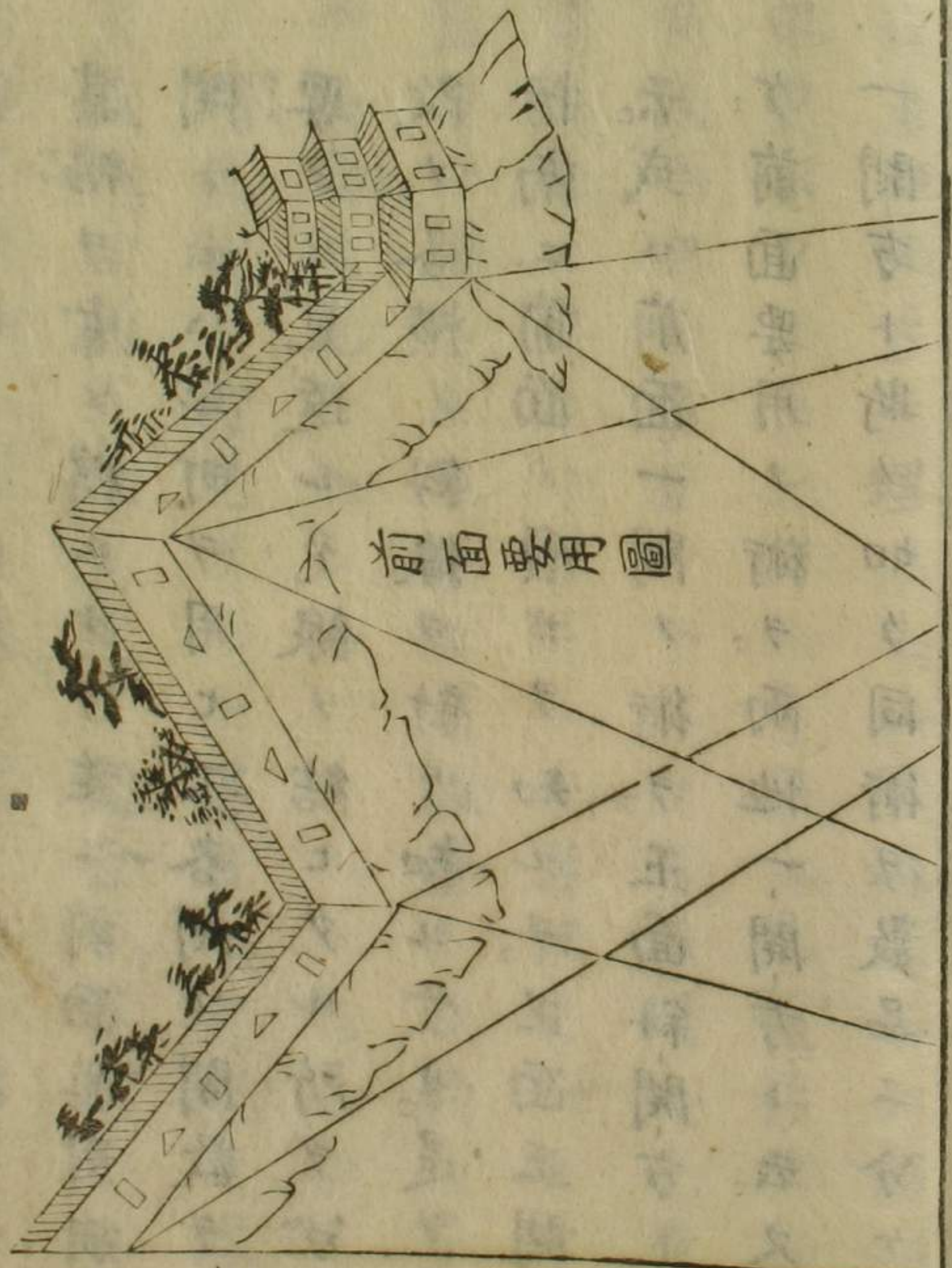
問前面ノ廣サヲ知リ。同前面要用ト云術有リ。向ノ幅屈曲出入。各幾何ヲ索ムル時。平町ヲ以テ各目的マテ許多間ヲ測リ知リ。次ニ見盤ヲ改メ居ヘ先ニ見込タル各目的ハ墨

知前面廣圖

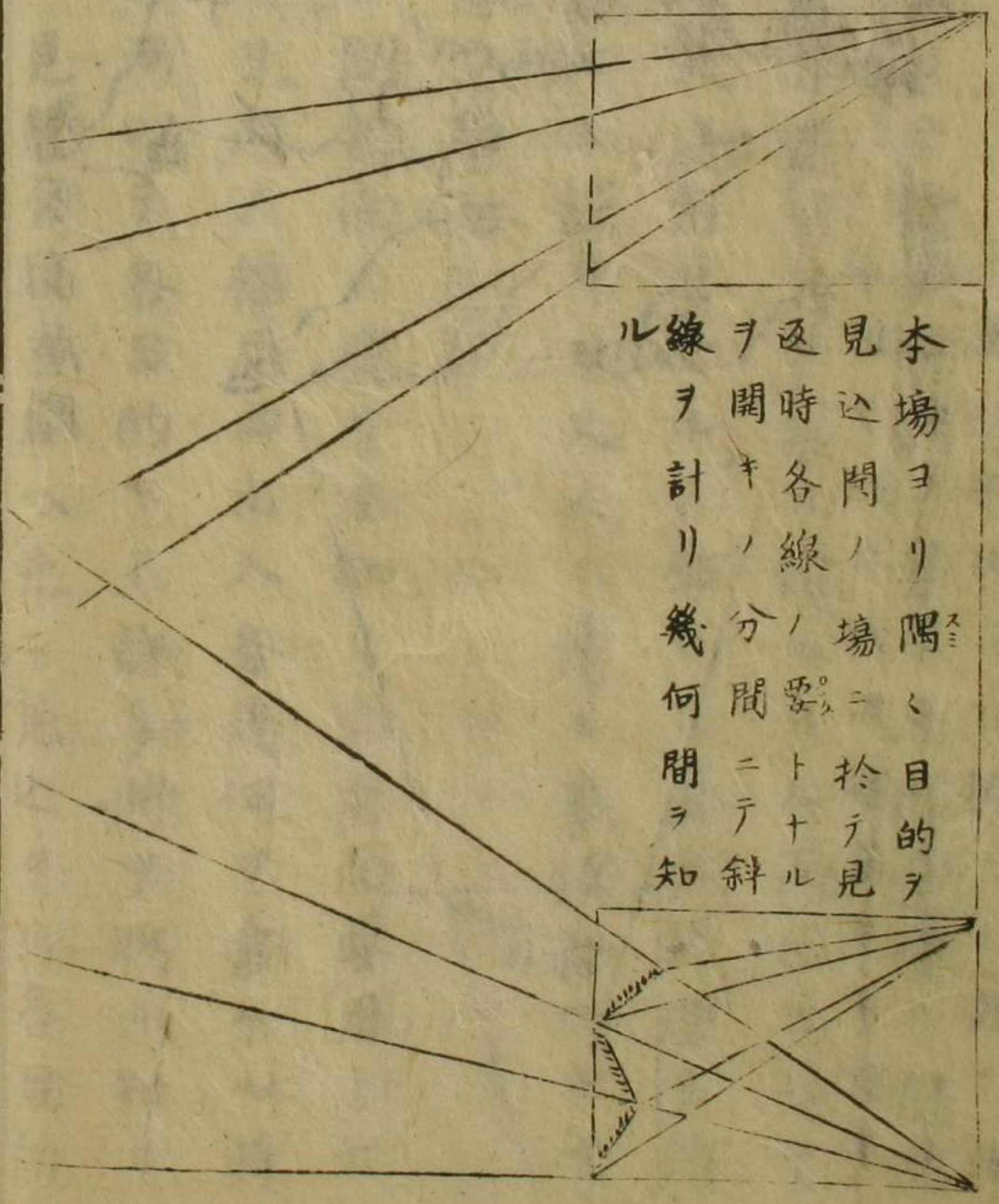


平町ヲ以テ左右各遠サヲ計リ。次ニ圖ノ如ク盤ヲ居ヘテ先ノ如ク兩方ヘ見込平町ノ分間ニテ線ヲ約ノ横斜線ヲ設ケ廣サヲ知ルナリ

見巨元法町見岸徒
卷之四



前面要用圖



本場ヨリ隅々目的ヲ
見込閉ノ場ニ於テ見
返時各線ノ要トナル
ヲ開キノ分間ニテ斜
ル線ヲ計リ幾何間ヲ知

矢知元法町見岸徒
卷之四

線ヲ曳キ平町ニテ求メタル間數ヲ。各線へ
 割り付。盤上ノ線結ビタル毎ニ。横ヲ量リ各
 其幅ヲ索メ得ルナリ。並ニ前面要用前面一
 開ト云ハ平町ヲ用ヒス。各開ノ間數ヲ以テ。
 要ヨリ見返シテ。線ノ結ヒタル所ヲ分間ニ
 改メ。各横ノ斜線ヲ計リ知ルナリ。是ヲ量地
 指南ニ前面ノ廣サヲ知ルヲ。正面正開方ト
 云。或ハ前面一開ノ術ヲ。正面斜開方ト名付
 ケ。前面要用ノ術ヲ。兩地一開方ト云。又四知
 一開方ト斯ノ如ク同術ヲ數品ニ分ケタリ

ト雖モ。皆一理ナリ。此用法是非如何

答曰。中不中ヲ極ル術ト意同シ。見盤移リ動キ重
 ルカ故ニ。中ル事有ルヘカラス。此段又見盤ヲ以
 テ實ニ施ス傳ニハ非レトモ其理ヲ知セニ為ニ。
 見盤術ニ摸シタリ。委ク前段陰ノ目的ニ答タル
 カ如シ。合セ見ルヘシ
 問夜中ニ町見ヲ用ル傳有リ。定規ニ線香ヲ
 設ケ。目的ノ火ト是ヲ見合セ。其業平町ノ如
 クシテ測ル。皆十忍ノ理ナレハ小差ヲ論セ
 ス。唯其大格ハ測ルヘキノ術ト云ヘリ。然レ

トモ未夕試ミス其益有ルヘキヤ
答曰此段七亦前條二因テ推量有ルヘシ故ニ今
ニ是ヲ辨セサル而已

問。量地指南ニ云。近來世上ニ稱スル所ノ編
目作者ノ胸臆ニ不入ヲ以テ。新ニ標目ヲ定
夕リ。然トモ其事理ハ世上ト一致也ト云云。
是ナルヤ

答曰。近來世上ニ稱スル所ノ編目ト云ハ。未夕考
ヘスト雖トモ量地指南ノ編目次第ニ因テ閱レ
ハ。古來相傳ノ規矩元法。町見術。三拾二箇條ノ事

カ標目各其名異ルハ。術ニ於テ害ナシト雖トモ
條目前後ノ次第ヲ混雜シテハ。其術ニ於テ甚夕
害アリ。此術條目ノ次第階級ニ秘傳有ヲ知テ新
ニ標目ヲ改タルヤ。此傳ヲ知ラスシテ自己ノ臆
意ヲ以テ。術先後ノ次第ヲ易ヘタルヤ。疑クハ此
傳ヲ知ラスト見ヘ夕リ。古人此ノ三拾二箇條ヲ
擧テ。當流町見術ノ傳授ト定メタル者ハ。甚深意
有リ。大略ハ條目ノ側ニモ述タル如ク。此術ハ此
條目ノ階級ニ因テ學ハサレハ事理ヲ得ルコト
難シ。故ニ往昔深ク秘シテ。周ク他傳ヲ許ルサス。

知ル人無キモ亦宜也。中頃好事ノ士出、普ク人ヲ誘ビクノ便リニ數品ノ術ヲ設ケ。條目ヲ増加シ。學者ヲシテ其業ニ苦マシメ却テ其ノ本源ヲ傳ヘサルニ依テ。近來ニ至テ本末錯乱シ。本源ヲ捨テ枝葉ヲ貴ヘリ。是ヨリシテ本傳ノ階級正キ條目ヲ見テハ。次第錯乱シテ無益ノ事アルニ似タリ。茲ニ因テ今マ誤テ量地指南ニモ。山谷高深ノ後ニ置ヘキ。望ノ間町ヲ指ス術ヲ無的定開方ト名付。坐而地取ノ術ヲ暗指方面方ト号シテ。此ニ術無益ノ術ニ似タリト雖トモ初學ノ徒ヲシテ。

千變萬化ノ道理ニ至ラシメシメ為メ爰ニ贅スト云テ。此ノ事ノ本意ヲ説カス。山谷高深ヨリ。數術先ニ出セリ。又山谷高深望間町。坐而地取ノ後。城圖ノ前ニ置ヘキ。陰目的ヲ。二地重開方。三地重開法ト名付。終角ニ目ヲ。累隔指正方ト名付テ。望間町ノ前へ。積遠里ノ後ニ置タリ。又陰ノ目的ノ後。千城圖ノ前ニ置ヘキ。知前面廣術ヲ。正面正開方。斜面正開方。正面前後方。正面斜開方。一知兩開方ト名付テ。五術ニ作テ。山谷高深ノ前ニ出シ。又近來附會セシ。丸物平町ヲ。圓地正開方ト号シ。知前

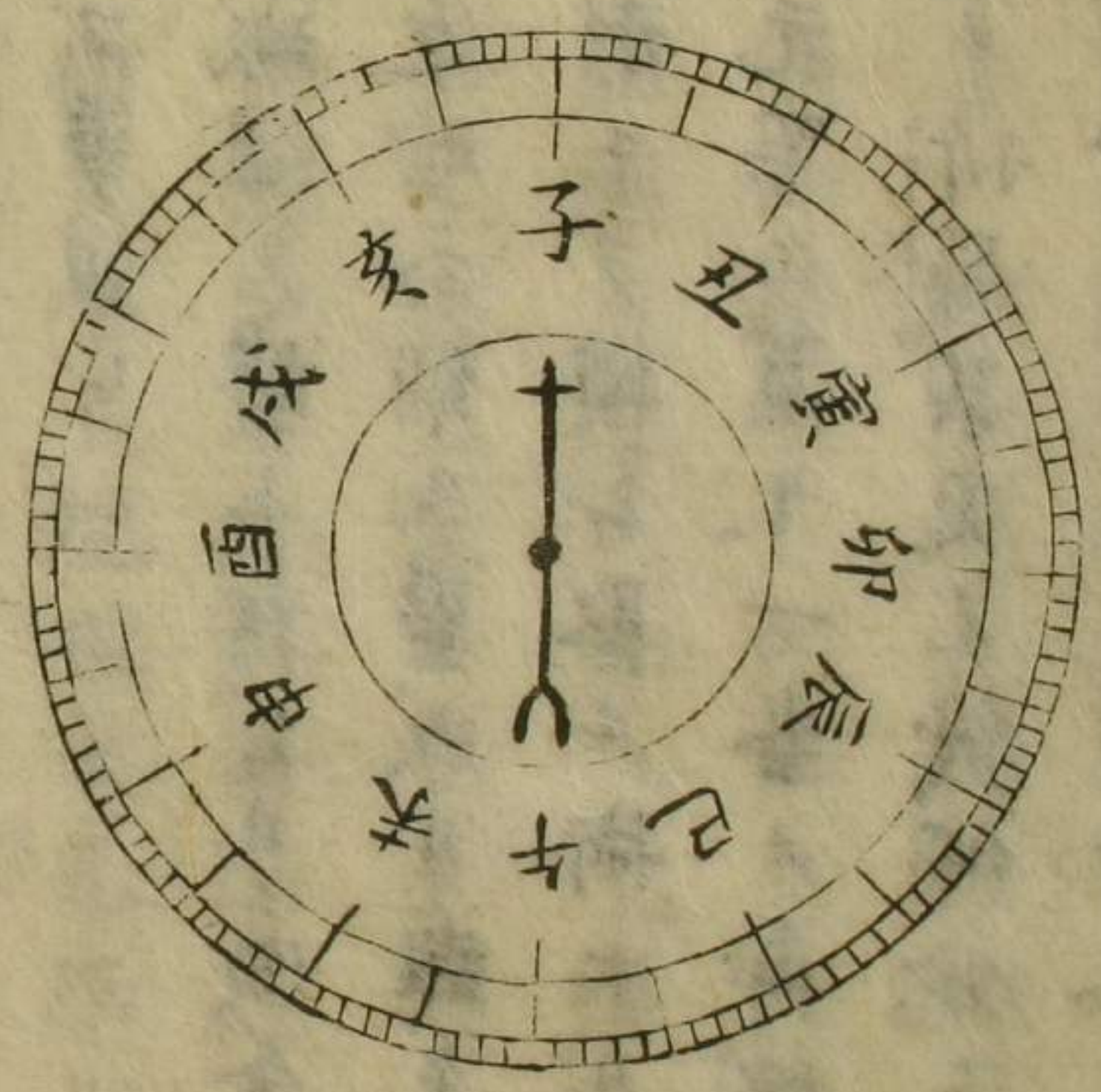
面廣ノ術中ニ混シ出セリ。圓地正開方ト号セシ
次ニ。兩知一開方。四知一開方ト名附シ術有り。是
又前面廣ヲ知ル術ナリ。何故ニ此事ノ三條數多
ク。又山谷ノ前ニイダシタルヤ笑ラフヘキコト
ナリ。又國圖ノ後ニ云ヘキ。積遠里術ヲ以テ。幽遠
木量方ト号テ。里數ノミヲ測ルノ術トシテ不動
術ノ次ニ出シ。平町前後進退ノ次ニ置ヘキ不動
知間數術ヲ以テ。規矩大元法ト名附ケ。沿河左右
平町ノ後ニ出シ。此外地形知高下術ヲ脱漏シ。皆
見盤ヲ以テ測ル術有ルヲハ實測トシ。此等ノ術

何ノ為ニ用ルト云ヲ知ラス。猥リニ標目ヲ改メ
タル事是レ紙面ノ繪圖ニ協フヲ以テ實測トス。
初學惑フ事勿レ

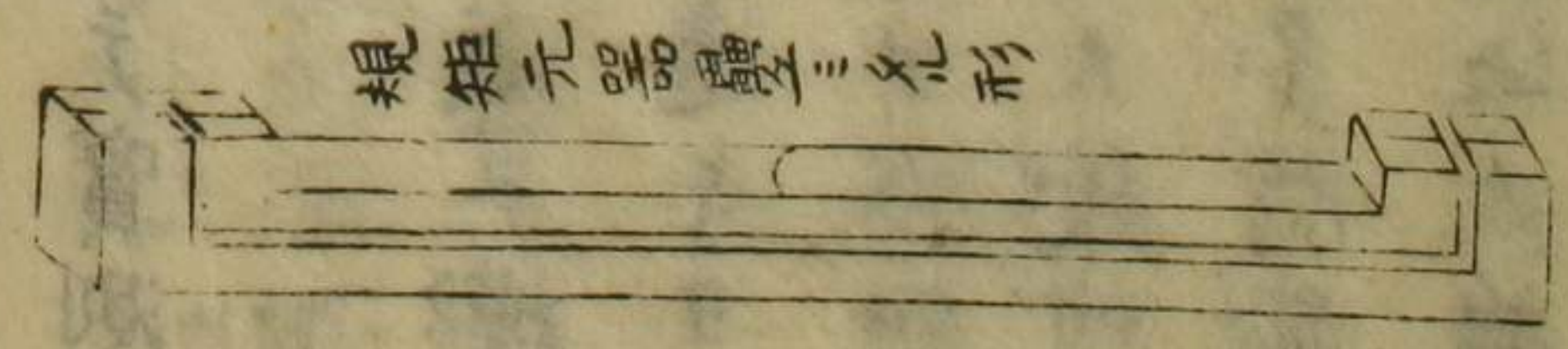
問。城圖ノ傳ト云有リ假令ハ敵城ヲ摸スニ。
其近所ヘ到ル事成リ難キ時ハ。遠キヨリ城
ノ形チヲ摸シ取ル術ナリ。磁石ノ方針ヲ規
矩元器ニ置キ。一番ノ角槽某支ノ幾何分。二
番ノ折屏某支ノ幾何分。三番ノ多門某支ノ
幾何分ト方角ヲ指シテ。是ヲ見込ノ線トス。
次ニ横ニ開キテ。最前見込タル一二三ノ目

知知... 卷之四

小圓方針之圖

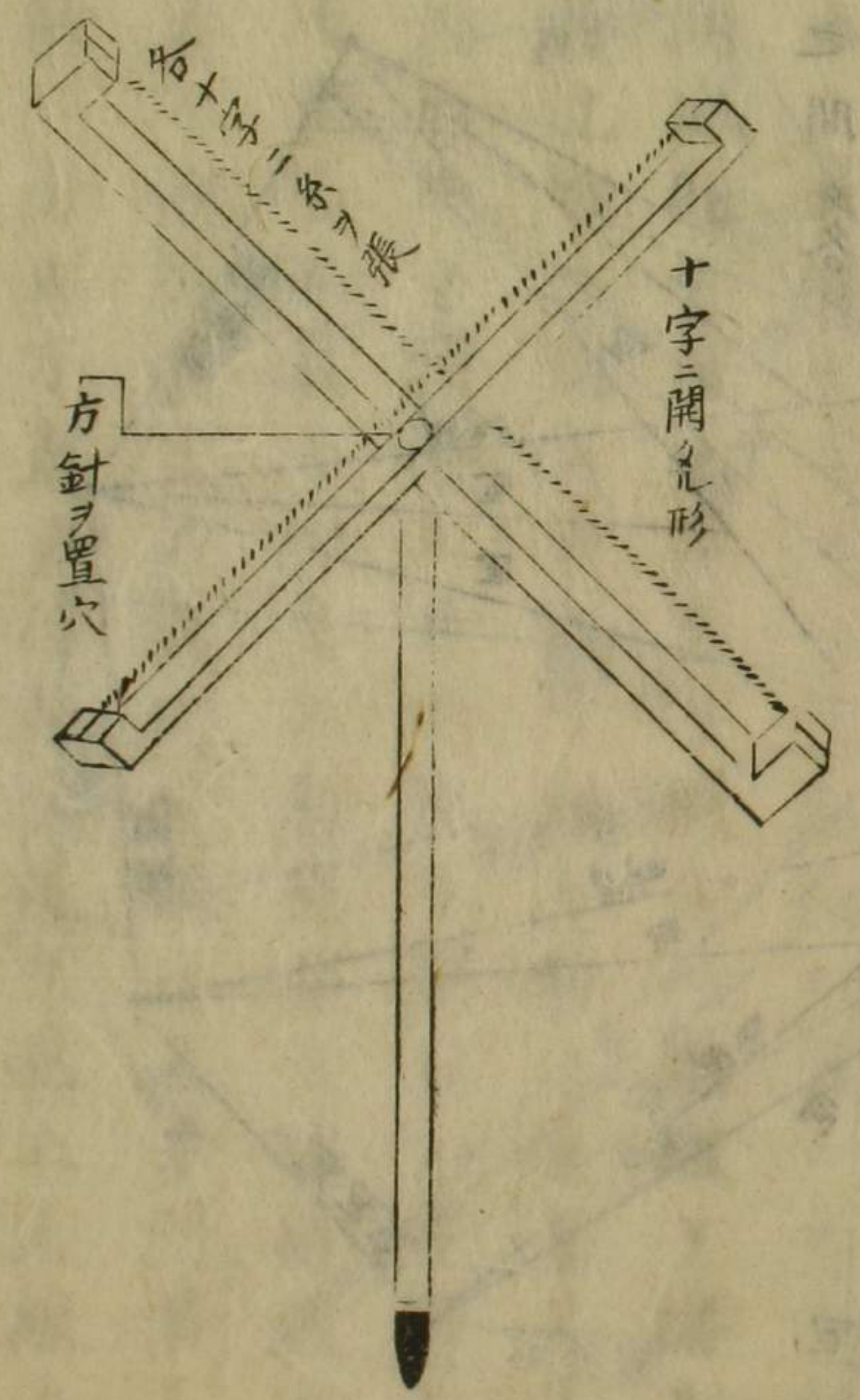


規矩元器之圖
 刻方好器二隨大略一分寸
 八分



規矩元器之圖

規矩元器之圖

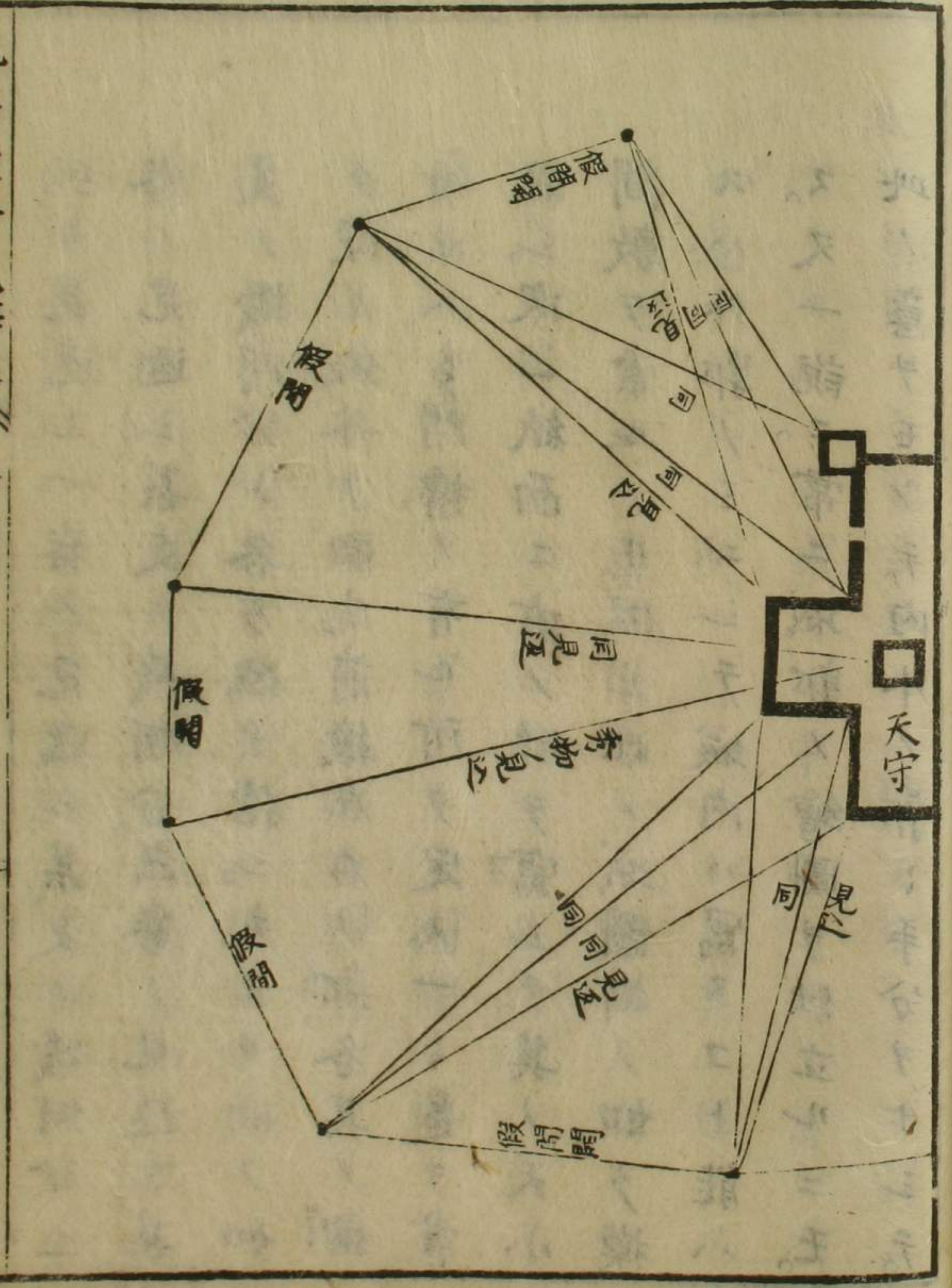
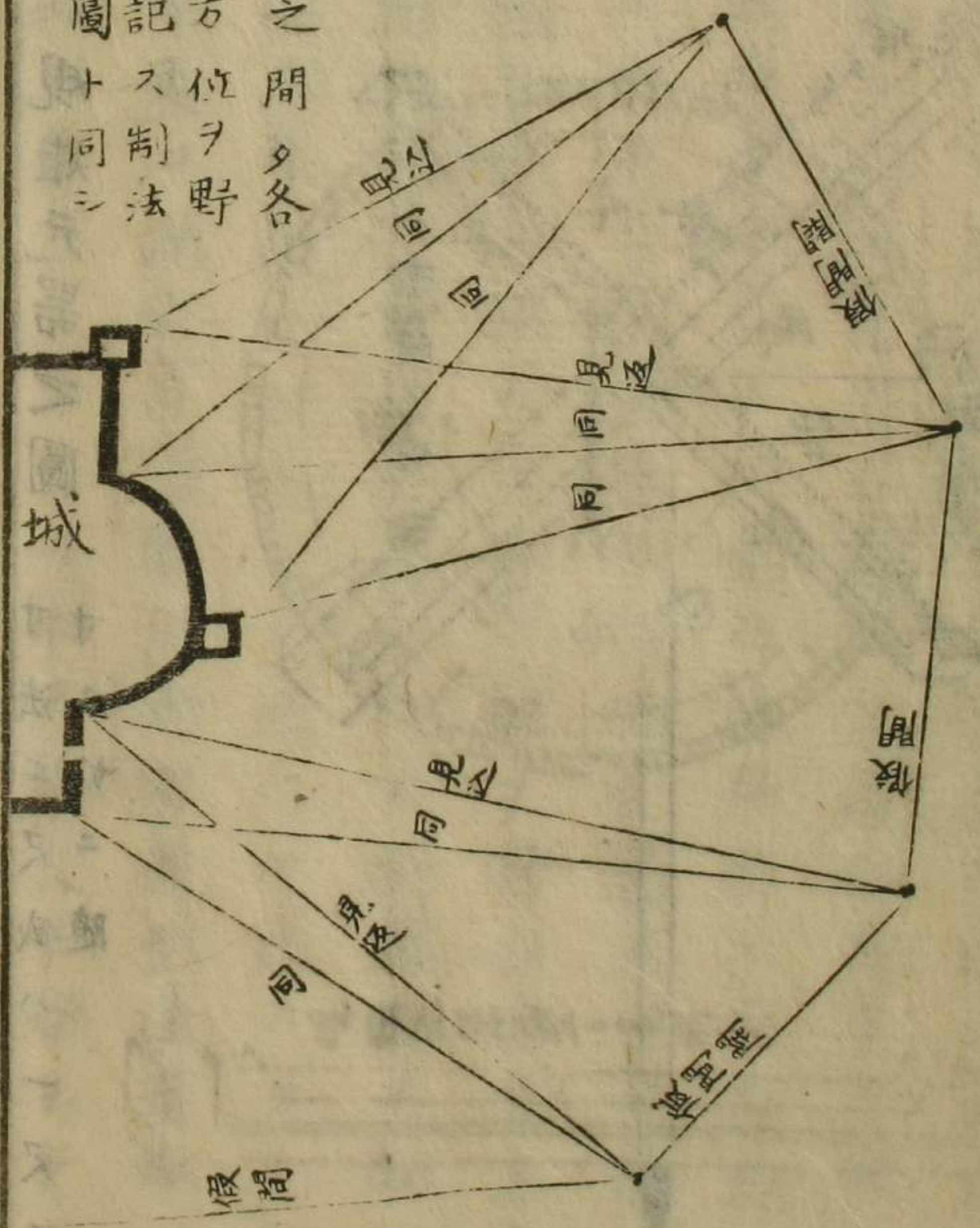


寸法二尺或八
 寸又好二隨
 一尺五六

見巨元法町見詳... 卷之四

模城形圖

假抗之間各
間數方位野
帳記ス野
ハ國記ス法
傳圖十同ニ

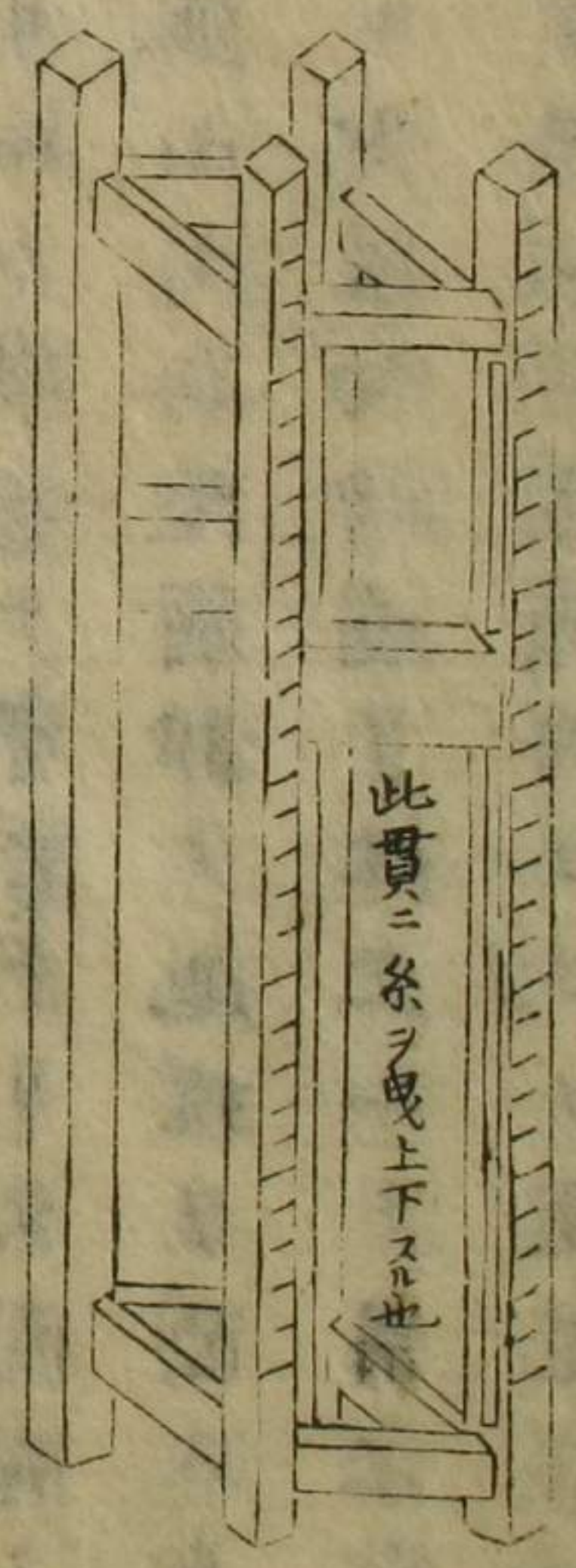


的ヲ見返シ。一番ノ見返シ。某支ノ幾何分。二番ノ見返シ。某支ノ幾何分。三番ノ見返シ。某支ノ幾何分ト各方位ヲ指シ。夫ヨリ斯ノ如ク段々城外ヲ回り。前後左右ノ郭各其ノ曲折出入。多門櫓ノ有ル所ヲ定メ。一々是ヲ書記シ。次ニ紙面ニ右ノ形ヲ寫シテ。其ノ大小間數ヲ索ルナリ。但シ此ノ城圖。斯ノ如ク摸スハ。外郭ノミニシテ城内ハ寫スコト能ハス。又一説ニ。常ニ城郭ノ繪圖ヲ仕立ルニモ。此ノ意ヲモツテ。内外ノ郭ノ手分ヲナシテ。

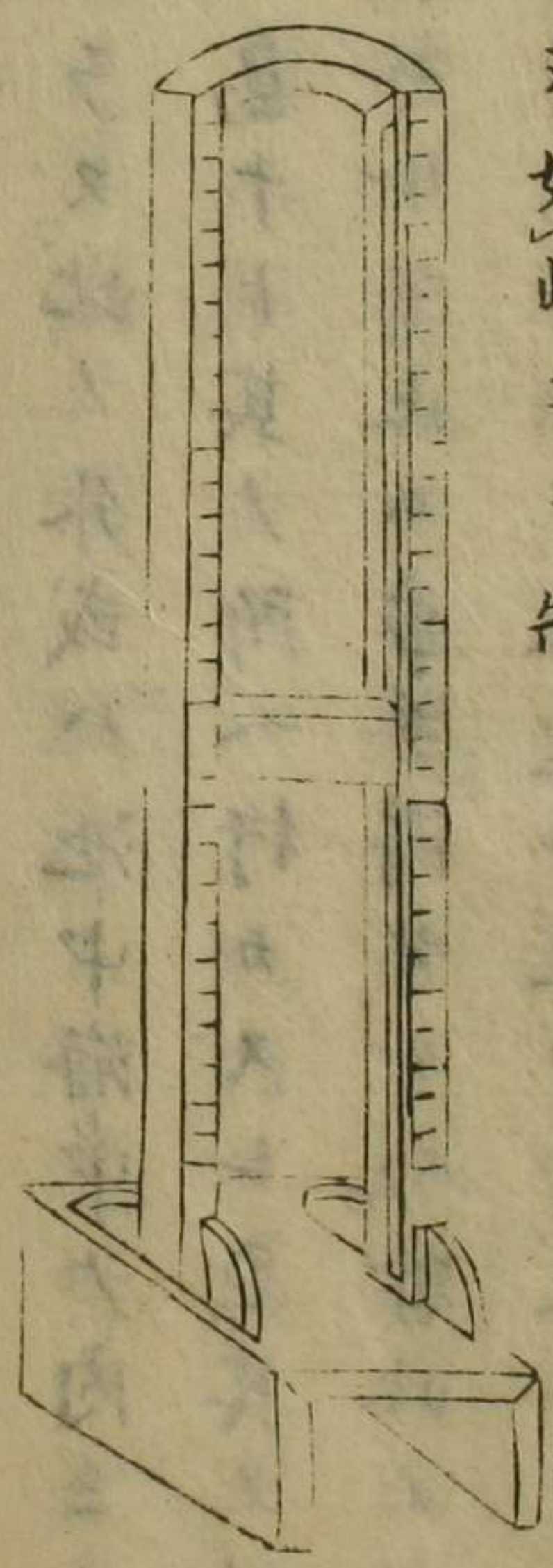
一郭限リニ寫シ取ルノ傳モ有レトモ詳カナラス。此ノ外或ハ地中海中ノ内ニ有ル所ノ島ナト其ノ所へ行カスシテ。其ノ形ナヲ求ムルニ止ム事ヲ得サレハ。皆此ノ術ヲ以テ量リ得ルナリ。是レ人カノ及ハサル所ヲ量リ知ル事至テ重寶ナリ。又國圖ノ傳ト云有リ。山川海陸國郡ノ地理ヲ圖スルナリ。其用ユル器物繪圖ヲ仕立ルノ用法數多ノ傳授アリ。城圖國圖共ニ此ノ用法。器物ニ因ラヌト云事ナシ。其用法器物ノ大略今マ茲ニ

槽之圖

大小元器ニ随大略高五寸



又如此ニモ制



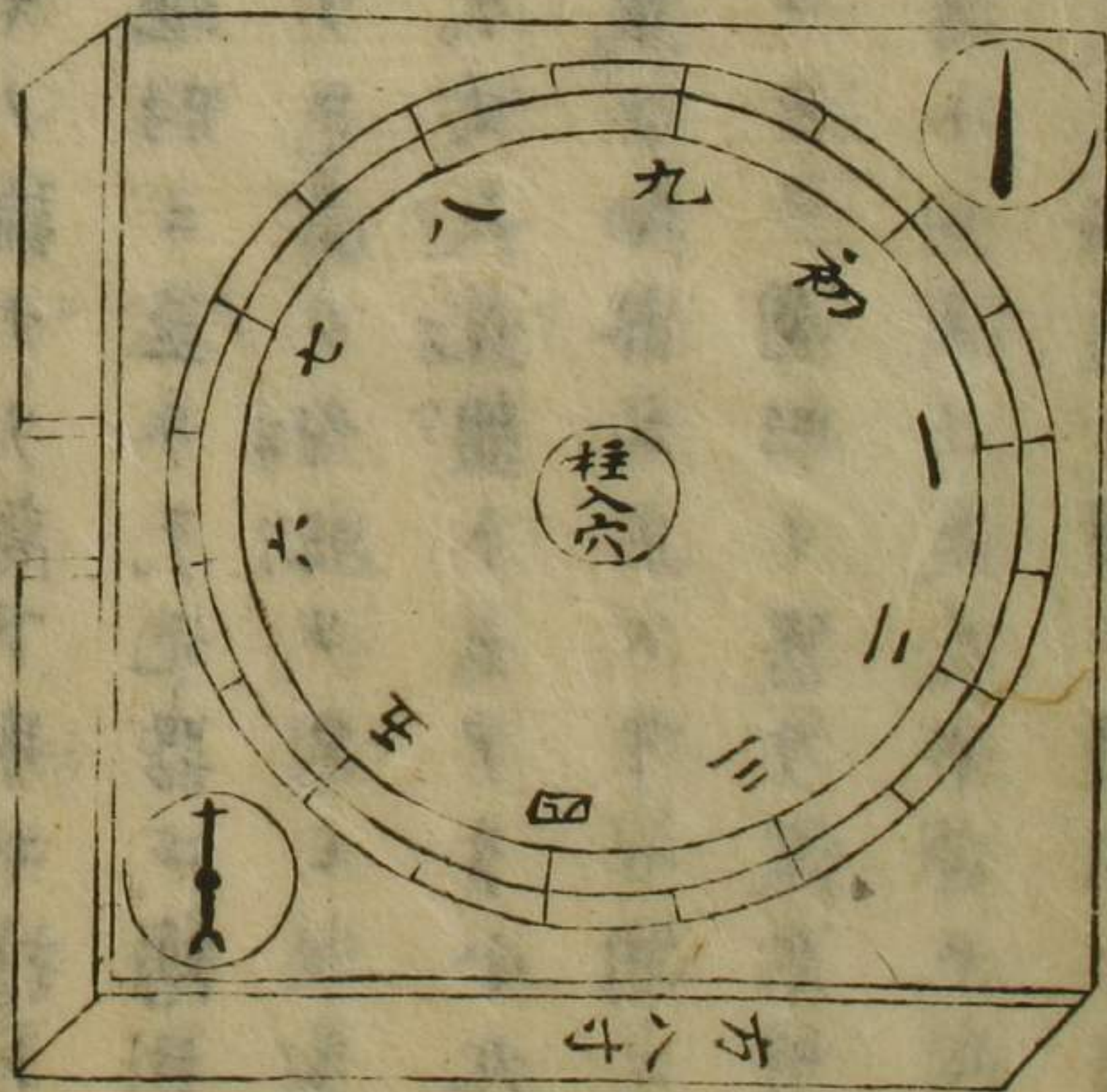
問カ如シ。第一磁石ノ方針ハ方角ヲ糺シ得ルノ重器ナリ。最トモ上品下品ヲ撰フニ有リ。静カニシテ能ク居ルヲ上品トス。是レヲ沈^{シラ}ニ氣ト名付ク。潤^ステ居^スガルヲ下品トス。是ヲ浮^{フキキ}氣ト云。此等ノ針ヲ撰ヒ用テ小丸ニ入ル。小丸ハ圓徑好ニニ随フト雖トモ。大サ徑凡^ソ三寸ハカリニシテ十二支ヲ割。一支ヲ十分ニ刻ミ周圍百ニ拾方トス。此ノ小圓ヲ規矩元器ニ置ク。元器ハ長一尺五六寸。或ハ二尺ニシテ十字ニ開ク如ク制ス。木ノ幅一寸

二三分。又好三ニ隨フ。十字ノ中心ニ細キ柱
ヲ建テ心木トシ。十字ニ糸ヲ張リテ。見通ノ
線トシ。此ノ糸小圓ノ上ニ當ル所ヲ。某支ノ
幾何分ト見ル。直見ノ法ト云アリ。方針ヲ斜
メニ見テハ違ヒアリ直見スル習ナリ。塵ノ
論ト云アリ。方針ニ釐毛ノ差ヒ有レハ。里數
ニ至リテ若干ノ差ヒト為ル。故ニ細糸ニ糸
ヘキナレトモ必ス泥ムヘカラス。沿河山林
等ヲ紙面ノ圖ニ寫スノ如キ。些少ノ事ニ至
テハ。右ノ小差障ル事ナシ。然レトモ此心得

無キ時ハ事ニ因テ誤ル事アルヘキナレハ。
心ヲ用ユヘキノ論ナリ。高下并ニ槽ト云事
有リ。山坡ノ地形ニ至リテ。元器ニ槽ヲ懸ケ
糸ヲ槽ニ曳テ見通シ。勾配ヲ見ルナリ。高下
共ニ同術ナリ。又大丸盤ト云アリ。小丸ノ百
ニ拾方ヨリ。業ヲ細密ニ正ス。ハ別ニ徑八
寸。或ハ一尺ニシテ圓形ノ器ヲ設ケ。十二支
ヲ三百六拾方トシ。或ハ是ニ半分ヲ刻テ方
角ヲ糺スナリ。大略是ヲ針ノ用法トス。第二
野帳ノ格。圖風影ト云習有リ。針ノ方角一番

大圓之圖

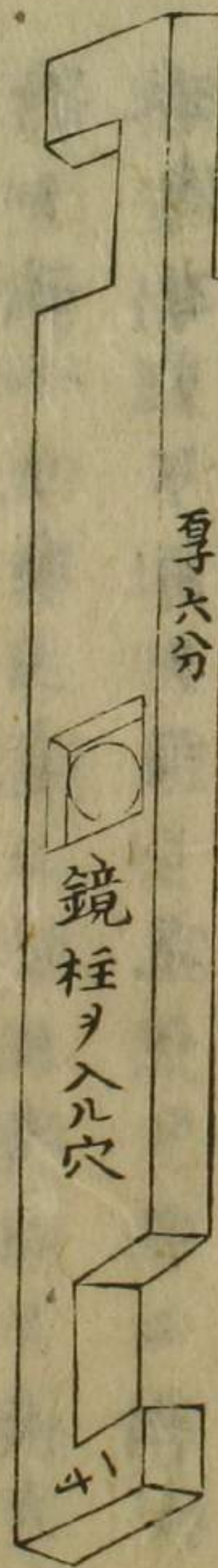
方角ヲ十方二割
 リ用ユ。蓋シ大丸
 盤ト其ノ用均ニ
 大丸ノ如クハ二支
 ヲ刻ム。此器ハ一
 方ヲ十分。或ハ三
 拾分ニ刻ム。又別
 二實測ニ用ユル
 器有ト雖トモ今
 省略ス



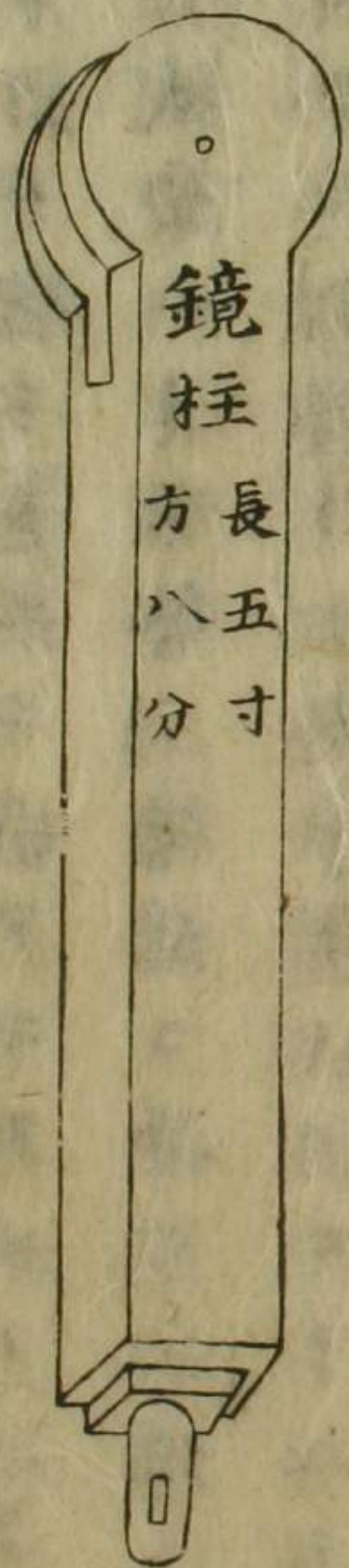
設大圓之上器圖

臺定規長八寸

厚六分



鏡柱
 長五寸
 方八分



天衡定規

長八寸



規矩法町見詳定

卷之四

十一

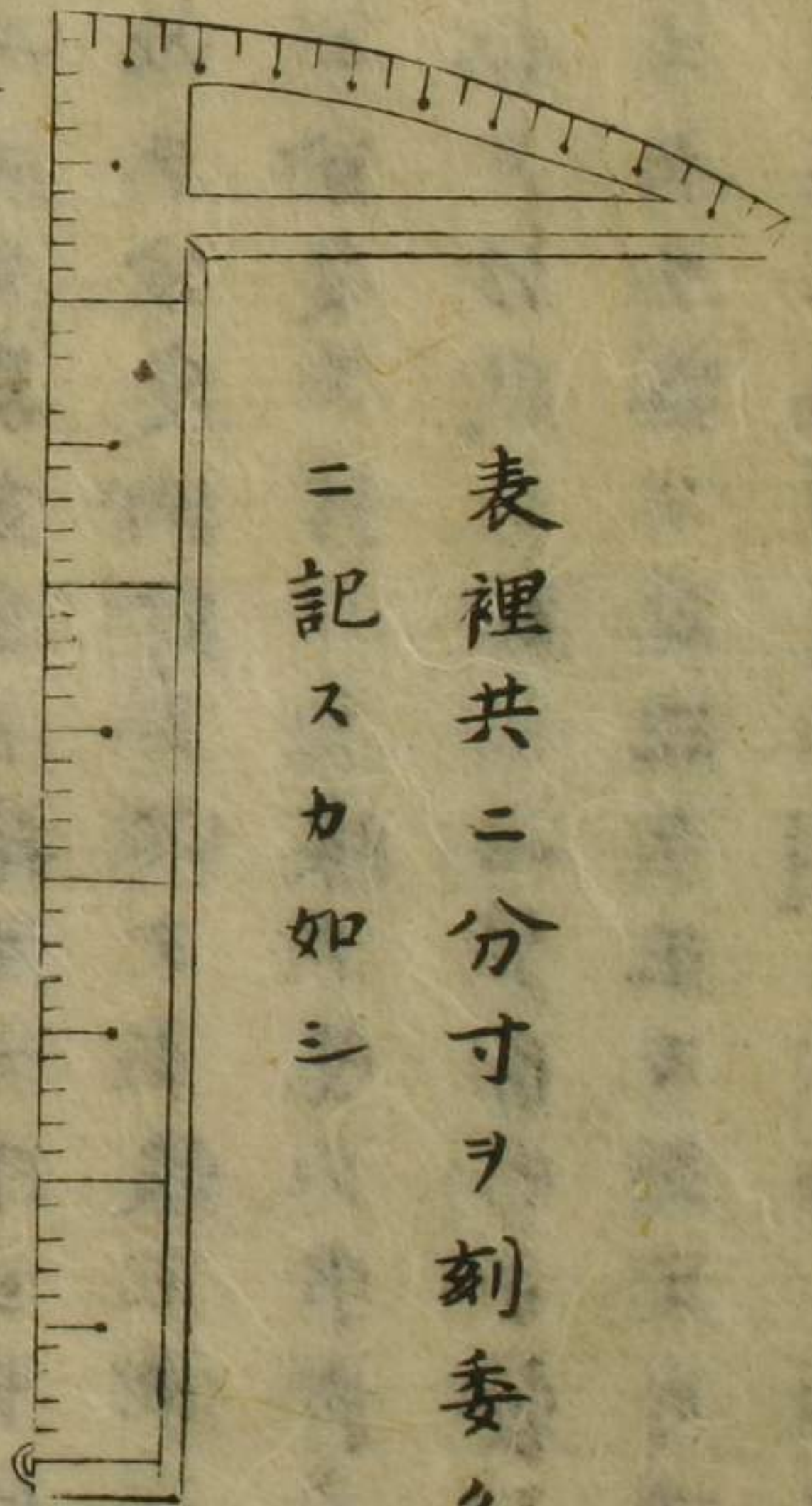
某支ノ幾何分へ幾何間。左ニ森。右ニ沼河寺
 院ト記シ。或ハ其見通シタル分内ニ。地形高
 低出入沼川其ノ形ナ少シク異アルモノハ
 方針ヲ驗シ量ルニ暇アラス。此ノ如キ形ナ
 ハ紙面ニ其形勢ヲ繪圖ニ摸シ。此場ニ斯ノ
 如キ形ナアリト云事ヲ註スルヲ以テ。圖風
 影ト云へリ。第三遠山假目的同ク積遠里ト
 云傳有リ。方角ヲ段々究ムル中ニ。他國隣國
 ノ秀タル山。或ハ其國中ニモ秀物ノ何方ヨ
 リ見テモ見通サル。物ヲ所々ニテ方角ヲ

求メ。何番ノ場ヨリ。某支分ニ中ルト云テ。野
 帳ニ記シ置テ遠山假目的ト云。或ハ拾里二
 拾里他國ノ山ヲ見込ニ。段々回ル内ニ。或ハ
 一里。或ハ二里モ隔テ。又此遠山ヲ見テ方位
 ヲ付テ。繪圖ヲ紙面ニ寫ス時。所々ノ見通シ
 合カ合サルカヲ糾シ改メ。本圖ノ差ヒヲ糾
 スノ要トス。或假目的ハ方位計リニ非ラス
 秀タル山林堂塔其遠サ高サヲ量リ。一番ノ
 場ニテハ高サ何丈。二番ニテハ高サ何尺ト
 計リ。二番ノ高サ一番ニ及ハサル事何丈。或

ハ過タル事何尺ト所ノ高低ヲ測リ知ル
 術モ有リ。此ノ二術國圖肝要ノ傳ナリトハ
 云ト雖トモ其ノ用法詳カニ傳ヘ得タル人
 ナシ。深理有ル事ニヤ其ノ是非ヲ辨セス。第
 四繪圖仕立ル紙ハ厚紙ヲ五寸四方或ハ三
 寸四方ニ白線ヲ曳キ或ハ紙ヲ五寸四方ニ
 成如ク裁テ十字ノ白線ヲ曳キ方角ニ隨ヒ
 繼キ立テ圖ヲ認ル事有リト雖トモ其ノ制
 法委シカラス何レニカ因ラニヤ第五二分
 度ノ傳ト云アリ野帳ヲ紙面ハ分間ニ寫ス

時方位ヲ指究ルノ器ナリ其ノ制一尺ノ徑
 ノ十二方ニ割り其一支ヲ拾分ニ刻ミ又刻
 中ニ半分ヲ刻ミ是ヲ以テ紙面ノ子午卯酉
 ノ正線へ中墨ヲ當テ其ノ野帳ニ記ス所ノ
 方隅へ回シ某支分ト指所へ印シヲ付ケ分
 間ヲ以テ分度柄針ノ穴ヨリ線ヲ伸シ又其
 留リニ分度ヲ移シテ線ヲ曳ク事前ノ如シ
 同ク此ノ分度ノ矩ヲ以テ角形ヲ發シ或ハ
 見盤ニ水ヲ盛り真矩ヲ正ス類ヒ用法數事
 有リト雖トモ圖式ニ用サル事ヲハ今マ問

分度矩之圖



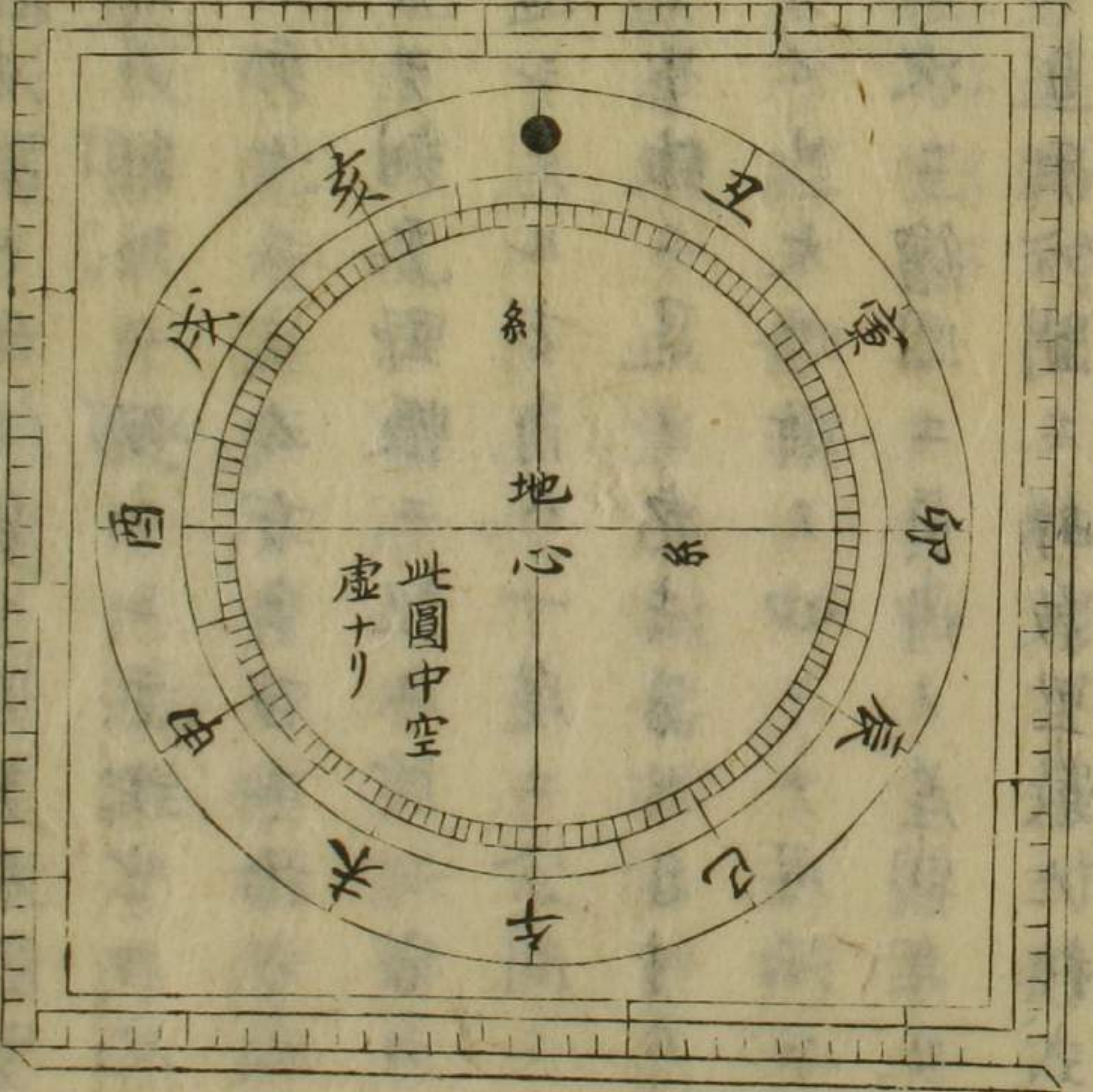
表裡共二分寸ヲ刻妻ク本文ニ記スカ如シ

分度ヲ以テ角形ヲ起スノ法

- 三角四拾分
- 四角三拾分
- 五角二拾四分
- 六角二拾分
- 七角拾七分一余
- 八角拾五分
- 九角拾三分三余
- 拾角拾二分

方圓器之圖

又名虎法器



ハス。又虎法器ト云物有リ。是ヲ方圓器トモ
 名付ク。此ノ制外ヲ方ニシテ十字ヲ糺シ。内
 ヲ圓ニシテ十二支ノ方角百ニ拾方。或ハ三
 百六拾分ヲ刻テ。野帳ニ記ス所ノ方角。一所
 ニテ見通シタル方角ハ。一度ニ分間ニ摸ス
 事速カナリ。故ニ是ヲ虎法器ト名付テ圖寫
 ノ祕器トセリ。大略斯ノ如キノ用法ヲ以テ
 圖ヲ定ム。次ニ繪圖ニ眞州ノ差別有リ。國ノ
 大小ニヨリテ。分間ニ町數里數ノ格式替レ
 リ。大略一寸町。五分町。六分町。或三寸一里。或

ハ一寸一里其主ノ好三ニ因ルト云ヘリ。此
 外國中ノ道路村里ノ糺シヤウ。村移ノ法。見
 込ノ法。程付空付十ト云品ノ習ヒ有リト
 雖トモ。皆一理ナリ。斯ノ如クナル時ハ。地理
 ヲ圖セン事明カナラシカ。今詳カナル説ヲ
 聞カン

答曰。國圖ハ元ト町見ノ業ニハ非ス。此傳ノ次第
 ヲ以テ考ルニ。町見者ニ非サレハ。國圖等ノ地理
 ヲ極ムル事ハ成ラサル趣ナリ。羅經ヲ以テ方隅
 ヲ糺シ。勾股弦ノ理ヲ以テ。遠近ノ里程高下ヲ測

リ。山川丘陵ノ地理ヲ辨スル事。其ノ業大ナリ。町見ヲ量ル見盤ノ業モ。其源ト勾股弦ノ術ヨリ出タル者ナレハ。國圖ト町見ト別ノ事ニハ非スト。雖トモ。町見ト云ノ名目ニ因ラハ。盤器ヲ以テ間町ヲ驗ル術ヲ教ヘ。町見ノ本源ヲ云ハニトナラハ。別ニ國圖ヲ極メ。地理ヲ辨スル傳有リテ。此ノ町見モ。源ト是ヨリ出タルト云ノ説ヲ明カニ辨シ。傳授有ルヘキ事ナリ。然トモ。今國圖ノ前ニ城圖ヲ云事意味アルナリ。如何ト云ニ上古戰國ノ時。敵城ヲ摸シテ仕寄ノ便リニ用タル事ヲ聞

カス記録ニモ見ヘス。兵書ニ敵城ヲ摸スノ論ヲ擧ケス。又中央ニ有ル所ノ島嶼ノ形ナ何ヲ以テ水上ヲ隔テ寫取ル乎。地圖ヲ極ムルニ至テハ。其場一到リテ方角地形ヲ糾ササレハ。實ノ用ニハ非ス。若シ又其ノ間夕二里三里。或ハ拾里モ隔リタル。海洋ノ中ニアル島。風波強クシテ其ノ所ヘ行事能ハサル時。摸シ取ルト云ハ可ナリト雖モ。其間夕遠クシテハ。曲折ノ形狀見定ムヘキノ理ナシ。是レ此ノ術ヲ以テ實測トスルニハ非ラス。唯夕城圖ノ名ヲ假リテ。實ハ勾股弦結要ノ業ヲ

現世元法町見辨疑

卷之四

二

演へテ國圖ノ要用ニ備ル者ナリ。委クハ口傳ニ非レハ辨シ難シ

國圖ノ事其ノ大略ヲ述タリト雖トモ。用法器物ニ於テ不替ノ事有リ。第一小圓ヲ百ニ拾方ニシテ。規矩元器ニ置テ杖ノ頭ヲニ居へ。方位ヲ亂ス事。山野曠原ニ於テ。器物ニ風當リ針居ルコト無ク。正子午ヲ得ル事難シ。第一針少クシテハ直線定マラス。此ノ器ヲ以テ數度測リ試ルニ其誤リヲ得ル事多シ。且ツ高低ヲ見通スニ。規矩元器ニ櫓ヲ設ケ。櫓ニ糸ヲ曳キ。目的ヲ見テ方位ヲ究ル

ト云事最モ不可ナリ。方針ヨリ糸離レテハ。直線定マルヘカラス。元ヨリ小圓ノ方針小サケレハ。益ク差ヒ有ル事ナリ。然レトモ大丸盤ニ三百六拾方ヲ刻テ用ユト有レハ。小圓規矩元器ノ類ハ。席上庭中ニ於テ替古ノ為ニ用ユル器ナルヤ。然ルニ後人誤リテ。此小圓規矩元器ヲ以テ實測ノ器物トス。寔ニ平陸狭少ノ用ヲ知テ。彼ノ大河深山人跡絶タル。嶮岨ノ地理有ル事ヲ辨へス其事ニ臨マスシテハ。是等ニ意ヲ寄セサルモ亦空也。磁石ノ方針ハ繪國第一ノ重器ナリ。故ニ見盤方

隅ノ配分。別ニ制法アリ。口傳ニ非レハ辨ニ難シ。
 第二野帳圖風影ノ事。測リ求ムル方隅ヲ番毎ニ。
 道路ノ間數及ヒ左右ニ。某林木某寺院ト記ス而
 已ニテハ。繪圖認ムル時ニ臨ンテ。疑惑生シテ事
 ニ滯ル事アリ。又日々見ル所ノ番付累ナル時ハ
 方針ノ業ニ心カ勞レ。平生ノ旅行ヨリ疲勞倍ス
 ル故ニ。其地理山川村里ノ形勢。翌日ハ皆忘却ス
 ル者ナリ。唯圖ヲ認ムル時ニ至テ據トスルモノ
 ハ。此ノ野帳ヨリ外ナシ。其時ニ至テ疑ヒヲ生シ。
 又前ノ場へ立歸テ糾シ見ニトスレハ。行程遙ニ

隔リテ容易ナラス。強テ再見セントスレハ。日數
 民カ費エルノ害アルカ故ニ。自ラ忙然タルノ三。
 去ニヨツテ此野帳ヲ記ス事。繪圖ノ眼目ナリ。其
 法委細別ニ習ヒ有リ。口傳ニ非レハ辨ニ難シ。第
 三。遠山假目的並ニ遠里ヲ積ルノ二術。吾子問所
 ハ其ノ一端ノ三十リ。按スルニ此二術ハ三所ノ
 矩ナリ。地理ヲ糾ス極要ノ大事ナレハ。委ク傳へ
 サルト見ヘタリ。口傳ナレハ今是ヲ論セス

規矩元法町見辨疑卷之四

見巨元法町見辨疑

卷之四

二十一

規矩元法町見辨疑卷之五

東都 島田 源道桓 著

崎陽 西川 源正休 閱

第四繪圖ノ紙ニ白線ヲ曳ク事。分間ノ定メニ因
 ルヘシ。又五寸四方ニ紙ヲ切裁キ。十字ヲ引テ用
 ヲト云事未タ考ヘスト雖トモ。子午ノ正線皆十
 差フヘシ。用テ益十シ。不替ノ事ナリ。但シ白線ヲ
 引ニ。常ノ如ク曳キテハ業ニ疑滯スル損アリ。習
 ヒ有ル事ナリ。第五二分度ノ矩。虎法器ノ事甚タ
 傳ヘ誤レリ。今世間ニ貯フ所ノ器ヲ以テ見ルニ。

子ノ初分ト指ス所口ハ。子ノ正中ノ線ニテ。子ノ五分ト指ス所口ハ。丑ノ初分ナリ。丑ノ中線ヲ子ノ終リトス。虎法器又然リ。此ノ如ク誤リタル器ヲ以テ紙面ノ十字へ中ツル時ハ。方針ノ實方位トハ。皆斜ニナレリ。先年或人此ノ分度ノ支分ヲ用テ。圖ヲ定メタルニ。又一人ハ正子午ノ方位ニ因テ制シタル圖ト合セ校ルニ。方位相違ヘリ。後日ニ正シ見ルニ。分度ノ誤リヨリ出タルヲ知テ。笑ヒト為ルヲ聞ケルト云。說有リ。量地指南ニモ分度ノ矩ヲ大寶神器ト云。方圓ノ理ヲ盡シ遠

近廣狹ノ方角ヲ量リ。規矩兼備之要物也ト載夕リ。然リト雖トモ此ノ器ニ方角ノ謬リ有ル事。前段ニ述ルカ如シ。方圓ノ理ヲ盡スト云ハ。天圓地方等ノ理。三四五ノ形ニ協フヲ以テ云カ。此外角形ヲ發シ。圓徑ヲ摸スニ。用法有ト雖トモ柄針ノ中心ノ線ヨリ。小差ヲ生シ。實ノ角形圓徑ニハ用ヒ難シ。斯ノ如キ怪シキ器物ヲ神器ト云ヘル事不審ナリ。當時多クハ。此ノ分度ヲ用ユルト見ヘタリ。笑フヘキ也。正子午ヲ正シ改ムルノ法別ニ傳有リ。今辨セサルノ三。總テ繪圖ヲ制スルニ種

種ノ心得有ルヘシ。國圖等ハ其業大キナレハ一
已ニテ極メ盡ス事能ハス。其大小ニ依リテ。其ノ
役者ヲ幾手ト定メ。國中郡中ノ川々道々。其手分
ケ定メ有ルヘシ。次ニ圖ヲ仕立ル事。兩日見テ一
日仕立ルカ。又翌日仕立ルカ。其日々仕立カ此ノ
如クセスシテハ。上ニ述ルカ如ク。其回リ糺シタ
ル所。忘却シテ覺ヘサルモノナリ。繪圖ノ差忒
皆十此ノ急リヨリ出ル也。次ニ方針ヲ見テ方角
ヲ糺ス者甚タ勞スル役ナリ。番付累ル時ハ。毎日
日中ヲ過レハ。心氣衰ヘ盤面前方ノ支分ヲ呼事

多シ。故ニ方針ヲ見ル者ハ。二三人ヲ好シトス直
線ヲ得ルニ一人ニテハ最モ危シ。此ノ外間數ヲ
糺ス者。目的ノ標物數多入モノナリ。並ニ左右ノ
圖風影草圖ヲ書記スル者。其ノ間々小キ形ナハ
別ニ略ノ盤ヲ用ヒテ糺ス者。働ノ人斯ノ如ク役
者ヲ分ケスシテハ滯フル事アリ。目的ノ標地枕
略ノ見盤。水繩間竿等ノ制法。人數割リ。一日ノ行
程。日數積リ。手ヲ合スル評議。品々委細ニ躰認有
ルヘシ

附タリ國圖ヲ極メ。地理ヲ正ス事。細密ナ

ルヲ好シトス。然レトモ余リ細密ナラン
ト其業ニ泥ム時ハ却テ無益ノ事ニ滯滞
シテ用ヲ闕ク事多シ。心得アルヘシ。凡ソ
方針ヲ振テ方角ヲ糺スヨリ始マリ。清繪
圖ヲ認ニ至テ。數度誤ルヘキ事有リ。第一
方針ヲ建テ。見盤ヲ居ルニ。番毎ニ居直替
ルヘシ。第二見當ノ標ヲ建ルニ。番毎ニ直
斜替ルヘシ。第三間數ヲ打ニ。番毎ニ小差
有ルヘシ。第四紙面ノ厚薄ニヨリテ。四直
ノ積ニ伸縮有ルヘシ。第五白線ノ巨細ニ

随テ。真矩ノ直線差ヒ有ルヘシ。第六分間
ノ寸分ト。其地ノ間尺ト差ヒ有ルヘシ。第
七圖寫ノ器物ノ三拾方ト。見盤ノ三拾方
ト。支毎ニ分度均シカルヘカラス。第八圖
寫ノ器ヲ紙面ノ十字ニ改メ移ス毎ニ少
ク差ヒ有ルヘシ。第九方角ノ針穴ヲ突ニ。
大小斜直ノ小斜有ルヘシ。第十繪圖ノ中
清書ヲ新夕ニ寫ノ時小差有ルヘシ。第十
一清繪圖ヲ仕立テ。丹青ヲ施スノ時ニ至
マテ。始終十一度移リ更ル事有リテ。差ヲ

生スヘキノ理ナレハ。最モ心ヲ用ユヘキ
事ナリ。然トモ一向ニ業ニ混テ。其大格ヲ
失フ事勿レ。大概初學ノ為ニ答ルノ三。此
篇次ノ北極ノ答ト。交ヘ考ヘシ
問北極並八星量天尺ノ傳ト云コト有リ。當
時町見ニ鳴ル人ニ因テ。普子ク尋子問ト雖
トモ。其傳ヲ詳カニ傳ヘタル人無シ。或町見
者ノ曰。規矩元法ハ地理ヲ盡スノ用ナリ。凡
ヘテ目ノ及フ所ハ量リ盡スノ理ナレハ。北
極ノ高遠ナルニ至リテモ測ラスト云事ナ

三。然レトモ至テ大術ナリ。是ヲ測ラハ開キ
五百里モ索メサレハ量リ難シ。其ノ術先ツ
八星ノ傳アリ。天星天子ノ徑リ八度半ナリ。
是ヲ以テ其ノ間ヲ地ノ八間半ニ移シテ。天
星ヨリ三間半ヲ極座トス。北極ハ日本ヨリ
斜メニ見テ。日本ハ北ヘ倚タル國ナリ。故ニ
三拾六度有リ。是ヲ量ルニ量天尺ト云器ニ。
下ケ糸ヲ付ケ見通シテ。其ノ糸ノ下リタル
所ニ印ヲ付ケ。開テ見ヘキ所ヘ至テ是ヲ見
ルニ。糸ニ差ノ首尾形顯ハル其ノ差ヒヲ以

テ五百里トシ。糸ノ上ヨリ徑リノ金ニテヲ
量リ。高サヲ知ル。南北ノ働ラキト云有リ。丸
ク曲リテ開ケハ。繩弛ニリテ首尾形顯レス。
故ニ南へ直ニ開テ視へシト云ナリ。是ヲ南
極ノ働キト云。此外地周九萬里。東西地貫二
萬八千里。南北貫三萬一千里。斯ノ如ク。地理
ヲ辨セスシテハ測リ難キ大術ナリト。奥深
ク説キ述ルト雖トモ。未タ委シカラス。故有
ルヤ否ヤ冀クハ其ノ詳ナル事ヲ聞カニ
答曰此ノ段甚夕傳へ誤タル妄誕ナリ。固トニ笑

フヘキナリ。先ツ北極ノ高サヲ測ルヘキト。何ニ
因テ考へタルヤ。北極ノ出地幾何度ト云ヲ以テ。
是ヲ地上ヨリノ直高トシ。開テ見レハ差ヒ有ル
ヘキト思ヒ山嶽ノ高低ヲ量ル。進退ノ意ヲ以テ。
南へ五百里開キ見ト云ハ。能キ作意ナリ。然レト
モ南五百里ニ國有ヤ。海中ナルヤ何ヲモツテ地
理ヲ辨シ何ヲ以テ南へ五百里ノ里程ヲ知ルヤ。
又五百里ノ内ヲ平直ノモノト思ヒタルモ云ニ
足ラス。此ノ八星ト云ハ。何レノ星ヲ云ヤ。北極測
量ニ用ヒハ紫微宮ノ星ナラン。紫微中ニハ。勾陣

ノ六星極ノ五星ト云ハ有リト雖トモ。八星連テ
測量ノ目的トナルヘキ星無シ。天星天子ト云ハ。
天皇太子ノ訛リ乎。天皇太子相距ノ度何ニソハ
度半ナランヤ。又太子ハ光明著シト雖トモ天皇
ハ甚夕微少ニシテ光明無ク。測量ノ目的ニ用ヒ
難シ。且ツ兩星相距ノ度数。八度半ヲ以テ大地ニ
摸シテ量ルト云事。此ノ八度半ト云ハ。自ラ測リ
求メテ云ヘルカ。兒童ノ弄フ赤本ト云アリ此等
ノ説ヲ以テ云乎。笑フヘキナリ。又地周九萬里ト
云ハ。最モ實説ナリ明人ノ所説ニシテ。月令廣義

天經或問三才圖會。此ノ外諸書ニ載スル所。皆十
地周ヲ以テ九萬里トシ。且ツ本邦及ヒ外夷ノ實
測。皆十中華九萬里ノ説ニ相合フ。故ニ今ノ天學
家皆此ノ里ヲ以テ地理ヲ明スナリ。又東西南北
ヲ以テ貫ト云ハ。地球東西南北ノ全徑ヲ云乎。東
西ノ徑二萬八千里ト云ハ。凡ソ九萬里ノ説ニ近
ケレハ最モ空ナリト雖トモ。南北三萬一千里ト
云ハ。何等ノ説ニ因ルカ。是レ明朝以前ノ説ニシ
テ。斯ノ如ク地形ヲ以テ東西ヲ短クシ。南北ヲ長
クスルノ説アリ。都テ漢ヨリ元ニ至リテ。諸家説

ク所ノ。天地ノ里程甚夕多ト雖トモ。皆取リ用ユ
ヘキ説無ク。元ノ耶律楚材ト云者。地周十二萬里
ノ測有リテ。過半今世ノ測數ニ相親シト雖トモ。
此スヲ用ル事無シ。何ソ東西短ク。南北長ノ説ヲ
用ユルヤ。古説ニ地形ヲ以テ鷄卵ニ譬フル者ハ。
地形ノ南北廣ク東西狹キノ謂ニハ非ス。誤ルヘ
カラス。又北極ヲ測ルニ。五百里ヲ開ト云。九萬里
ヲ日本ノ里程ニ改タメ。一萬五千里トシテ。五百
里ヲ三拾分ノ一ト見タルカ。北極ヲ直立ノ者ト
シ。地球ヲ平直ノモノト思ヒタルハ論スルニ足

ラスト雖トモ。後學ノ惑ヒヲ止シカ為メ大略ヲ
答ル而已

竊カニ按スルニ。此ノ北極ノ傳ト云ハ。前段國圖
ノ地理ヲ究ムルト云ヨリ。其用法ノ大小ニ依テ
替レル事ヲ云ニ為メ。此ノ傳ヲ擧タリ。北極ヲ測
ルハ地理ヲ極ムル根元ノ要用ナリト雖トモ。祕
事シテ普子ク傳ヘス。適傳授スト雖トモ。其ノ事
理ニ通セサルカ故ニ。段々傳ヘ誤リテ。中頃ヨリ
其傳ヲ失フト見ヘタリ。後人は是ヲ知ラス。唯北極
ノ高遠ヲ量リ知ル事ナラント臆説ヲ附會シテ。

誤リヲ後來一傳へ。今ノ人知ル事ナキモ亦空也。前段ニ傳ル國圖ハ。一國一郡ヲ究ムル術ニテ。世界萬國ノ地理ヲ極ムルニ至テハ。其ノ業ナ大ニ替レリ。其如何ニトナレハ大國ハ水陸數千里ニ亘テ。廣大ナレハ細密ニ糺シ量ルコト人カ及ハス。且ツ其ノ國々ニ從テ水立各異ナリ。是ヲ正ニ測ルハ。南北樞軸ニ因テ。兩極出地ノ度數ヲ窺ヒ。其ノ國ノ寒熱温涼四時氣候ノ各不同有ルヲ知リ。節氣晝夜ノ長短刻分ヲ察スル事皆ナ此ノ兩極出入ニ因レリ。故ニ一國一郡ノ圖ヲ究ルニ至

テモ。亦此ノ道理ヲ用ヒテ。其極要三矩ヲ本トシ。地形ノ高低直徑ヲ得テ。均シク平直ノ紙面ニ摸シテ。其ノ形ヲ全ク備ル。是レ兩極ヲ測ルノ理ヲ出テスト云。其ノ本源ヲ明ニセンカ為メニ國圖ノ次ニ此ノ論ヲ擧タル者ナリ。然ルニ今マ地周貫ノ事マテ取合セ。惑ヲ重ル事。恐ルヘキナリ。猶其本源ヲ知ラント欲セハ天學家ニ入テ蘊奧ヲ明ムヘシ。深口傳アレハ辨セサル而已。凡ソ國圖ヲ制者。人君國家ヲ治メ。政ヲ施ス第一ノ至要ナリ。其ノ故如何トナレハ。中華ノ國圖ヲ

矢矢ヲシテ日ノ辛矣ノ 卷之五
極ルカ如キ。國郡各北極南極出入ノ度数ヲ窺測
シ。其ノ國ノ寒熱温涼。四時氣候ノ大較ヲ知り。晝
夜長短ノ刻分ヲ究。各相距里差ヲ究テ曆數ヲ密
ニシ。節氣月朔ヲ正クシ。民ニ時ヲ授ク。曆ハ天下
ノ重事ニシテ。堯舜羲和氏ヲ四方二分ケ。中星
ヲ窺ヒ。璣衡ヲ在カニシテ。測量ヲ細密ニシ。四時
ヲ正シ。曆象ヲ齊ヘテ。人時ヲ授ケタマフ遺法ニ
シテ。人君政務ノ至要ナリ。欽シムヘキ者ナリ
又。測量地指南ニ。量地術ノ徳ハ不昇シテ天
ノ高サヲ測リ。不至シテ地ノ厚サヲ察シ。不

入シテ海ノ深サヲ知り。或ハ日月ノ運行ヲ
測テ。曆ヲ造ルト云云。是ナルヤ否ヤ
答曰。此ノ説何ニ因テ云カ甚ク虚妄ノ説ナリ。天
ノ高サヲ量ルハ九天ノ測量ヲ云カ。地ノ厚サ察
ルハ。地球ノ全徑ヲ量ル事カ。斯ノ如ク高遠深厚
ヲ測量スルハ。彼ノ書ニ載タル五術ノ内何レノ
術ヲ以テ量ルヤ。論スルニ足ラス。此ノ術ヲ以テ
日月ノ運行ヲ測テ。曆象ヲ造ルト云コト。實ニ兒
童ヲ欺クノ虚説。是又論スルニ及ハス。又海洋ノ
深サヲ測ルト云ハ。海底何ヲ目的トシ。何方ニ開

ヲ求テ海底ヲ測ルヤ。是皆十町見ノ本意ヲ知ラ
ス。天文地理ノ事業ヲ以テ。此ノ術ノ事業トシテ。
世ヲ惑シ人ヲ誣ユ學者必ス此ノ説ニ惑フ事勿
レ。今勞イヌカハレク此ノ辨ヲ省略ス

又問。規矩分等ト云。町見ノ雜書アリ。此ノ書
二。西川先生ノ日本水土考ヲ引テ國ノ北極
ノ高低アルハ。土地ノ高下ニ因ルト云ヘリ。
是ナルヤ

答曰。北極ノ高低ヲ以テ土地ノ高下ト思ヒタル
ハ甚夕突ニ堪タリ。都テ規矩分等ノ諸説最モ誤

リ多シ取ル事勿レ

問。舟路ヲ積リ。並ニ度數之制湊之種捨糸之
法用捨ノ理洋中之辨刻器磁石之用ト云傳
有リ。廣大ノ地理ヲ極ルニ至テハ。船路ノ辨
ヲ明ニセスンハ。測リ求メ難キ故ニ。此ノ傳
有リ。今世町見ニ鳴ル人ニ。普子ク尋ト雖ト
モ。其ノ術委シカラス。然ルニ或人云ヘルハ
此ノ傳秘訣ナリト見ヘテ。免許書ノ中ニモ
此ノ舟路ノ條目並ニ器物ノ名目而已ヲ著
シテ。一世ヲ限リテ此ノ傳ヲ上ト記タリ。然

レハ知ル人無キモ空ナリト云ヘリ何ヲ以テ古人秘訣トシタルヤ不審シ。冀クハ其ノ旨ヲ聞ニ

答曰。船路ノコト書目ニ因テ見レハ町見ノ術ニモ非ス。國圖ノ用法ニ似テ又遠シト雖トモ北極ト云ヨリシテ其ノ事業ヲ廣クシ臆説ヲ誤テ傳ヘタリト見ヘタリ。然レトモ今マ吾子ノ問所ノ或人ノ説不審ナキニ非ス。意味有ルヘシ按スルニ此ノ傳最モ秘訣ナルヘシ。今舟路ト云ヘルハ行舟比呂宇土ノ事カ此ノ術ハ世界ノ萬國一行

舟スルニ加留多ヲ以テ洋中ノ方位ヲ辨シ。久和土呂和牟以湏多羅比ノ類ノ測器ヲモツテ南北ノ緯度極ノ出地ヲ量リ。呂宇佐ヲ以テ方位ヲ知り。距度率ヲモツテ洋中ノ里程ヲ知り。其ノ居ル處口何ノ洋中ナルヲ知テ。其ノ志サス湊ヘ到ル。此ノ術用所ノ器物數品アリト雖トモ第一圓規ヲ以テ板圖ノ線ヲ量リテ。里數ヲ知り。羅經ヲ以テ方位ヲ知ル事。此ノ術ノ要用ナリ。夫レ天地ノ間事業甚タ多ト雖トモ萬國各人用テ達シ。諸物ヲ通用シ本邦儒佛ノ道ヲ知り。唐土天竺及ヒ諸

邦外夷ノコトヲ聞キ。居ナカラ千里ノ錦綾ヲ服
シ。萬里ノ美味ヲ食フ者ハ。異船ノ行舟アレハ也
人馬アリト雖トモ。歩ミテ海洋ヲ渡ルコト能ハ
ス。人事ノ重宝此ノ術ニ如ク者無シ。上ニ記カ如
ク人間生命ニ關ルノ事業ナレハ。知ラサルヲ知
ラケルトシ。臆説ヲ附會シ。猥リニ傳ル事ナカレ
深キ口傳有事ナレハ。今茲ニ辨セス

附タリ今世ノ町驗者町見ニ用ユル。久和
土呂和牟ト云器物アリ。此ノ器モト町驗
ノ器ニ非ス。何ソ此ノ器ヲ以テ高低遠近

ヲ量リ知ルヤ。蠻語ニ久和土呂ト云モ。天
度ヲ量ル制作ニ依テ。久和土呂ト云星度
ヲ量ルヲ以テ唐人是レヲ星尺ト云。此ノ
外崎陽ニ來レル外夷ノ諸國。各名有リト
雖トモ。器物ノ形狀ニ於テハ。異ナル事ナ
シ。唯今ノ久和土呂和牟ト云モノ。此ノ制
ニ異ナリ。是ヲ以テ町見ノ器物トスル者
甚夕誤ナリ。初學ノ為ニ是ヲ云ノミ
問某シ少シ時ヨリ町見ヲ學フト雖トモ。愚
昧ニシテ其ノ理ヲ辨セス。今マ足下ノ答ル

ヲ聞テ初テ醒タルカ如シ。前段ニ問所ノ外
 猶諸術アリト雖トモ。皆一理ナリ然レトモ
 祕事ト稱シテ傳ヘタル事アリ。是ヲ問ハス
 シテ止ニモ本意ナシ。今其條目ヲ舉テ一
 ツニ損益ヲ問コト左ノ如シ

一短目
 短積之働 心中傍爾

一開扇
 左望右寫 右標左指 心胸之分回

一白波

一 道橋 槽 華表

一 水月
 甲シ假杭並望之間 覓跡用法

一 天口量
 甲シ傍爾 付廣狹 前面縱橫見込
 進退差之用捨

一 山谷 紮高卑
 紮空間 付口量 方尺水盛并數之目標
 再見之法並方尺分量
 量地指南ニ是ヲ山谷數知方ト云

一必中

假目的之働 天口量分 方尺分量並割

盤 根發再望

一軍士量

前面運行 廣狹步積 舛形積

風呂積 付四八

一猿猴術

見盤向延 真矩用法 標之目當

徑系之定 元器用法

一左右平町

量地指南 二是ノ兩地一開方ト云

一沼河平町重

量地指南 二是ノ一知兩開方ト云

一出火程量

相圖之矢倉 手狼煙 立覽器之働

一指无邪

陰尅 陽火

一已尺之用真分度

一勾股絃徑矢弦步積

一艸結 分基 割盤

見巨元去町見詳是

一 現差用捨 聚不盡

一 九物平町

一 量地指南ニ是ヲ圓知正開方ト云

一 土手陰之木知高

大略右ノ箇條其ノ術今マ具ニ言語ニテ演
ルカ如ク。皆十平町勾股弦ノ理ナリ。以テ實
測ト成ルヘキヤ否ヤ

答曰。此等ノ事。皆ナ前ノ答ヲ以テ推察スヘシ。勾
股弦ノ理ヲ以テ作意セハ。其條目許多ニ及フヘ
シ。無益ノ筆紙ヲ費ヤシ。斯ノ如キ條目ナ多ク建

タル者ハ。量リ無キヲ云ニ為ナリ。此術要用人事
理。皆十中頃ニ至リテ絶滅ス。故ニ後人無用ノ數
術ヲ作為シテ。人ヲ誘ク。又諸術器物舊器ト稱ス
ル。條目勝テ計フヘカラス。初學能ク心ヲ用ヒテ
誤ル事勿レ。按スルニ。町見ハ平町。國圖。北極。舟路
ノ四術ニ止マル。此ノ四術ヲ能ク練熟シテ。各其
場ニ隨テ用ユル時ハ。變化極リ無シ。能ク心ヲ用
テ學フヘキ者ナリ

規矩元法町見辨疑卷之五

見矩元法町見辨疑

享保十九年寅五月

江戸日本橋松葉軒

書舎 萬屋清兵衛

川

